素燒の内部に波紋ある堅牢の物を製した跡である。元來鏡谷は製陶所として最も古く國史に著れたる地であり、隨つて此の山の溪間なほ所々に其の阯がある。

坊主谷窯阯　近江線八日市驛より八粁　省線稻枝驛より附近までバスの便あり

愛知郡角井村大字園字坊主谷にある。先年新道を開いた際、窯阯の一部破壞す。此處は頂上まで十二米程の南面せる緩傾斜地で、附近に陶器の破片散亂し、陶土の溶解せるもの、木炭燒土殘留す。石英斑岩の溶けた個所あるのは石が直接火に接したものなるべく、その火力の强きことが知られる。奈良末期、平安初期の窯阯であらうか。

墳　墓

フェノロサー墓　東海道線大津驛より三、二粁　京津電車線兵營前

大津市別所三井寺山内法明院に在る。エルネスト・フエノロサーは米國人でボストンに生れ、明治十一年來朝し、東京大學で講義をしてゐたが、のち古美術の研究に專念し、わが美術の眞價を邦人に自覺せしめ、またそれを世界に紹介した。日本支那古美術に關する著書が倫敦から出版されてゐる。のち、一九〇八年(明治四十一年)倫敦で客死したが、遺言によつて、生前、法明院主敬德和尙より受戒した關係で、法明院の地に葬つた。

新羅義光墓　同大津驛より三、一粁　京津電車線兵營前

同市別所にある。新羅明神の南西一町の東面傾斜に營まれ、櫻樹に圍まれてゐる。義光は源頼義の三男で、新羅三郎と稱したが、晩年三井寺に入り、大治二年に歿してこゝに葬つた。

智證大師廟　同大津驛より一、八粁　京津電車線三井寺下

同市別所三井寺山内にある。灌頂堂の裏にある檜皮葺三間足らずの堂で、平素は常侍する者が出入するのみである。中に三厨子があり、その中央はもと比叡山上山王院に安置してあつた大師の像、左は大師の御骨を納めた所謂大師像、右が大師信仰の本尊金色不動明王(黃不動)である。

慶祚阿闍梨廟　同大津驛より一粁　京津電車線長等公園下

同市長等公園にある。公園の入口を少し南へ登つた小高い所に石窟を營み、前面には玉垣をめぐらし、内に慶祚阿闍梨の石像を安置してある。阿闍梨は園城寺の僧で、開祖智證大師の尊像を比叡山

上から背負つて三井寺へ移つたと傳へられる。

小野、石原代官墓

同大津驛より〇、七粁
京津電車線札の辻

同市上榮町本長寺にある。慶長以來の大津代官小野氏一族を埋葬したもので、十二代歷代の巨大な板碑式石塔が並んである。またその後に大津代官となつた石原氏の石塔も現存する。

若林强齋墓

同大津驛より二粁
京津電車線札の辻

同市小關字五本櫻共同墓地にある。五尺方形の石柵内を石で疊み、中央に南面して二重の台座上に石塔を建つ。長さ二尺八寸、幅一尺六分。表に若林强齋先生之墓と刻し、裏にその略歷を記してある。强齋は京都の人で延寶七年七月に生れた。名は進居、俗稱を新七といひ、强齋はその號である。晩年には自牧とも稱し、その居宅を望楠軒といひ、享保十七年正月に五十四を以て歿した。勤王の首唱者なる贈從四位淺見絅齋の高弟で、學德高い儒者である。昭和三年十一月正五位を贈られた。側にその父長軒の墓がある。

木曾義仲墓

同膳所驛より〇、二粁
京津電車線馬場

同市馬場義仲寺にある。朝日堂の前、西向で周圍に石柵をめぐらし、石壇上に總長四尺二寸の寶篋印塔を建てゝある。此の墓について黑川道祐の天和三年の紀行に、「土人の家の後園に木曾義仲の塚あり、其の上に柿の木一本之を徵となす。さしも猛威を振ひし義仲も今一堆の土とのみ殘れり」と記し、その後四年を經た貞享四年の石山再來記に「木曾義仲の塔あり、初め土饅頭の上に柿の木一本あり、近き頃淨土宗の發心者諸人の多力により、寶篋印塔を造り、傍に小庵を構へ彌陀像を安置す。最やさしく覺ゆ」とあるから、古來の塚を現在の石塔とし、寺を建てた由來が知られる。

芭蕉翁墓　同前

同所。木曾塚の南四米を隔てゝ石柵を設け、内に三和土に臺石三段を重ね、自然石の高さ二尺四寸に芭蕉翁と刻してある。元祿七年十月十二日、大阪の寄舍で年五十一で歿した松尾芭蕉を門人等がこゝに埋葬したもの。高弟榎本其角が枯尾花に載する終焉記にいふ、

翁は長月晦の夜より床に倒れ、夢の覺めたるはとて、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」、又「枯野をめぐる夢心」ともせばやと申されしが、是さへ妄執乍ら風雅の上に死なん身の切に憶ふ也とて悔まれし。此翁「先頼むべの木もあり」と聞えし幻住庵は浮世に遠し。木曾殿と塚を並べてと有りし戯も後の語り句になりぬと思へば今更に臨終の聞えもなし。麗しく眠れるを期として川舟にかきのせ、伏見より義仲寺に移して形の如く木曾塚の右に並べて土盛き納めたり。自らふりたる柳もあり、かねての墓の契とならん。其の儘卵塔にまねび、荒垣

をしめ冬枯の芭蕉を植ゑて名の形見とす。云々

墓の前に十二尺を隔てゝ北向に翁堂がある。方丈の茅葺、瀟洒たる小堂で、翁の木像を安置してある。これは寶暦十年京都の俳人蝶夢が建てたもので、楣間に蕉門三十六大家の俳句を掲げてある。

龍ヶ岡俳人墓　同膳所驛より〇、七粁　京津電車線馬場

同市馬場字龍ヶ岡に俳人の墓十七基ある。此の地はもと芭蕉の高弟内藤丈艸が佛幻庵を結んで、師翁追福のために一字一石の經塚を築いたが、翌年歿してその側に葬られたに始まり、代々正風の俳士、こゝを靈域として墓を作り、明治十二年に歿した蟻洞にまで及んでゐる。大正十四年縣保勝會標石建設。

今井兼平墓　同線石山驛より〇、五粁　京津電車線石山驛前

同市膳所町別保に在る。もと中庄すぐろ谷に僅の塚があつたのに膳所城主本多俊次が墓石を建て、後、寛文七年にいまの地に移したもの。卵塔形で石柵をめぐらしてある。兼平は木曾義仲の臣で、壽永二年正月義仲と共に、粟津原で戰つたが遂に衛盡きて自戮したものである。

淳祐内供墓　同石山驛より二粁　京津電車線螢谷、バスの便あり

同市石山寺邊町石山寺境内、鐘樓の眞下にある。花崗岩の寶塔で、相輪が下八輪を殘して上端を缺失してゐるが他は完好のもの。二重台座にのり、現存部の高さ五尺八寸、上層台座には四面に格狹間を掘つてゐる。足利中時代の製作であらう。朗澄墓とも傳へるが、こゝはもと内供の住房普賢院があつた所といふから、淳祐内供の墓とすべきであらう。

惡源太義平墓　同石山驛より三粁　京津電車線螢谷

同市石山寺邊町字伽籃山にある。伽籃山の南麓田圃に接して花崗岩製の寶篋印塔である。相輪は失はれて存しないが、他はもとのまゝ存し、現存部の高さ三尺七寸五分を算する。臺座の三面に格狹間を刻し、塔身の四周に四佛の梵字を圓光に入れて刻してある。足利時代の製作であらう。義平が逃れてこの附近に隱れてゐたのを發見されて、こゝで殺されたと傳へられ、隱れ谷の名も傳はつてゐる。

森可成墓　江若線日吉驛より七粁　濱大津よりバスの便あり

滋賀郡下阪本村比叡辻、來迎寺にある。開山堂の左側に、大きな五輪石塔で、四重の台座にのつてゐる。地輪正面に「心月淨翁居士」、裏面に建立の事由を記してある。三左衛門可成は信長の勇將

で、夙に滋賀に城を構えてゐたが、元龜元年阪本の戰に、當時小宇瀨戸在家で討死したので、時の來迎寺住持眞雄和尙がその死を悼み、秘にその首級を持歸つて、此の地に葬つたといふ。時に年四十八才。なほ森蘭丸は可成の子である。

天海僧正墓　江若線叡山驛より一、二粁　京津電車線松ノ馬場

同郡阪本村、作道町より東照宮へ上る路にある。寛永二十年十月寂し、正保元年建立。廟は同時にこの他に日光山、東叡山にも營まれた。

紀貫之墓　ケーブル叡山中堂驛より二、二粁

同村裳立山に在る。周圍三十二尺、高さ四尺の塚上に小石佛及び「木工頭紀貫之朝臣之墳」と刻した石碑を建てゝある。貫之は古今集撰者で天慶九年に薨じた。この墓所は明治初年に確定せしところ、同三十八年從二位を贈られ、四月に勅命使が參向した。明治四十四年に高崎正風撰文の碑をその側に建設した。

傳敎大師廟　ケーブル叡山中堂驛より一、五粁

同村比叡山上にあつて、淨土院といふ。大師は弘仁十三年六月、世壽五十六で中堂院に於て示寂せられたが、のち、仁壽四年に法弟がその遺骸をこゝに納めた。清和天皇の貞觀八年に傳敎大師と謚せられた。

眞盛上人廟　江若線日吉驛より二、二粁　京津電車線坂本

同村五軒町西敎寺境内にある。方一間半の御廟の中に八尺程の巨大な花崗岩五輪塔を安置してある。上人は明應四年伊賀にて遷化されたので、墓地は彼の寺にあり、こゝは御廟のみ。

明智光秀墓　同前

同寺境内、本堂に向つて左方一段高い所にある。高さ六尺六寸の花崗岩の自然石を板碑式に面を作り、その上部に彌陀三尊の梵字を現はし、その下、中央に六字名號を大きく、右方に天正十年末六月十三日、左方は秀岳崇光大禪定門と小書してある。光秀が坂本に居城し、西敎寺との關係深く、以前の本堂も彼の一建立になつた事をも傳へられる程であるが、埋葬顚末は詳かでない。

勾當内侍墓　江若線堅田驛より一、八粁　大津よりバスの便あり

同郡堅田町字今堅田字野神の野神々社にある。方三尺、高さ一尺一寸、四個の花崗岩より成り、石の玉垣を環らす。神社は内侍を祀つたもので、内侍が新田義貞の戰死をきゝ、此の濱に入水したの

を葬つたと傳へる。毎年十月八日夜キチガヒ祭といふ奇祭を行ふ。

志賀清林墓　江若線近江木戸驛より半粁

同郡木戸村、西近江路に沿うてある。清林は本邦角力行事の元祖である。

木内石亭墓　東海道線守山驛より〇、九粁

栗太郡物部村大字今宿、日蓮宗本像寺にある。本堂前に二段の台石上に立つ墓碑形で、上に石亭處士之墓と刻し、下に來歴を記してゐる。石亭は同郡山田村の產で、近世に於ける鑛物蒐集研究の大家、同時に考古學の大先輩である。雲根志なる著書がある。文化五年三月十一日、年八十五で歿した。邸阯の條參照。

平宗盛墓　同線篠原驛より三粁

野洲郡篠原村大字大篠原にある。宗盛は平相國清盛の子となつて居り、正二位權大納言兼春宮大夫にまで至つた。壇の浦の戰に自決する事が出來ず、遂に捕はれて鎌倉に送られ、更に京師に送還せらるゝ途中、元曆二年六月廿一日、こゝでその子清宗と共に斬られた。時に年三十九。首は京師に送られ梟せられた。

近衛家墓　信樂線信樂驛より五粁

甲賀郡小原村小川大光寺にある。正應年間に近衛家基が領邑たる此の地に隱栖し、次いでその子經平も亦幽居、共にこゝに薨じたので、庶孫師俊と合せて三墓碑が並んでゐる。

木食上人墓　信樂線雲井驛より五粁

甲賀郡雲井村大字宮町所屬飯道山頂で、山頂にある飯道寺阯の、梅本院阯にある。地下四尺立方の石室を作つて、周圍を石で疊み、中央に高さ二尺の石塔をおき、是を蓋石で被つたもの。石碑には興山上人應其墓、慶長十三年十一月一日と刻してあつたといふ。上人は織豐時代の眞言宗の傑僧で、興山和尚、木食應其等といふ。關原戰の後、幕府に疑はれ、高野山よりこの寺に隱れ住み、慶長十三年十月、七十三才で示寂したが、しかし、こゝには埋葬されなかつた。（縣史蹟調査報告第五冊）

藤原藤房卿遺跡　同線三雲驛より三粁

同郡三雲村妙感寺に在る。その開山堂は後水尾天皇中宮東福門院の水口御殿を賜はつたもので、卿の法體の木像を安置してある。觀音堂裏に高さ四尺五寸に達する卿の墓と傳へる五輪塔がある。此

處は「世のうきをよそに三雲の奥深くてる月影や山住の友」と歌つた卿の隱栖地であると傳へ、卿は薙髪して授翁と號し、康曆二年三月、年八十五を以て終焉したといふ。萬里小路家は菩提所としてゐる。明治元年御東幸の際勅書金幣を賜ひ、大正六年陸軍特別大演習の際勅使差遣、九年宮内省より殿堂修繕費三百圓下賜、昭和二年その本山京都妙心寺より墳墓改修、微妙國師號勅賜の奉告をした。

遠藤良規墓　草津線石部驛より二、五粁

同郡石部町大字石部字俗稱岡山（青木ケ峯）にある。良規は近代有名な大原幽學の高弟で、下總國香取郡長部村の人である。通稱は良左衛門といひ、入京の途こゝに歿し葬られたもの。

鬼室集斯墓　近江線日野驛より七、五粁

蒲生郡東櫻谷村小野に在る。集斯は百濟からの歸化人で、天智天皇は之を學職頭に補し給うた。のち集斯等七百人この地に移つた。石碑は長さ一尺六寸で、表に「鬼室集斯墓」、右側に「朱鳥三年戊子十一月八日歿」、左側に「庶孫美成造」とある。文化年中西生懷忠の發見である。

蒲生定秀墓　近江線日野驛より四粁　同驛よりバスの便あり

同郡日野町村井淨土宗信樂院の東丘にある。定秀は蒲生氏郷の祖父貞秀智閑の孫で、日野城主。永正五年に生れ、天正七年三月十七日に七十二歳で歿した。法名は定秀院宗智。

奥東江墓　東海道線篠原驛より七粁

同郡鏡山村大字小口に在る。東江は儒醫で領主土井周防守に召され、唐津に仕へ、政治に參じて大いに治績あり、晩年には鄕土に歸つて寶永元年六月九日に歿した。年六十五。その墓誌は淺見絅齋の撰である。

織田信長廟　東海道線安土驛より一、七粁

同郡安土村安土城阯二丸の西に在る。石壘を環らして莊重である。信長は天正十年六月二日に京都本能寺で明智光秀に弑せられたが、その後、信長の武具をこゝに埋めて英靈を鎭めたと傳へる。但し天正十一年に信長を祭神とする神社が山上に營まれたといふ說は某石燈銘文の誤讀に基くものである。舊記によると、慶長九年豊臣秀賴之を修繕し、元文年中摠見寺住職更にその境域を修補したとある。なほ信長の墓はこの他、京都市寺町三條本能寺境内、同市紫野大德寺摠見院阯、同寺町今出川上ル阿彌陀寺境内及び岐阜市外崇福寺等にもある。

えちよ塚　近江線愛知川驛より五粁

愛知郡八木莊村大字蚊野外字輕野の墓地にある。高さ二尺四寸の小丘で、俗にえちよ塚と呼ぶ。近淡海蚊野別の祖、袁邪本王の末孫愛知王の墓と傳へる。その中心に花崗岩製寶塔があり、元德二年二月廿六日の銘文がある。塔の全長六尺七寸五分、其の臺石高さ六寸。この西に隣つて村社御靈神社があり、その森を「えちよう」の森、また「みとの」の森といふ。愛知王がこの地に住み給うたと傳へる。なほ口碑によると、墓はもと瓢形であつたといひ、寶塔には年號の外に近江國蚊野と刻せられたといふ。

北條仲時及び從士四百餘人墓　東海道線米原驛より三粁

阪田郡息郷村番場蓮華寺に在る。高さ三尺の五輪塔三百餘基が一區の内に數段をなして並列する。越中守仲時の墓は井伊直興藩主の時、同村内なる六波羅山上に移したが、五輪石塔で、丈水地輪のみ山頂に現存し、他は麓に放置されてある。元弘三年五月、北條氏の六波羅邸の守將北條仲時が、光嚴帝花園上皇、後伏見上皇等を奉じて東國に走らんとして、此の地に到つたとき、五辻宮守良親王を奉じた京極道譽の兵が之を邀へ戰うたので、遂に仲時敗れて一向堂の堂前で自殺し、從士四百三十餘人も亦自殺した。當寺の墓はそれら一隊の墓である。當時の寺僧がその姓名を記錄してゐるが、之は大正六年國寶に指定された。

京極氏歷代墓　同線柏原驛より二粁

同郡柏原村清瀧德源院にある。寺は佐々木京極氏の始祖、氏信以來の菩提所として建てられたもので、その院號は氏信の法名である。墓は氏信以後十八基の石造寶篋印塔で、墓地の最上段に並列し、各々その時代の特徴を現はしてゐる。その下方には慶長五年關ヶ原の戰に、大津に籠城して死んだ高次以來の墓が並んで居り、又南側と東側とには分家の人のを並列してある。高次の墓は石殿の内にある寶篋印塔であるが、石殿は悉く石で一屋舍を築造したもので稀有の建造物である。各時代の石塔が一所に集まつてゐるために、石塔研究には貴重な史蹟である。昭和七年三月、史蹟として指定。

北畠具行卿墓　同柏原驛より一粁

同村柏原丸山にある。砂岩製の寶篋印塔で高さ二米、臺石二尺二寸角、完好なものである。臺石に格狹間があり、その一側に貞和三年丁亥十一月廿六日の銘文がある。大正三年三月、地方有志が石

柵を環らし、卿の事蹟を顯彰する三島中洲撰文の碑を建設した。卿は元弘元年後醍醐天皇の笠置に行幸し給ふに扈從し、討幕の謀に參加せられたが、行宮の陷落で六波羅に幽囚せられ、翌二年五月に京極道譽に護送せられ、六月十九日、こゝで斬殺せられた。時に齢四十三。明治十一年明治天皇御通輦の際、勅使差遣祭粢料を賜ひ、大正四年大正天皇正二位を贈らせられ、大正六年陸軍特別大演習の際勅使差遣あつた。昭和五年十一月史蹟として指定。（縣史蹟調査報告第五冊）

覺道上人入定窟　北陸線虎姫驛より一一粁　同驛よりバスの便あり

東淺井郡上草野村字野瀬天吉山頂にある。大吉寺阯、本堂阯よりやゝ上方に石窟を營み、内に上人の像を安置する。その扉の内面に事の由來を上人の文字で銘記してある。大吉寺阯の條參照。昭和十年十二月史蹟として假指定。（縣史蹟調査報告第六冊）

小堀氏墓　北陸線虎姫驛より八粁　附近までバスの便あり

同郡田根村字上野字東山墓地にある。小堀政一、子政之、孫政恒、曾孫政房、玄孫政峯及び妻子等の墓石八基を存する。墓石の總長各三尺五寸、その主なる者は孤蓬庵殿大有宗甫居士（政一）、興雲院殿喜逢宗慶居士（政之）、法源院殿眞甫宗實居士（政恒）、松巖院殿天覺宗瑞居士（政房）、泰清院殿梅巖宗香居士（政峯）である。　材はすべて花崗岩を用ひ、毎基一對づゝ定紋を彫刻した花筒を添へる。墓地は同地なる孤蓬庵の管理に屬する。同地の孤蓬庵は小堀政一の子政之が始めて小室に邸宅を築き、京都より移り住むと共に、京都大德寺の孤蓬庵に模して建立した菩提所で、本堂の地、茶室、庭園に數奇を盡したが、今は廢滅して泉石が雜草の間に殘つてゐる。なほ小堀氏は遠江守正一の子正之が、東淺井郡小室に封ぜられ、慶安元年こゝに移り采地一萬六百三十石を領し、累代明治に及んだものである。

慈惠大師母墓　同虎姫驛より一、五粁

同郡虎姫村字三川字戊亥にある。二間に石柵を環らし、その中央に總長六尺五寸の花崗岩製石塔を建てゝある。大師の母は月子といひ、第五十八代光孝天皇の上北面、物部左衛門少尉法興の女で、仁和三年正月朔に生れ、昌泰三年秋九月年十四歳で、宇多天皇後宮に仕へた。延喜十二年九月三日男子を生み、日吉丸と名づけたが、日吉丸は十二歳で叡山に上り、理仙に師事し、年十七で良源なる法名を稱し、學德高く、康保三年には第十八代の天台座主となつた。是れ後に慈惠大師又は元三大師と呼ぶ高僧である。月子は三川に在り、天元三年七月七日年九十二で逝去、法名を妙顯禪尼といふ。大師その茶毘を乳野安養院で行ひ、其の舊居を寺としたが、之が今の玉泉寺であるといふ。

毛受兄弟墓　同線中之郷驛より三粁

伊香郡片岡村池原字新堂墓地に在る。天正十一年賤嶽の戰に戰死した毛受勝助、兄左衛門の墓である。卽ち此の役に勝家の軍が敗走するや、勝助、勝家に謂うて曰く、事急なり、君速に遁れよ、臣敵、秀吉を欺かん、と。そしてその金幣の馬印を請ひ、之を持して敵に向つて、勝家死を決す、と叫んで敵中に突進した。敵之に蝟集して勝助兄弟戰死した。勝家そのために間を得て北の莊に歸る事が出來た。明治九年中村栗園撰文の碑を立てた。

中川清秀墓　同線木之本驛より三、五粁

伊香郡余吳村賤ヶ嶽の東大岩山に在る。清秀は瀨兵衞と稱し、信長、秀吉の重臣であつたが、天正十一年秀吉と共に賤ヶ嶽に據り、大岩山の塞を守つたが、攻め寄する柴田勝家の軍は塞後に出て外營を燬いたゝめ、遂に敗れて自盡した。時に年四十二。その傍に殉じた家士數名の墓がある。

石田三成母墓　同驛より三粁

伊香郡高時村大字古橋字神使熊にある。墓石は砂岩製高さ二尺五寸の寶篋印塔で、その臺石に、中央に「□爲宗珍大禪定尼」、右に「石田隱岐守內方」、左に「文祿三年九月三日」とある。隱岐守は三成の父正繼である。傳へによると、三成が阪田郡石田の觀音寺に雛僧であつた時、當所法華寺に手習ひに來て居り、又母はこの寺に隱棲し歿したといふ。

松平大貳灰塚　江若線今津驛より一一粁　太湖汽船海津港

高島郡海津村正行院に在る。大貳は加賀前田家臣で、世子に隨ひ、元治元年歸國の途こゝで割腹茶毘。是は藩論が勤王佐幕に分れ、累を世子に及ぼすを憂へての自決であつた。大正六年贈從四位。

中江藤樹墓　同線水尾驛より二粁

同郡靑柳村上小川玉琳寺にある。墓域縱四間半橫五間で、石柵を環らす內に藤樹、其の子常省、其の母北川氏の墓がある。藤樹の碑は高さ五尺五寸、幅一尺に「藤樹先生之墓」とある。藤樹は明治四十年十月贈正四位。

近藤守重墓　同線大溝驛より〇、六粁　太湖汽船大溝港

同郡大溝町字勝野、丘陵の中腹瑞雪院にある。花崗岩の石塔で、石玉垣を繞らしてある。表に「近藤守重之墓」、裏に「自休院俊峰玄逸禪定門」、その兩傍に「文政十二己丑年」「六月十有六日」と

刻す。守重は通稱を重藏、號を正齋といひ、明和八年江戸に生れ、寛政七年長崎奉行手附となり、十年魯人蝦夷に寇するや、命を受けて擇捉に渡り、魯人の建てた標柱を撤去して、別に我が銅柱を建てた。これより幕府北海防備に力を用ひ、その功を賞せられたが、文化四年譴責を蒙つて小普請となり、次いで書物奉行に任ぜられたが、楓山文庫の文書通覽せぬはなかつた。文政二年出て、大阪弓矢奉行となり、重藏憂鬱、これより志操を破つた。同九年事を以て譴責を蒙り大溝藩に預けられ、以來志を得ず、文政十二年六月、不遇のうちに病歿した。歳五十九。明治四十四年正五位を贈られた。

鶴　塚　同線安曇驛りよ一、三粁

同郡安曇村大字三尾里字石橋墓地に在り、花崗岩の石寶塔一基を建てゝある。寶塔は高さ十四尺、塔身長さ四尺、周圍十尺。一面に佛像二體を刻してある。明治三十三年の大風雨にこの塔倒れ、下より朱粉の水に溶けたものが流れ出たといふ。或ひは古式古墳でもあらうか。

其　他

逢坂山及逢坂關阯　東海道線大津驛より一、五粁　京津電車線上關寺

大津市上片原町にある。逢坂の名は武内宿彌が忍熊王とこゝに逢ひ戰つて得たものといふ。關は重要な關所で有名であるが、詳細地點不明。大化三年畿内の北限を定められた時に設けられたらしく、百五十年間繼續し、延曆十四年に廢止、その時相坂剗と書いた事よりすれば柵を結んだものであらう。文德天皇の天安元年に再設せられ、京都緊急の際には固閉せられたが、日常は人越えやすいものであつたらしい。廢絶年代不詳。

逢阪山車石出土地　同　前

同市逢阪山である。昭和六年六月、道路工事中、二列になつた敷石が多數發見せられたが、何れも車輪の痕を殘してゐた。これは京津間の貨物運搬が頻繁となつたとき、施設せられたもので、その盡力者は京都の心學者脇阪義堂で、その費用は壹萬兩に達したといふ。

牛　塔

東海道線大津驛より〇、七粁
京津電車線長等公園下

同市下關寺町長安寺境内下段に在る。笠石、塔身、臺石の三部より成る一大石塔で、笠石は五角形、その一邊長さ四尺二寸、塔身は壺狀で、その最太の周圍十五尺八寸、台石八角形、その一邊長さ二尺四寸。廢關寺の遺物で牛塔といふ。關寺再興の際出現した靈牛の塔と傳へる。昭和八年十二月重要美術品に指定。

藤尾石佛

同線大津驛より三、八粁

同市藤尾小關越道舊山田堂に在る。高さ十尺、幅十八尺の花崗岩に彌陀の坐像の外、十二佛を浮彫にして居る。南北朝時代の作。

粟津古戰場

同膳所驛より一粁

同市膳所粟津町にある。同市東部より膳所町を上代に粟津と稱し、先には壬申の亂もこゝで決戰した。下つて壽永二年七月に木曾義仲が平家軍を追ひ、翌元暦元年正月には木曾義仲が同族範頼、義經に攻められ、兼平と共に戰死するに至つた。

杉浦重剛宅阯

同線石山驛より一、五粁
京津電車線瓦ケ濱

同市膳所町中庄にある。先生が呱々の聲をあげ、十二歳まで居住された家。遺愛の梅樹もある。今は町有。

幻住庵阯

同線石山驛より三粁
京津電車線螢谷

同市石山町國分村社近津神社境内にある。元祿年間芭蕉翁の寓阯。そのトク〳〵の清水は今もある。昭和五年縣保勝會標石建設。

建武中興戰場濠渠阯

江若線滋賀驛より一、八粁
京津電車線穴太

滋賀郡下坂本村にある。大字穴太の曲り地藏南方一町の地點より東方湖岸まで略一直線に凹地が續き、幅一二間の細長い田地となつて、俗にホリと稱せられる。太平記に南朝方が坂本の行在所を守護するために、「無動寺の麓より湖の波打際まで、から堀を二丈餘りに掘通して」とあるのがそれであらう。

建武中興遺蹟延暦寺境内

江若線叡山驛より麓まで一粁
京津電車線坂本

同郡阪本村字阪本にある。延暦寺が日吉神社と一括して山門と稱せられ、強勢を保持したことは國

史上顯著であるが、建武中興に當つても、後醍醐天皇の行在所となり、官軍の本據となり、頗る重大な役割を果した。行在所阯は現在は日吉神社境内となつてゐるが、太平記に花山院師賢の事件のあつた釋迦堂、僧徒集會所となつた根本中堂、北方搦手たる横河、尊雲、尊澄兩法親王の御座せる梨本門跡圓融房、官軍の通路となつた白鳥越、その他多くの房院の名稱はなほ延暦寺境内に屬してゐる。昭和九年三月史蹟として指定。

叡山に於ける諸宗開祖修學遺跡

ケーブル根本中堂驛より一（一粁、二（〇、五粁
京津電車線阪本より三、四（四、五粁

同郡阪本村阪本比叡山上にある。延暦寺は本邦で開宗した各宗派の源泉であるが、いまその主なる宗祖の修學研究した遺跡を擧ぐれば左の如くである。

一、臨濟禪宗開祖榮西

東塔北谷竹林院山坊地、現に石碑一基を存す。久壽元年より仁安三年（或ひは二年）まで修行の跡である。

二、淨土眞宗開祖親鸞

東塔無動寺谷大乘院。養和元年より建仁元年まで修行の跡、のち更に横河飯室谷妙覺坊に住したといふ。妙覺坊は今の戒定院山坊地である。

三、曹洞禪宗開祖道元

横川解脱谷舊寂場房又は滿藏院、華藏院山坊地。現に石碑一基建立。建保元年より翌二年まで修行した跡。初め横川般若谷千光房に學んだといふが、その寺の跡は不詳。

四、日蓮宗開祖日蓮

横川香芳谷定光院、今の堂宇より約北二町の所にある平地である。仁治三年より建長五年までの修行の跡である。

比叡山經塚

ケーブル中堂驛より一、八粁

同郡坂本村叡南岳頂上、標高三角點附近である。嘗てこの地より金銅經筒、陶製經筒、山吹双雀鏡、白硬合子、白磁小盃、水精珠數親玉、坏、斧頭、カハラケ、刀子殘片等を出した。

山王山經塚

同村山王山にある。嘗てこの經塚より扇殘缺を出した。扇は親骨銅製、親骨及蟹目には蝶鳥の文様がある。蝶は鍍金、裏に殘片が存する。東京帝室博物館藏。

五鈷出土地

江若線和邇驛より二粁
大津よりバスの便あり

同郡和邇村字小野大羅山である。天台座主二十九世明尊和尚の曼荼羅執行舊蹟と傳へてゐたが、昭

和九年六月青銅製五鈷を出した。長さ四寸四分。明尊は小野道風の子であるから、小野の地と深い關係があり、大磐若經の轉讀さへ傳へられてゐる。

富川磨崖佛　東海道線石山驛より九、五粁

栗太郡大石村富川岩屋不動院明王寺阯にある。巨巖に十二尺の彌陀坐像と、脇侍主像と、四尺五寸の不動立像を陰刻して居り、向つて右に「大乘妙典二聖二天○○刹女先達　三道上人女　慶安二己酉十月日」との刻銘がある。

和銅開珍出土地　同驛より一二粁　途中までバスの便あり

同郡上田上村大字桐生辻にある。同部落より十二、三町下つた所で、昭和十年縣道開鑿當時、布に包まれた痕跡を有する八寸大の一塊の和銅開珍が發見された。中には鑄型の中で溶けた樣な異形金屬塊もあるから、或ひは鑄錢所の阯であるかも知れない。

老牛馬養生所阯　同線草津驛より一、三粁　省營バスの便あり

同郡治田村小柿所屬東海道沿線に在る。天保十二年四月、滋賀郡和邇の岸岡長右衞門等が勞役を果した老廢牛馬の天壽を全からしめる施設で、その飼料は往來旅客の寄捨を受けた。明治維新後これが廢されたのば、肉食が漸次盛んとなつたゝめである。此の地の東方寺を牛堂といひ、同寺にある大磐若經中、若干牛馬追善のためと書かれたものがある。大正十四年老牛馬養生所阯に縣保勝會標石建設。

野路玉川　同線草津驛より二、三粁

栗太郡老上村大字野路に在る。近世六玉川の一として名高いが、地形の變遷で三間に五間ばかりの小池となつて存する。千載集所載の俊頼の歌を刻んだ小碑がある。

一里塚　同線守山驛より一粁

同郡物部村今宿所屬中仙道の路傍南側三間の所に在り、同村役場の敷地に北接してゐる。對立の筈の北側にはない。高さ六尺の堠上に榎樹一幹（目通周五尺）が茂つてゐる。根元の土も崩壞し、根が暴露してゐる。

悠紀齋田阯　同線野洲驛より二粁

野洲郡三上村に在る。昭和三年、本村は悠紀地方と勅定せられたが、官民協力して大田主条川春治氏をして滯りなく神田を耕作し、その米穀を獻納せしめたのであつた。後、昭和四年に、その阯を

齋田の紀念として、四圍に標柱を建設し、又、同年十二月廿六日齋場跡地に齋田紀念館を建設して、その被服、農具等を陳列保存することゝし、その田植は毎年當年のまゝをのこすことにした。尙、齋田は皆原形に復せしめたが、その區域を明瞭ならしめるため、四周に「昭和大禮悠紀齋田地」の標柱を建てゝある。委細は昭和五年三月滋賀縣發行「昭和大禮悠紀齋田記錄上下二册にある。」

妙光寺山磨崖佛　同線野洲驛より二粁

同村妙光寺山にあつて、書込地藏といふ。南面の花崗岩の長さ五尺七寸、幅三尺二寸五分の地藏立像を彫り、傍に元亨四年甲子七月十日大願主常貞と刻してある。

祇　王　井　同線野洲驛より三粁

同郡祇王村を貫通する養水路で、野洲川引水口（起點）より落水口（終點）までの延長一里三十一町三十五間に達し、祇王村字富波より分るゝ支川、卽ち東祇王井は延長一里一町六間で、合計二里三十二町四十一間に及ぶ。是に依つて灌漑せらるゝ田地は祇王村の內一千八百廿反歩である。この開鑿は平相國淸盛に寵愛された白拍子祇王が、相國に請うて實現したものといふ。祇王は江部庄司橘時長の女で、江部は今の大字永原北中北に當る。大字中北になほ妓王寺があり、祇王等の木像を祀り、その瞑福を祈る。大正五年、有志等が妓王碑を境內に建設した。

仙禪寺磨崖佛　信樂線信樂驛より八粁

甲賀郡朝宮村上朝宮仙禪寺阯觀音堂側に在る。高さ十四尺の巨巖に本尊藥師佛長さ三尺五寸、脇士各一尺一寸を浮彫にしてある。「建長元年己酉十一月八日」の銘がある。寺は養老七年、泰澄の開基で、山城鷲峯山寺の別院、延曆十四年傳敎大師修造、曆應二年大塔宮の令旨を奉じ、僧徒が田原鄕に出陣し、足利の部將細川淸氏と戰つて敗北、寺も亦兵燹に罹つて廢滅した。のち、應永三年守護佐々木淸高が再建したが、文明二年再び兵火にかゝつて亡んだといふ。

小川磨崖佛　同線信樂驛より五粁

同郡小原村小川に在る。露出する花崗岩の高さ三尺、幅四尺の面に、長さ一尺三寸の立像二體を浮彫にし、その兩傍に、「天文二十四年妙金」「六月二十四日道久」の刻銘がある。

不動寺磨崖佛　草津線三雲驛より一、九粁

同郡岩根村岩根に在る。巨大な花崗岩に長さ六尺の不動立像を浮彫にし、側に「建武元年三月七日卜部左兵衛入道充乘造之」の刻銘がある。

西光寺阯寶篋印塔　東海道線篠原驛より三粁

蒲生郡鏡山村字鏡にある。二重の基壇上に立ち、臺座、塔身、笠石を完備し、相輪は上半を缺失してゐる。金高は相輪を復原して略九尺、均勢亦優れてゐる。就中、臺座格狹間内對向孔雀の刻出と、塔身四隅の鳥影の刻出とは、頗る珍奇なものである。製作は鎌倉時代。昭和九年九月、重要美術品指定。（縣史蹟調査報告第六冊）

石塔寺石塔　近江線櫻川驛より三粁

蒲生郡櫻川村石塔にある。寺は聖德太子の建立と傳へ、後廢頽したのを江戸時代に及んで比叡山行賢僧正が再興した。塔は本堂裏手の丘陵上に建ち、古來阿育王塔と稱せられて有名である。石造三重の塔婆で、徑二米餘の扁平な自然石の基礎上に立ち、總高約八米、基礎から最上屋蓋の頂まで約六米、相輪の部分は後補。塔は一條天皇の寛弘三年土中から發見したものと傳へ、寺名もこれから起つたものだといふ。形式は支那六朝頃の塔婆の樣式を備へ、屋根の軒の出多く、軒の端緣の反り等飛鳥時代の木造塔婆のそれに類似し、また朝鮮扶餘の大唐平百濟塔に髣髴たるものがある。この塔は飛鳥（若くは白鳳）時代の建立にかゝり、我が國に於ける最古の塔の一樣式を示すものであらう。

鞍掛山　近江線彦根口驛より一、三粁

犬上郡千本村大堀にあり、古くは鳥籠山といふ。標高百五十五米半の丘陵で遠望の好地點である。明治四十五年四月、陸軍參謀演習に東宮殿下御登臨。古戰場としては、壬申亂に男依等秦友足と戰ひ、關ヶ原役には島津義弘がこゝに據つた。歌枕としては鳥籠山の古歌が多い。

朝妻港阯　東海道線米原驛より三粁

阪田郡米原町朝妻筑摩にある。その波止場が現存するが、石垣の幅十二尺、長さ百八十尺に達する。朝妻港は古來東國の交通專ら之に依る程で、湖東第一の港であつたこと平安以後の諸書に見える。英一蝶の描いた朝舟で世に知られてゐる。元和年間、井伊彦根城主が米原港を開くや廢港となつた。大正十一年九月保勝會より標石を建設。

居寤泉　同線醒井驛より〇、八粁

同郡醒井村醒井中仙道側にある。山脚の岩穴より清泉が多量に湧出して川をなし、住民の飲料水となる。傳によると日本武尊が伊吹山の賊を征せられた時、毒霧に中つて御足を玉倉部の清泉に冷

し、御熱醒めたから居寤泉といふ、とあるのはこの泉であらうといふ。川の中に尊の御腰掛石といふ高さ二尺五寸、平面一尺五寸のものがある。

神籠石様列石　同驛より二粁

同村字西山の頂にある。やゝ平坦なる頂上部に山勢に沿うて北東より南西に連ねて築造したもの。石は全部石灰岩で、下部に高さ二尺乃至三尺、幅三尺乃至五尺の石を置き、その上に五寸乃至一尺内外の小石を無數に積み重ねてある。築造の目的に關しては、山城説、靈域説、烽火台説、住宅説など諸説あつて一定しない。（縣史蹟調査報告第六冊）

寢物語　同線柏原驛より一、八粁

同郡柏原村長久寺にある。此處は中仙道の近江、美濃の國境であるから、壁を隔てゝ寢ながら談られるから、その名が起つたとい。現在近江側は軒頭に寢物語の文字半ば存する家があるが、美濃側は夙く畑となつてゐる。

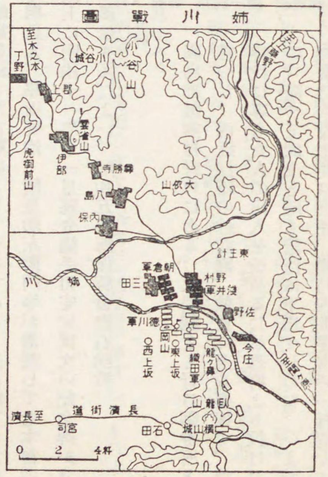
姉川古戰場　北陸線長濱驛より七、五粁

東淺井郡湯田村七尾所屬姉川が中心で、元龜元年に淺井長政、朝倉義景が織田信長とこゝで戰つた。六月二十八日、長政は河を渡つて信長に迫つたが、會々朝倉方の敗軍の報を得て退かんとした時、信長軍に包圍せられ大敗した。

陣の森　同線高月驛より二、五粁　長濱よりバスの便あり

同郡速水村字速水、村社伊豆神社附屬地にある。現在は石垣を繞らし、中央に約二間四方を劃して高さ十尺の「仲哀天皇行宮址」と刻した標石を樹てゝある。此處は古來、陣の森と稱して、傳説によれば仲哀天皇の越前笥飯宮に行幸の途次、こゝに陣營し給ひ、此の地方の土豪數多供奉したといふ。なほ、この地に一大伽藍があつて陣寺と言つたが、兵燹に罹つて燒失したといふ。寺の年代すべて不詳。

芳洲書院　同線高月驛より二、五粁



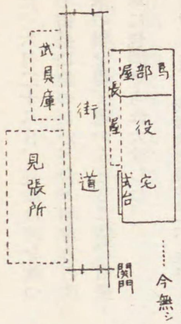
第四〇圖　姉川戰圖

伊香郡北富永村雨森にある。對馬侯の儒官で日韓外交に當つた雨森芳洲の邸阯に之を開き、鄉黨教化の場としてゐる。

賤嶽古戰場　同線木之本驛より三、五粁

伊香郡伊香具村、余吳村に屬し、余吳村の南西に聳える。海拔四二三米、麓より頂上まで十三町ある。柴田勝家と羽柴秀吉が天正十一年に雌雄を決した古戰場として有名である。秀吉麾下の加藤淸正、福島正則、加藤嘉明、平野長泰、片桐且元、脇坂安治、糟屋助左衛門等が奮鬪して七本槍の名を擧げたことは人口に膾炙してゐる。頂上に明治十一年十一月縣令籠手田安定撰文の紀念碑が立つてゐる。余吳湖と琵琶湖とを脚下にして風景亦甚だよい。昭和五年縣保勝會標石建設。

劍熊關阯　江若線今津驛より一一、五粁　太湖汽船海津港より五粁



第四一圖　劍熊關關閣

高島郡劍熊村野口にある。天隈關とも野口御番所とも言つた。西近江路の越前國、敦賀に至る要衝で、德川時代に專ら女人の出入を改めるため幕府より設けたもの。隨つて武士と雖も陪臣は下馬せしめた。いま關阯に當時の役宅間口九間、奧行四間茅葺の一棟存して關役人たりし者の子孫が住してゐる。關阯より數町を距つる畑一反歩は關所の鐵砲場阯で、幕末に天下騷然たるや、幕府郡山藩に命じて藩士三百名を此處に屯せしめ日々鐵砲を練習させた。武田耕雲齋の一隊が入京の風說傳はるや、殊にその防禦に苦心したといふ。石で築いた標的點、監的點、射擊點等いまなほ存する。射擊點石より監的點石まで十間、監的點より標的點まで三間である。

綱齋書院　同線新儀驛より三、三粁　太湖汽船舟木港よりバスの便あり

同郡新儀村太田にある。碩儒贈從四位淺見綱齋の出身地の故で、明治年間有志が新設したもの。內に綱齋の神主を安置してゐる。

藤樹書院阯　同線水尾驛より二、五粁

同郡靑柳村上小川にある。近江聖人中江藤樹講學の所で、德本堂と稱する。慶安元年建築、四間に八間の茅葺の書院であつたが、明治十三年火災にかゝつたので、有志がその阯に更に建築して藤樹の神位を安置した。入口の四脚門と土藏とは原のまゝ現存する。內は簡素な小門で門扉に下り藤の透彫りがある。先生は慶安元年に年四十一を以て歿したので、鄉人は祠廟を作つて之を祀り、享保十一年には大溝藩主分部光忠は書院の諸役を免じ、長く祭祀を絕たざらしめ歷代之に倣つた。寬政

九年に光格天皇勅してその講堂に德本堂の號を降し給ひ、明治四十年に正四位を贈られた。毎年九月廿五日には先生の弔祭を行ふ。明治三十八年五月藤樹圖書館を設置した。書院趾ももと部落有であつたが、明治三十八年度から郡有として管理してゐる。大正十一年三月史蹟として指定された。

名勝

山にましてうみをひろく見朗かに
大き寂しさに入りたまひけむ

—中村憲吉

湖　岸

湖南勝區

琵琶湖南部一帶の和かな水郷風景で、大正十年八月三十日に名勝として假指定され、現狀變更を禁ぜられた。その時の區域は、

一、滋賀郡下阪本村大字比叡辻字清水崎字三田界湖岸より縣道大津今津線に出で同路線及び元淡海學園道、郡道坂本雄琴線を坂本村堺に至る以東南。

二、同郡坂本村　郡道坂本雄琴線下坂本村界より郡道坂本雄琴線を經て縣道大津阪本線郡道阪本山上線を滋賀村界に至る以東南。

三、同郡滋賀村　郡道阪本山上線坂本村界より同路線及び縣道山上大津停車場線を經て舊大津市界に至る以東

四、大津市　滋賀村界より縣道山上大津停車場線を經て市道八號線に入り、京都第一疏水隧道と交叉點より疏水路に沿ひ湖岸に至る以東北。

五、滋賀郡膳所町　大字別保舊南惣門湖岸より入江に沿ひ國道第二號線南惣門橋に出て、同路線を西へ郡道鈴

鹿膳所線分岐點まで。同分岐點より鈴鹿膳所線を石山村界に至る以東南。

六、同郡石山村　郡道鈴鹿膳所線膳所町界より同路總に沿ひ、石山伽藍山南裏道に沿ひ、村道石山岩間線の交叉點に至る以東瀬田川沿岸まで。同交叉點より村道石山岩間線を經て大字千町分岐點に至り、村道赤川線の一部を經て大字千町人家外れを右折して小徑を通過し、大字南郷に出て、舊字治道及び縣道大津宇治線を栗太郡界鹿飛橋に至る以東瀬田川沿岸まで。

七、栗太郡大石村　滋賀郡界鹿飛橋より瀬田川東岸に沿ひ、下田上村界に至る沿岸。

八、同郡下田上村　大石村境より瀬田川東岸に沿ひ、大字關津に出て、縣道朝宮石山停車場線及び元朝宮道を經て黒津橋に出て縣道朝宮石山停車場線に接續し、同路線を瀬田村界に至る以西瀬田川沿岸まで。

九、栗太郡瀬田村　下田上村界縣道朝宮石山停留場線より同路線を村道篠部線に至り同路線及び郡道瀬田下田上線を經て、國道第二號線に至る以西瀬田川沿岸まで。國道第二號線と郡道瀬田下田上線との交叉點より國道第二號線を同村大字大江縣道吉川大津線分岐點に至る以西瀬田川沿岸まで。大字大江縣道吉川大津線分岐點より同路線を老上村界に至る以西。

十、栗太郡老上村　瀬田村界縣道吉川大津線より同路線を大字新濱に出て大字矢橋大字新濱との境界を湖岸に至る以西南。

その後昭和三年九月に至つて、一部改訂せられ、左の部分が假指定を解除された。

一、下阪本村四谷川以北。但し四谷川を除く。

二、石山村大字北大路より同村々道北大路道に沿ひ、大字鳥居川に於て國道第二號線に出て、同線に沿ひ、瀬田川橋臺手前六十二間の地點より北折して三十三間の處から水路に沿ひ、瀬田川河身直角に瀬田町大字橋本に至り、川岸より里道に沿ひ、六十間の處より南折して、國道第二號線に合し、同線に沿ひ、建部神社大鳥居を見透した線より以北。但し膳所町大字別保地先に於て、盛越川以北三百十間の處から國道に沿ひ、百十六間の處迄を同路線より湖岸方面全部及び右路線より山手方面へ六十間に至る區間を除く。

三、瀬田川下流下田上村大字太子地内朝宮石山停車場線と村道との交叉點より河身に直角に石山村大字南郷に出た見透線より以南。

近江八景

徳川時代より傳へられる近江八景とは、三井晩鐘、粟津晴嵐、瀬田夕照、石山秋月、唐崎夜雨（以上大津市）、堅田落雁（堅田町）、比良暮雪（滋賀郡西部）、矢橋歸帆（老上村）の八景である。支那の瀟湘八景に範をとつたもので、中にはしつくりしないものもないではない。以上の八景に固定したのは、從來足利後期の近衛政家の選定によるといはれてゐたが、實はもつと新らしく、徳川初期にあるらしい。徳川時代には現在の如き八景を推稱して、幾多の詩藻繪畫がものせられてゐる。

浮御堂　江若線堅田驛より一粁　太湖汽船堅田港

滋賀郡堅田町南端滿月寺内の湖中に突き出た堂宇である。もと惠信僧都の草創にかゝり、千體佛を安置したが、後荒廢したので、櫻町天皇の御能舞臺を賜はつて移建した。湖岸から湖中に突出した寶形造の小堂宇であるから浮御堂の名が起つた。昭和九年九月の大風害で湖中に顚壞し、目下再建中である。

雄松崎　同線近江舞子驛より〇、一粁　太湖汽船近江舞子港

同郡小松村南小松の湖濱二町餘歩に亘る。比良川の下流に當り、湖中に突出してゐる所で、近江舞子といはれ、一粁餘の沙嘴が内湖を抱いてゐる。比良山が急傾斜をなして、湖に臨む邊に於て、青松、翠を競ひ、清砂、白を爭ふその風光は、打寄せる太湖の波の音と共に旅客の心を和げる。春夏の候、氷魚、小鮎、鰌網等が曳かれ、年中遊覽客を迎へる。大正十一年保勝會標石建設。昭和八年二月名勝として指定。

水茎岡　東海道線近江八幡驛より八粁　同驛より途中までバスの便あり　太湖汽船野村港

蒲生郡岡山村字牧所屬、岡山ともいふ。標高二百米、湖水に臨んで、展望に富む。藤ケ崎明神邊は近く長命寺山、松ケ崎を眺めて、漂渺として湖を見渡し、風景よく、水泳にも適する。水茎の岡の名は歌枕として古來有名であるが、昭和三年大嘗祭悠紀地方風俗歌に詠まれて、更に喧傳されてゐる。昭和五年縣保勝會標石建設。

岡山の頂上は城阯であるといひ、戰國時代に佐々木六角氏の支城であつた。足利義澄將軍がこゝで薨じたといふが、永祿年間に廢した。

松ケ崎　同線近江八幡驛より八、五粁　太湖汽船長命寺港

同郡島村長命寺に在る。山麓より湖涯まで三町歩。湖岸には數多の岩石點々散在し、老松繁茂して奇巖亂立し、風光頗る佳い。大正十一年縣保勝會標石建設。

伊崎　大津港より湖上九、五粁　太湖汽船奥島港

同村奥島にある。伊崎寺は臨湖の岩角に建てられた古刹で、直下に碧潭を湛へ、俗界を離れてゐる。毎年八月一日の竿飛は壯觀類のないもの。

大崎　江若線今津驛より一三粁　太湖汽船海津港より二、五粁

高島郡海津村にあつて、竹生島に對し、辨天の逍遙し給ふ所と傳へ、辨天ケ濱といふ。面積二町餘

歩、附近は古生層を貫いて噴出した花崗岩より成り、巨巖怪石が起伏し、翠松綠樹之を蔽うてゐる岬角で、湖南の風景が女性的なのに反して、雄壯な男性的の景致を呈してゐる。巖頭に大崎寺といふ古刹があり、千貫松、辨天松等の名木がある。大正十四年縣保勝會標石建設。昭和六年三月に名勝「海津大崎」として指定された。

島　嶼

多景島　大津港より湖上一二粁

犬上郡磯田村八坂所屬。周圍五町餘の湖島。中に日蓮宗見塔寺があり、北端に高さ廿七尺、幅九尺の花崗岩が聳え立ち、その東西に「南無妙法蓮華經」の大字を刻してある。頂上に石造五重塔があり、又全面樹木繁茂し、風景がよい。島は竹生島、沖島、奥島、白石と共に琵琶湖盆地陷落以前に生じたもので、第三紀の頃陷落するや、島々のみ現狀を維持し、その周圍に水を湛へたものであらうといふ。隨つてその斷層後水蝕の作用を受けた狀態等、地質學上好資料である。近時、明治天皇五箇條の御誓文の「誓の御柱」がたてられた。

竹生島　大津港より湖上七二粁、彦根港より二四粁、長濱より一二粁

東淺井郡竹生村早崎所屬。周圍二粁に達せず、附屬岩嶼一を有して、東南に港ある湖島である。湖面を拔くこと約一一〇米、面積〇、一四方粁、海岸は概ね絕壁をなしてゐる。中に縣社都久夫須摩神社、西國三十番順禮札所觀音、辨財天を祀る寶嚴寺があり、その社殿と觀音堂は國寶建造物に指定されてゐる。風景に富むのは勿論で、古來安藝宮島、相模江の島と併稱して日本三辨天といふ。昭和五年七月名勝として指定された。

白石　大津港より湖上一二粁

高島郡本庄村所屬。矗立した花崗岩四つで成つた湖中の岩嶼である。

山　岳

比叡山　江若線日吉驛より山麓日吉社へ二粁　京津電車坂本、ケーブルの便あり

滋賀郡坂本村、傳教大師開基の延暦寺の所在で有名である。山麓には官幣大社日吉神社が鎭座する。山體の大部分は古生層から成り、南半の山側に粗粒質黑雲母花崗岩を迸發し、山頂に近い將門岩は粘板質砂岩の變化したものである。最高峰は海拔八四三米、東は飛彈山脈、西は金剛山脈を望むことが出來る。山の東側は古杉老松蓊鬱としてゐるが、西側は近年植株を始めたに過ぎない。近時、京都側と坂本側とからケーブルカーが架せられ、山上も空中ケーブルがあるから、容易に山を上下することが出來る。（總本山延暦寺、建武中興遺蹟延暦寺境内、各宗諸祖遺蹟、鳥類繁殖地等參照）

比良山　同線近江舞子驛より楊梅瀧まで六粁

和邇村から大溝町まで十二粁に亘る花崗岩質の山で、蓬萊山（一、一七四米）と武奈岳（一、二一四米）は南北兩端をなし、その間に打見山、大物峠、堂滿岳等がある。山頂は寒冷で、樹木なく、茅篠が叢生してゐる。初冬から中春まで雪が絶えず、銀光鮮かに湖上に映する。比良の暮雪は近江八景の一である。その福合川筋小谷女郎ケ池附近の傾斜地はスキーの適地。

この山の縱走は近年盛んになつて來たが、それには江若鐵道比良口驛下車、小女郎ケ池を經て、蓬萊岳頂上まで約五粁半、それから打見岳、大物峠、堂滿岳を過ぎて最高峰武奈岳まで約一二粁、武奈岳から下り、近江舞子まで約八粁で、一日行程に恰好である。大物峠は太湖の大展望臺である

し、堂滿岳は比良山脈中の仙境で、未だ斧鉞の入らぬ大濶葉樹林がある。

山中、滋賀郡小松村字水谷にある揚梅瀧は、上中下三瀧より成り、上の雄瀧は直下二百十六尺、中のヤゲン瀧は直下三十尺、下の雌瀧は直下五十六尺に及ぶ。揚梅の名は天文の頃足利義輝が與へたといふ。又高島郡に屬する八淵瀧は、魚ドメ淵直下二十尺、障子淵直下三十尺、唐戸淵直下三十尺、大摺鉢直下二十尺、小摺鉢直下三十尺、屏風淵直下三十尺、貴船淵直下二十尺、七變ガヘシ直下五十尺、大正十一年縣保勝會より標石をたてた。

靈山　東海道線醒井驛より漆瀧まで五、五粁

標高一、一〇〇米に達し、眺望に富み、スキーに適する。山は石灰岩より成り、その屏風岩は絶壁の露出で、高さ三百尺、幅二百四十尺。本光坊窟は高さ十二尺、幅九尺、深さ十五尺の石灰洞、蝙蝠洞は高さ九尺、幅六尺、深さ三十尺、洞底五十度の傾斜を有つてゐる。漆ケ瀧は山中の壯觀でV字狀に流下する。高さ七十五尺、幅十五尺、水量常に豊富である。

伊吹山　同線近江長岡驛より伊吹村へ六、五粁

坂田郡伊吹村。本縣第一の高峰で海拔一、三三七米、斷層によつて兩側が陷沒し、中央の隆起した

地壘で、粕川は東麓を北走し、姉川は西麓を南走する。下部は古生代地層で、砂岩、粘板岩、角岩等から成り、上部は古生代石灰岩層から成る。石灰岩塊は衝上面で、下部の古生代地層と界されてゐる。山腹の傾斜が急なため、石灰岩地であつてもカルスト地形を現はして居ない。頂上は鈍頂で、前輪廻の侵蝕面の殘存と思はれる。周圍の山腹は急傾斜で壯年山地の形狀を呈してゐる。山地隆起に伴つて深く侵蝕が行はれ、伊吹村の上方では急な谷が出來、彌高、上平寺、藤川等の諸村の上方には斷層崖の急斜面が出來た。山の四近には「白ざれ」「大富ぬけ」「阿彌陀くづれ」等と稱する崩壞地がある。

山頂の氣溫は年平均約攝氏五、五度で、八月中旬は二四、五度、一月中旬は零下一四、九度に下る。附近は本州島の最狹部で錯綜した氣流があり、航空上にも注意を要するので、山頂に上層氣溫氣流觀測の國立觀測所がある。西方の若越地方の連山は割合に低いから、冬季の西北風は濕氣を送り來つて、附近に積雲量が多い。故に冬季はスキーの好適地となり、一合目と二合目との間、三合目と四合目との間は特に恰好なスロープである。

麓に少し密林があるが、一合目以上芝山となり、三合目以上は雜草多く、四合目に藥草園がある。上には幾多の有孔蟲類、海百合類の化石を藏し、ドリネとなつてゐる。頂上の彌三郎泉水はドリネの貯水、彌三郎窟は高さ十尺、幅三十尺の石灰洞、百間廊下も石灰岩の大龜裂の水蝕である。（伊吹藥草參照）

瀑　布

大　瀧　東海道線石山驛より九粁　同驛より途中までバスの便あり

栗太郡大石村字東と富川との間にある。信樂川が花崗岩よりなる權現山の南麓を東西に走る地裂線に沿うて浸蝕瀧となつたので、落差卅尺、兩傍に巨巖峭立し、老松が繁茂してゐる。

藤　谷　瀧　近江線八日市驛より二、二粁

愛知郡東小椋村政所藤谷川にある。川の中流に露出硅岩があつて峭壁となり、瀧を形造る。高さ三十六尺、幅卅尺、東北に面し、水量常に多くて壯觀を呈する。

富　尾　瀧　同線多賀驛より二粁　川瀨驛よりバスの便あり

犬上郡大瀧村富尾にある。犬上川の上流で露出の石英斑岩が水蝕作用を受けて、中央に十五尺の高低を生じ、大瀑を形成してゐる。その邊一帶水蝕作用により壺狀甌狀の孔を穿ち、所謂甌穴を作つてゐる。清溪の岩石入り亂るゝ中を滾々として流れるのは有名な木曾寢覺の床に彷彿してゐる。

銚子瀧　江若線今津驛より一、一粁

高島郡西庄村牧野に在る。知内川の上流、斧研川（ヨキトギ）の花崗岩壁に懸るもので三折する。一の瀧は高さ四十尺、東に向つて落ち、銚子の口から落つる狀を呈するから瀧の名を得た。二の瀧は高さ廿四尺南に向つて落下し、三の瀧は高さ卅六尺、北に向つて落下する。

庭園

園城寺圓滿院庭園　東海道線大津驛より二粁　京津電車線三井寺下

大津市別所字中院圓滿院に在る。宸殿に面せる庭園であつて、正保四年宸殿移建の時に作庭せられたものと推定される。園の前半に池あり、後半に築山を設く。池には二個の中島あり、その東側のものに石橋を架け、池汀に庭石を組む。築山の前面にさくら、まつ等と多數のつゝじの丸物とを植え、石塔を配し、後方にはしひ、ひのき、すぎ等の巨樹あつて背景をなし、築山泉水の寺底として著名なものである。昭和九年十二月文部省より名勝及史蹟として指定せらる。

園城寺光淨院庭園　東海道線大津驛より二、二粁　京津電車線三井寺下

大津市別所字長等山園城寺境内にある。築造の年代は明確でないが、客殿の建築された慶長六年頃の作であらう。享保二十年出版北村援琴著の築山庭造傳に寫生圖を載せてゐる。客段の緣下は直ちに池となる。池には中島あり、石橋を架く。池の西南方は急傾斜をなせる自然の地形を利用し、此處にすぎ、まつ、もみぢ、つゝじ等を植え、江戸時代より著名な庭園である。昭和九年十二月、文部省より名勝及史蹟として指定せらる。

園城寺善法院庭園　同驛より二、七粁　京津電車線三井寺下

同所。築造の年代は明確でないが、江戸中期を下らないものであらうといふ。中央に池あり、池には二個の中島を置き、石橋と土橋とに依り連結さる。池の西北傾斜地には巨大なる庭石を縱横に用ひ、巧妙な石組をなす。園の北方と、西方とには、山腹を利用して針葉樹、濶葉樹の混淆林をな

す。庭園に關聯せる建造物は現存しないが、庭園はよく舊態を存してゐる。昭和九年十二月、文部省より名勝及史蹟として指定せらる。

胡宮神社社務所庭園　近江線多賀驛より一、五粁

犬上郡多賀村敏滿寺胡宮神社境内に在る。築造の年代は明確でない。舊福壽院書院の庭園であつたと傳へる。園は丘陵上に在り、自然の傾斜地を利用して築山をなし、山の前方に池あり、池に水亭と浮石とを置き、石橋を架く。池と建造物との間に歩石を配す。清楚な庭園である。昭和九年十二月文部省より名勝として指定せらる。

多賀神社奥書院庭園　同線多賀驛より半粁

犬上郡多賀村に在る。築造の年代は詳かでないが、石組に室町時代作庭の俤を存す。庭園は建築物より甚だ低く設けられ、縁と池の水面との距離は約十尺、池はその南岸を直線となし、他を曲線となす。自然石の石橋を架し、池の東北隅に石を組み瀑口となす。さくら、もみぢ、さゝんくわ、かし等を庭園の主木となす。幽邃な庭園である。昭和十年六月文部省より名勝として指定せらる。

青岸寺庭園　東海道線米原驛より〇、六粁

坂田郡米原町にある。青岸寺庭園は同寺三世興欣が香取氏に命じて江戸前期に作庭せしめたものであると傳へる。枯山水庭にして空池を設け、石橋を架け、蓬萊島を作り、島にまつを植ゑ、築山、池汀に多く石を組み、園路に石を疊み、特殊の技巧を凝してある。園後の山腹にまつ、まうそうちく、等あつて背景をなす。江戸時代より著名であり、特色有るものである。昭和九年十二月、文部省より名勝として指定せらる。

大通寺含山軒及び蘭亭庭園　北陸線長濱驛より〇、七粁

坂田郡長濱町大字御堂前大通寺境内の庭園は築造の年代は詳かでないが、江戸初期であらうといふ。含山軒庭園は枯山水庭にして空池を作り、池に中島を置き、石橋を架け、歩石を配す。池の東北隅には石を組みて空瀑を現す。まつ、つばき、かし、ねすみもち等の枝を撓めて園の中央に見透線を作り、伊吹山を背景とす。蘭亭庭園は小面積の地に池を置き、石橋を架す。池の周圍に石を組み、園の東南隅に近く堅石を用ひ、庭景の焦點たらしめ、此に石燈籠を配す。まつ、もくせい、ねすみもち、うめ等を主要なる庭木とす。共に昭和九年十月、文部省より名勝として指定せらる。

淨信寺庭園　北陸線木之本驛より〇、三粁

伊香郡木之本町字木之本淨信寺境内にある。築造の年代は明かでないが、寛政年間書院建設の時であらうといふ。園の前半に池を堀り、一箇の中島を置く。池の東北隅に近く石を組み、空瀑を作る。園の後半は築山にして、けやき、まつ、もみぢ、うめ、ひのき等庭樹につゝじの丸物、つばきの刈込等がある。江戸時代の作庭様式を典型的に表はせる庭園の一として優秀なものである。昭和九年十月、文部省より名勝として指定。

舊秀隣寺庭園　江若線安曇驛より一五、五粁　太湖汽船南舟木よりバスの便あり

高島郡朽木村大字岩瀬字遠坊興聖寺にある。享祿元年八年將軍足利義晴が京師の亂を避けて朽木谷に奔り、朽木稙綱に依つた時、稙綱が頗る奉仕し、居館を營んだといふ。慶長十一年に朽木宣綱がその妻秀隣夫人をこゝに葬り、館を寺となし、秀隣寺と號したが、寺は後同村野尻に移り、享保年中この地域に興聖寺が移つたのである。舊居館は、長九間幅四間、境内の東端高臺に臨み、前面に「をぐらす」山を仰ぎ、安曇川を俯觀す。庭園は屈曲する汀線のある池があり、池に瀑を落し、二箇の中島を置き、石橋を架してある。石組に堅石多く、豪宕の氣がある。小椋栖山安曇川一帶を借景とする。室町時代の代表的庭園として我國に於ても稀有の名庭園である。明治以前は領主朽木氏之が營繕をなし、住職交代毎に嚴重の引繼をしたといふ。昭和十年十二月名勝として指定された。

其他

米浙鹿跳　東海道線石山驛より七粁　同驛よりバスの便あり　太湖汽船洗堰より二粁

瀨田川下流栗太郡下田上村關津地先より同郡大石村縣社佐久奈度神社地先までに在る。この間の兩岸は黑雲母花崗岩で、立木山の一部分及び鹿跳橋の東北に接觸粘板岩が露出してゐる。水流が是等の河床の岩石を穿つ迹が甌穴をなして數十あり、大なるは徑二米、深さ二米に及ぶ。甌穴中有名なのは米浙（コメカシ）であつたが、明治三十四年大改修工事で過半破壞された。しかしなほ川流の轉回が認められその白泡のわく樣が米をかす樣に似てゐる。鹿跳（シヽトビ）も亦花崗岩の浸蝕で、岩面に鹿の足跡の樣な窪みがあるからその名がある。今此の地點に鹿跳橋が架けられてゐる。（鹿跳米浙の甌穴參照）

永源寺楓林　近江線八日市驛より六、五粁　稻枝驛よりバスの便あり

愛知郡高野村永源寺境内及び地續きの山林四十八町餘歩にある。一帶に楓樹多く、直下に愛知川の清流があり、山水の景に富む。晩秋に永源寺紅葉の名が世に鳴る。最近楓樹の苗圃を設け、年々移植して倍々紅葉の勝地たらしめてゐる。大正十一年縣保勝會より標石建設。（永源寺條參照）

宇曾川櫻

東海道線河瀬驛より二粁
開花時には河瀬、彦根両驛よりバスの便あり

犬上郡日夏、磯田、龜山村に屬する宇曾川堤防延長一里餘に櫻樹を植ゑてゐるので、大きいのは幹圍五尺、高さ二十餘尺に達して花時には壯觀である。その種類は山櫻の變種で、青芽、淡雪、墨染日出、人日、芳野、花月、鏡、富士見、白妙、葉櫻、松月等である。

醒井峽谷

東海道線醒井驛より三、三粁

坂田郡醒井村大字上丹生、宗谷川を中心とする峽谷である。近く迫る兩岸は入口部分が古生層硅岩、奥地は總て石灰岩質より成る。樹木は峰近くは自然林で、下方は杉、檜の植林と共に山櫻、栗雜木林の混生がみられ、奥地は杉の美林を以て蔽はれてゐる。水は巖隙を穿つて二口に湧出し、その一は七十尺餘の石灰奇岩たる屏風岩の下から湧いて、溪流の水源をなしてゐる。その清淨な水は清魚遊泳に適し、醒井養魚場は之を利用してゐる。昭和十年八月、名勝として假指定された。

朽木溪谷

江若線安曇驛より一、二粁
同驛より市場まで自動車の便あり

高島郡朽木村にある。湖西第一の大河安曇川の上流荒川橋から高岩橋邊までの間約三粁の間を言ひ、自動車内からその風光が見られる。夏は鮎狩、秋は紅葉狩によく、近江耶馬溪とも呼ばれてゐる。

天然紀念物

植　物

逢阪山アフサカザサ自生地

東海道線大津驛より二粁
京津電車線上關寺、大谷
京津間バスの便あり

大津市片原町水車谷入口から村社蟬丸神社附近にかけて在る。アフサカザサは「逢阪笹」の意で、笹類中でもよほど壯大、美事なものである。以前は逢阪山の國道沿ひと水車谷に多く繁茂して居たが、國道改修のため、兩者大いに荒され、このまゝに放置すれば絶滅に到るかも知れない。なほこの笹は分布甚だ少く、他に二三自生地はあるが、此處はこの植物に命名された模式産地であるから、その絶滅は學界よりも惜まれてゐる。是非この笹を天然紀念物として顯彰保護されたいものである。なほこの他、本縣に模式産地を有する笹には、

イブキザサ（伊吹山）、フシゲイブキザサ（伊吹山）、タノカミザサ（田上山）、ホソバザサ（千本野）、アフミコザサ（三上山）、オホザサ（賤ケ岳）、オニウラジロシノ（眞野村）

等がある。就中、アフミコザサ、オニウラジロシノ、オホバウラジロシノは産量少く、且つ未だ他

に産地を見ざるものゆゑ、特に保存を必要とする。（本縣天然紀念物調査報告第二冊參照）

三井寺暖地性植物群落

東海道線大津驛より三粁
京津線三井寺下
大津驛よりバスの便あり

大津市別所園城寺境内に在る。三井寺の森は四圍の山々が赤松林である中に、獨り鬱蒼と茂つた濶葉樹林である。由來此地方は、所謂暖帶林に屬し、椎や櫧の類の繁茂すべき地であるのを、不用意なる亂伐のため土地が荒廢して赤松に置きかへられたのである。然るに此の三井寺の森が古來の靈地である關係上、比較的原始の狀態を保ち、今に至るまで本來の林相を吾人に示し、植物學上幾多の研究資料を寄與するものである。三井寺の境内は大津の西に聳つ長等山一帶の森林約七十五「ヘクタール」、保安林を含すれば約二百三十「ヘクタール」に達し、その林相は椎類（スダジヒ、ツブラシヒ）櫧類（アラカシ、シラカシ等）を主要樹とし、人爲的に植栽したるヒノキ、スギを混じ、これに暖地性の木樹でるシロバヒ、クロバヒ、タラエフ、マツラニクケイ、カナメモチ、クロガネモチ、モテノキ、リンボク、ナナメノキ、ヤブニクケイ、アヲカシ、タマミヅキ、カラスサシセウ、イヌヒバ、ニハトコ、キミノニハトコ、ゴンゼツ等を見る。樹下にはコバノニセシゴズネノキ、イヅセンリヤウ、マンリヤウ、ビロウドイチゴ、コジキイチゴ等の灌木があり、笹類にもキンキザサ、イガザサ等の珍種がある。草本にはハナメウガ、コクラン、ムラサキニガナ、シウブンサウ、ハンクワイサウ、ハダカホホヅキ等の暖地性のもの多く、羊齒類も種類多くヒメチヤスンシダ、ヌリトラノキ、カラクサイヌワラビ、タニイヌワラビ、ウスヒメワラビ、コバノイシカグマ、ヘラシダ、カナワラビ、オニカナワラビ、カタキノギ、ナガバイタチシダ等の五十餘種を產する。

右の如く暖地性植物多く、就中、イヅセンリヤウの生育狀態は太平洋岸の各地に劣らず、シロバヒは甚だよく繁茂して九州邊の景觀を呈し、タラエフは幼木が多いけれども、中には目通り二、六米に達するものもあつて中國邊の趣がある。其の原因如何は今後の研究問題とするも、學術上稀に見る貴重な自然資料である。尙これ等暖地性植物に混じてホツヽジ、イハナシ、タカネマスクサ等の寒地性植物を見るのも一奇觀である。（本縣天然紀念物調査報告第二冊參照）

滋賀ノリ

江若線三井寺下驛より柳川へ一、一粁
京津電車線錦織

大津市錦織町柳川の上流、同郡坂本村大字坂本日吉神社前大宮川及權現川と坂田郡醒ケ井村大字丹生藤野養魚場、同郡同村大字下丹生川（天の川支流）とに生ずる。その小なるは豌豆大、大なるは拇指頭大、不規則の球形袋狀を成し、下面の一部を以て岩石に附着する。最も多く發生するのは柳川で、毎年春四・五月の候、大津地方より採集に來り、食用に供する者がある。權現川のものも同地方にて採取し、食用に供する者あるが小形にして發生すること少い。大宮川では三橋の附近に發

生し、藤野養魚場に於ては池底に發生し、共に其の量多くない。丹生川には多數發生するが、未だ食用に供する者がない。滋賀海苔は隧花植物分生藻類念珠藻科に屬し、福岡縣の壽泉海苔、富山縣の葦附海苔、京都府の鴨川海苔と同種なるに似てゐるが未だ詳かでない。

唐崎松　同線滋賀驛より二粁　京津電車線滋賀里

同郡下坂本村大字下坂本、日吉神社攝社唐崎神社境内九百八十餘坪に在る。高さ三十餘尺、幹圍三十尺、枝の延長東西二百四十尺、南北三百尺の名松で、近江八景の一として唐崎の夜雨で知られてゐる。樹枝を支ふる柱三百六十三本を要したが、十數年來漸次衰へ、大正十年末全く枯死した。今植つぎの松がのびつゝある。

新唐崎松　同線日吉驛より一粁　太湖汽船新唐崎松驛

同村比叡辻湖岸磯成神社境内にある黑松で樹姿唐崎の老松に似てゐるから、新唐崎の松又は小唐崎の松とも稱する。高さ三十六尺、地上二尺の處が最も太く、該部に於ける幹圍十八尺ある。地上三尺の處より二幹を成し東西に枝を張り繁茂す。其の東方のものは最も太き部分で周圍九尺、西方のものは周圍十一尺あり、枝の延長東に三十六尺、西に六十尺。樹幹の根元に徑一尺餘の朽洞があ

る。松の生育する地積二畝歩、其周圍一帶は民有の畑地である。枝幹延長して其の畑に至るも之れを伐採することなく、殆ど自然の繁茂に委せてあるから、樹姿傘狀をなし、美觀を呈す。此地は天正年間に官幣大社日吉神社々家祝部行麿の居住した時の庭園で、唐崎の松の實生を持來て植ゑたものだといふ。唐崎の老松既に枯死したから、大正十一年十一月、移靈祭を擧げ、本樹を以て第二世唐崎松とした。大正十一年九月縣保勝會標石を建つ。

茶樹　同線日吉驛より〇、三粁　京津電車線坂本

同郡阪本村阪本御茶園に十二株現存する。官幣大社日吉神社の献茶用で、傳教大師將來播種のものと傳へる。

綸旨欅　同線雄琴驛より一粁　大津よりバスの便あり

同郡雄琴村苗鹿縣社那波加社飛地境内に在る。幹圍二十二尺、樹高百二十尺、元亨二年小槻千宣が社領管領の綸旨を蒙つた記念に植ゑたと傳へてその名がある。

食蟲植物群落　東海道線草津驛より二、七粁　草津驛よりバスの便あり

栗太郡老上村大字野路字川ノ下にある。俗稱池の上に二畝歩餘の低濕の地があり、南方を流れる川

と堤防を以て隔てる。矮小草類の生ぜる中にコモウセンゴケ、イシモチサウ、ムラサキミミカキサウ等の食虫植物が群落をなして生育する。南方堤防にもイシモチサウが多い。食用藻類姉川クラゲが又一方に群生する。適當に保護し繁殖を計らば、該藻の養殖場としても頗る適當の處であらう。

鬼　蓮

同草津驛より三、五粁
同驛より附近までバスの便あり

同村大字橋岡字新溜池二番地、下新池にある。大群落を成し、葉の良く發育したものは直徑五尺以上あつて、水面に浮べる景觀は賞美するに足る。鬼蓮の名は葉面、葉柄、花梗等に多くの粗い刺があることより來る。その自生地は比較的稀で、新潟、茨城、千葉、富山、兵庫、岡山、香川等の諸縣下に知られてゐるのみである。

鬼蓮は漢名を芡と稱し、イバラバス、ミヅブキ、ミヅフブキ等の古名がある。花は普通蓮の如く水面を抽きて開花することなく、その形態は睡蓮に似て、花瓣細長く、幅二、三分長さ一寸二、三分、總數二十枚あり、重瓣を成す。花瓣の外方には內面紫色、外面綠色の蕚四枚あり、雄蕋は四十七乃至五十五本あり、一本の雄蕋を圍む。秋に果實が熟する。種子は其表面凸凹あり、暗灰色で、其上に梨地模樣の赤色斑點ある柔い薄い肉皮を被る。種子は少いのは五、六十、多いのは百二、三十個あり。支那では之を芡實と稱し、食用、藥用に供するが粉として團子を製することも出來る。

靈地の多頭蓮

同線守山驛より二、二粁
同驛より附近までバスの便あり

野洲郡河西村字中村佛堂の境內にある。約百坪の楕圓形の小池に一面に繁殖する。もとは花打の部分が岐れて一莖に少きは二、三花、多きは五、六花、先端に集合して開花する。花は小形で、蕊なく、二、三花を集めて普通の蓮花大に過ぎない。古來靈蓮として著名であつたが、明治廿七年後咲かない。

第二四圖　多頭蓮

菖蒲濱ハマゴウ群落

同線野洲驛より一〇粁
同驛よりバスの便あり
吉川港より〇、三粁

野洲郡中洲村大字菖蒲地先の湖岸にある。濱は琵琶湖岸にも稀に見る絕景の地で、近江舞子の稱ある雄松濱にも劣らない。砂濱に一帶の砂丘があり、そこにクロマツ（栽植せるものであらう）が茂り、その間にハタガヤツリ、メドハギ、ハマゴウ、ハマヒルガホ、スミレ、ウシノケグサ、コマツナギ、ガヽイモ、タチスズシロサウ、ハタザホ、カハラアカサ、クロカハズスゲ等の植物生育してゐる。就中ハマゴウは海濱に生ずるものと異なるなきまでによく茂り、其の數大形なもののみでもゐる。

百株を越え、その最も廣く茂れる株は周圍十三、四米に及ぶ。

由來、琵琶湖岸にはハマヒルガホ、ハマゴウ、ハマウツボ、タチスズシロサウ等の海濱植物を生じ、就中、ハヒマルガホが最も廣く生育し、湖岸の砂丘には殆どこれを見ない所はない。

次に多いのはタチスズシロサウで、これは主として伊勢四日市海岸に生育するものである。ハマウツボは以前犬上川口に生じたが今は絶滅したらしい。ハマゴウは各所に生育するが、その量多くなく、已に絶滅した所もある。しかるに獨り當所は前記の如くよく繁茂してゐるのは甚だ幸なことである。

琵琶湖岸に多種の海濱植物の生育するのは何に原因するか不明であるが、惟ふに、此の湖が第三紀まで海であつた事は地質的に明かであるから、或ひは其の時代の遺存物であるかも知れない。其の原因はとにかくとして、學術上の貴重な研究資料で、琵琶湖岸中最もよく生育せる當所を天然紀念物として保存したいものである。

ヒメユヅリハ　同線野洲驛より二、二粁

同郡三上村官幣中社御上神社境内に在る。普通のユヅリハに似て葉の中央が廣く且少し薄い。元來暖地の海岸植物であるに此處にあるは遺存植物の好例で、大木が六株ある。その上に芽生も數多い。尙ほ隣の妙光寺山にもある。

三雲村ウツクシマツ自生地　草津線石部、三雲兩驛より三粁　省營バスあり

甲賀郡三雲村字平松の美松山にある。美松山は東海道より僅に六百米ばかり西に入つたところにある面積約百八十亙（一町八反餘）ばかりの丘陵地で、その南方斜面一帶はウツクシマツの純林がある。ウツクシマツは、赤松の一種で、庭園等に植栽せらるゝ多行松の如く、下部より多類の分枝をなし、頂端よく揃つて傘狀をする。葉は少しく黃ばんで短かく、甚だ美しい形態を有する。多行松は園藝的に作り出された畸態であるが、このウツクシマツは自然生で、此山に限り生育し、周圍の山々には絶えて發生しない。且つ多行松と異つて甚だ大木ともなる。その最も大なるものは地上六十糎の所で周圍二、一米、それより八幹に分岐して高さ十三米に及ぶ。これに次ぐものは大小參差、五百餘株に及び特殊の景觀を呈する。赤松の變異といはれてゐるが、如何にしてかく變形したるかに就ては、偶然變異に由る畸態であるか、將た特異の地味に由るか不明である。此の地は角岩よりなりて、表土甚だ薄く、爲に根の發生を妨げた事もその一因ではなからうか。此のウツクシマツは古來松尾神社の神木として世に知られ、東海道名所圖繪、伊勢參宮名所圖會等に之を閲覽し、又文人墨客の筆にも上る。明治十五、六年頃土地の有志が美松山保勝會を組織し、大正十年三月、

天然紀念物として指定せらる。

笠杉　草津線貴生川驛より一、四粁

同郡北柚村字高山にある。猿山神社の神木となつて居り、周圍に柵を繞らし、その前方に一宇の祠宇を設けてゐる。地上七尺邊より三枝に分れ、目通し周圍二丈六尺(八米)、樹高略十五間(二四、四米)、三枝は各々周圍略一丈(三〇、四米)樹齢凡そ二千年といふ。傳說に、垂仁天皇の朝、倭姫命皇太神宮を奉じ、鎭座の地を尋ね給ふ時、途次此の木に御笠を懸け給うたから、笠杉と稱したといふ。

躑躅山　同線大原市場驛より二、七粁　同驛より途中までバスの便あり

同郡油日村大字油日字馬野、俗に平畑野といふ二二一五番二十町歩にある。山躑躅もち躑躅相交つて、多いのは一坪に五六株、少いのも一株以上自生す。その高さ大抵二尺、一周內外の株を普通とする。此の地一帶大木なく矮松雜木混生する平野で、中に二箇丘地あり、里人躑躅山と稱す。花時頗る美觀を呈する。

高野槇　信樂線信樂驛より一粁餘

同郡雲井村勅旨玉桂寺本堂前の左右にある。一見大小數十株を植ゑ込んだものの樣であるが、元左右に各一株を植ゑたものから分株的に繁殖したものである。右側の親樹は目通周圍六米、高さ三十二米、幹の上部にて九幹に分岐す、樹勢旺盛にして尙伸長しつゝあり、枝を岐つこと頗る多く、地上近くより枝を出しこれより四十七本の子樹を生じてゐる。左側の親樹は目通周圍四、六米、高さ二十八米、上部で七幹に分岐す。枝を多く生ぜる狀は右側のものに似て、これより二十六本の子樹を生じてゐる。大樹と小樹の關係は樹根部を掘り調査すると各親樹と連絡し、然も匍匐枝的枝は何れも現存する。卽ち枝は初め幹の周圍に水平的に生じ、漸次垂れ、其地に着きたるものは根を生じ、枝の先端直立して幹と成り、母樹の如く枝葉を多く橫出し、これら新株の下枝が地についてはは又根を生じ、幹を直立し、漸次新株を形成したものである。

近衞櫻　同線信樂驛より一〇粁

同郡多羅尾村舊代官多羅尾氏邸內に在る。傳へて氏祖が近衞家より分れる時京都御室の枝垂櫻の分蘖を植ゑたといふ。幹圍十一尺、樹高四十二尺。

茶樹　同驛より一二粁

同郡朝宮村大字宮尻八六番地に在る。樹高十四尺地上四寸の處一尺一寸同四尺の處七寸四分、枝は地上約六尺七寸の所から出る。樹齢約三百年。此の樹もと弘法園に在つたのを百年前、現庭園に移した。その移植の際は尚大きかつたが、本幹枯れて今のものは其の蘖の成長したものなりといふ。大正十一年九月保勝會より標石を建つ。

左卷榧　近江線日野驛より九粁　同驛よりバスの便あり

蒲生郡西大路村大字熊野字東坂一八七番地及び同村字中家（なかや）二六四番地にある。字東坂に二株あり、共に坂利右衛門氏私有地内で、一株は庭前崖の處にあり、目通周圍二尺六寸、高さ約三間半。他の一株は居宅に近い傾斜地に在り、目通周圍五尺四寸、高さ約七間ある。字中家のものは前田清藏氏所有畠地の崖に在り、前者より稍太く、目通周圍五尺八寸、高さ約七間で、附近には實生の若木數株生育す。三株の榧とも、枝葉其他普通の榧と毫も異ならないが、種子は著しく長大で、長さ一寸五六分、周圍一寸二分内外、種皮の外面に螺狀の線條數多左旋又は右旋す。これ左卷榧の名ある所以である。三好博士は果實の特徴により新種と考定し、内務省天然紀念物調査報告書に記載せられた。大正十一年十月天然紀念物として指定さる。

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落　近江線日野驛より八粁　山麓まで自動車の便あり

蒲生郡鎌掛村鎌掛谷にある。鎌掛川の南岸に沿つた斜面に二千餘アールの地に殆んどホンシャクナゲの純林をなし、その數三萬餘株に及び、花期に對岸より一望すれば一大美觀である。最も密生せるは割谷より奥割、庵立、鷲ケ巣、女木谷に至る間である。此の地のホンシャクナゲは、花瓣七裂、十四雄蕋をなし、關東地方山地の五瓣十雄蕋のシャクナゲと異なる。併し往々八瓣十六雄蕋のものもある。花色は淡紅を主とし、他には濃紅色、又は殆んど純白のものもある。元來、シャクナゲは相當の高地以上に産するものであるが、本群落は僅に標高三、四百米の所にあるので甚だ稀有の事である。昭和六年三月三十日、天然紀念物として指定せられた。（本縣天然紀念物調査報告第二冊參照）

古友谷マルバノキ群落　近江線日野驛より八粁

同村字加情（カシヨウ）小字古友谷である。灌木で、高さ二三米、十數本の株立となり、葉は心臟形でハナズハウの葉に似てゐる。花は海老茶色で、液出、二個づゝ背中合せとなり、徑六粍、蕚片五、卵形で瓣片は線狀披針形、雄蕋は五本、雌蕋は子房上位、花柱二、朔果は扁球形凹頭である。マルバノキは

十月頃紅葉と同時に花が咲き、且つ昨年の果實がその頃熟して紅葉、花、果實の三者が同時に見られる面白い植物である。此の植物は我が國特産の植物であるばかりでなく、この屬のものはこれ唯一種であるから、種のみならず、屬も我國特産といふことになる。これまで木曾と四國一部で知られて居り、本縣では甲賀郡信樂町田代、蒲生郡南比都佐村上駒月等に存在が知られてゐたが、こゝのが最も立派である。

正法寺の藤

近江線日野驛より約八粁

蒲生郡鏃掛村の東南邊にある正法寺の境内で、本堂の西に藤棚がある。枝條蔓延して東西約五米、南北約二十二米に及び、棚の高さ二米餘、紫藤で主なるもの六幹あつて最大周圍四八、五糎。あまり大きくはないが、その花序(花房)は稀に見る長大なもので、下垂すること一米餘に及び、一米半を越ゆるものも稀ではない。誠に見事な藤花である。此樹は元祿五年妙心寺の僧普存がこの山に正法寺を再興した時に移植したものと傳へられる。

布施池水生及び濕地性植物群落

八日市線市邊驛より三粁
近江線長谷野驛より一、五粁

蒲生郡市邊村大字布施にある。池は上下に分れ、周圍約五粁、面積約二十三「ヘクタール」、その中に生育する水生植物を擧げると、

沈水植物＝オグラノフサモ、マツモ(キンギヨモ)、センニンモ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、ノタヌキモ、クロモ等十二種。

浮水植物＝サンセウモ、ガガブタ、マルバオモダカ、ヒメヒルムシロ、メヒルムシロ、ジユンサイ、ヒツジクサ等九種。

挺水植物＝ホソバオモダカ、ホソバノウナギツカミ、ミクリ一種、ヘラオモダカ、シカクホタルキ、シヅキ、シソクサ等十數種。

に達するが、その内、ヒメタヌキモ、マルバオモダカ、メヒルムシロ、シカクホタルキ、シヅキ、ミクリ一種等は本縣では稀有のものである。又ジユンサイは産量多く、附近農家の副業として採收し、その産額年々一萬本を超えるといふ。

濕地性植物は、池の南方の濕原に多く、その名を擧げると、

ヤチスギラン、ミヅスギ、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヒナザサ、イシモチサウ、イガクサ、ミカヅキグサ、イヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ウキシバ、ウンヌケモドキ、マウセンゴケ、ヒナノカンザシ、サハシロギク、ヤマサハシロギク、サハギキヤウ、サギサウ、イヌセンブリ、アキナヘ、コマウセンゴケ、ミカハシンジユ、マネキシンジユガヤ、ケシンジユガヤ、ヌ

マトウガラシ

等で、それ〴〵植物地理學的意義をもつもの多い。又ヤチスギラン、ハヤザキサハフダギ、ヒナノカンザシ、サハシロギク、ミカハシンジユ、マネキシンジユガヤ、ケシンジユガヤ、ウキシバ等は本縣にては稀有のもので、ヤマサハシロギクは此の地を模式產地として命名された特產植物である。

上述の水生、濕地性植物のうち、マウセンゴケ、コマウセンゴケ、イシモチサウ、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、タヌキモ、ノタヌキモ、ヒメタヌキモの九種は產肉植物であり、本縣產肉食植物十二種の內大多數がこの一域に集れること、及び水生、濕地性植物がそれ〴〵その生活に適應する點を觀察するに便なること等に於て、この地は本縣植物學上の一寶庫たるを失はぬ。なほ、ヤチスギランは北方高山性の植物であるが、平地としては此處と、山城泥池とはこの植物の南限地である。（本縣天然紀念物調査報告第二冊）

花ノ木　八日市線武佐驛より〇、三粁

蒲生郡武佐村大字長光寺、長光寺境內にある。石段を上れば境內左方に在り、樹高約四十二尺、周圍八尺、地上七尺許りの處より十五本の枝を岐つて繁茂し樹勢旺盛である。

本樹は雄株で葉は他の花の木の葉に比し幅稍廣く、且つ表面膨れ出て少しく外觀を異にする。開花は三月下旬より四月上旬に及び、花後嫩葉紅色を呈し、美觀なること他の花の木と同一である。十一月上旬の紅葉も又頗る美觀である。大正十一年九月縣保勝會より標石を建つ。

花ノ木　近江線八日市驛より一、七、五粁　二、八粁

愛知郡東押立村にあり、一は大字南花澤字花の木村社八幡神社境內、二は大字北花澤字花の木三百九十八番部落有畑。

一は周圍に柵を環らし、目通周圍十二尺、上部は二本の太き枝に分る、樹高約七十尺。

二は畠地の中に孤立し、周圍に柵を環らし、西方より多くの支柱を以て支ふ。目通周圍八尺六寸、高さ五十七尺、約十尺の處で六本の太い枝に分れる。舊時は地上約五尺の邊より二大幹をなしてゐたが、慶應二年暴風の爲め其の一幹折られ、他の一幹が現存する。兩株の花の木は村民神木と稱し觸るゝ事を禁じ、之を犯すものあれば災を來すものとして保護して來た。明治四十三年九月、皇太子殿下が本縣に行啓の際、膳所中學校及び大津圓滿院の御座所に於て、此樹枝及び寫眞を台覽に供し、次いで分木獻納の榮を得た。花の木は椴樹屬の落葉喬木で本邦固有種植物體系上珍奇な要素の一として重ぜられる。四月、葉に先だつて開花す。色淡紅、その紅葉も亦美觀である。大正十月三

月、兩樹とも天然紀念物として指定せらる。

ムべ　東海道線近江八幡驛より八、五粁　太湖汽船長命寺港

蒲生郡島村にある。古來有名な產地で、傳說によると、天智天皇が此の地に行幸あつた時、老人多きを御下問あり、此の果實を食するによつて長命する旨言上したところ、「宜なるかな」と仰せられたので、ムべなる名が起つたと傳へる。ムべは元來南方暖地の產であるが、此の地にかく多く產するのは珍奇である。

伊崎暖地性植物群落　東海道近江八幡驛より約十粁　太湖汽船沖島港

蒲生郡島村奧島伊崎である。伊崎は湖中に突出する花崗斑岩地で、斷崖は碧潭に迫り、形よい樹木は岩上に茂り、湖中稀に見る景勝の地である。此の地は有名なる伊崎不動尊があつて、古來、森林の濫伐を免れ、よく固有の林相を存してゐることは、誠に幸なことである。此の伊崎の植物群の特長は、(一)モクコク・ヒメユヅリハ・モチノキ等の暖地性海岸植物の現存すること、(二)ヤマモモ・クロバイ・フウラン・ヒトツバ等の暖地性植物に富んでゐることである。モクコクは全縣內に殆んど他に自生なく、他の海岸性のものと共に琵琶湖が曾て海であつたときの遺存物といへるものであり、またヒトツバは甚だよく繁つて居る。前記のものゝほかにはシヒノキ・アカメガシハ・アラカシ・シキミ・イタビカヅラ・カナメモチ等が見られる。

愛知神社連理樫樹　同線豊郷驛より一、五粁

愛知郡日枝村大字吉田鄕社愛知神社にある。樹高約十五米を有する二株の老樹シラカシは七十糎を隔てゝ南北に並び立ち、地上五米の所に於ては兩樹幹相隔ること一・六米となり、此所に南方の樹より北方の樹に向つて一樹枝を出し、兩樹幹を連結する。南方の一株は根本の周圍三・一二米、目通りの周圍二・二二米の太さで、地上五・〇三米の所より北方の一樹に向つて、周圍一米、長さ一・六米の樹枝を出して兩樹幹を連結する。北方の一株は根本の周圍二・八米、目通りの周圍一・八二米の太さで、地上五・五八米の所で南方の一株より來れる樹枝と密着する。この連理は一見、兩樹幹に架せる橋梁の如く、また兩端膨大し、中央部稍細いから、恰も長き鼓の如く、誠に珍奇である。嘗て明治二十九年及昭和九年の暴風の災を被つて倒れたことあつたが、是を起して現在に至つた。連理の事によつて、俗に和合、緣結びの靈樹と仰がれてゐる。(本縣天然紀念物調査報告第二冊參照)

君ケ畑の杉　同線八日市驛より約三〇粁

同群東小椋村君ケ畑大皇器地祖神社にある。幹圍二十八尺、高百八十尺に達し、縣中の杉中の巨樹である。

在士の藤　同線尼子驛より約一、六粁

犬上郡西甲良村在士、八幡神社々前にある。高さ一間半の棚作りで、幹の廻り大なるもの二尺三寸、それより以下、一尺五寸、一尺五分、九寸、六寸五分等大小合せて十數株ある。栽植年代不詳。花は薄紫と白の二種。この藤は老木と稱する程のものではないが、昔、この地の出身、藤堂高虎公（後、津の城主）が石清水八幡宮の藤二株を移植寄進した名木なりと傳へる。故に此の神社では毎年開花十二房を藤堂家へ贈る慣例で明治次後も猶、嚴肅なる花切式を行つてゐる。

大見放山レンゲツツジ群落地　同線多賀驛より八粁

犬上郡大瀧村大字佐目字大見放千八十五番地にある。同地頂上附近の三「ヘクタール」ほどは松樹疎なる草生地で、こゝにレンゲツツジの群落がある。種類は普通のレンゲツツジとウラジロレンゲツツジの二種あつて、その量甚だ多いが、惜しむべきは、毎年の柴刈のためにみな一米に足らぬ小木のみである。今後、此の種の刈取を止めて、障害木を刈り取るならば、立派なレンゲツツジの純林となり、花期には滿山花を以て埋まるであらう。

清涼寺南天　東海道彦根驛より一、五粁

犬上郡青波村大字大洞清涼寺境内にある。本堂の左右兩側にあつて何年頃誰れが栽植したかの記錄は詳かでないが、百年以上を經過せるものであらうといふ。

一時非常に繁茂し本堂の屋根以上に達したが、大正六年大降雪の爲め幹枝の損傷多く、其後犬に保護を加へ現在に至つた。本堂右側のものは大小六十有餘本叢生し、就中大なる株は根元に於て幹圍六寸二分、高さ三間餘、小なるものも廻り二寸四分前後に達する。本堂左側のものは右側のものより小さく、總數四十五、六本叢生し、根元に於ける幹圍三寸二分、高さ一間半前後。小なるものは幹圍二寸一分前後である。果實は兩側共赤實のもの。

靈山フクジュサウ自生地　東海道線醒井驛より九粁

犬上郡芹谷村大字靈山にある。フクジュサウは古來新年用の花卉として人のよく知るところで、本邦各地に自生地を見るが、現今はその採收のため漸次自生地を減少しつゝある。新年用のフクジュサウは民間では複瓣重瓣の園藝品を賞翫するが、皇室に於かせられては單瓣の野生品を御使用遊さ

れた趣誠に懼れ多き事である。而してその單瓣の献上品は全く靈山産のものであつたことは各種の記錄で明らかで、當時禁裏献上品は單瓣に限られ、五攝家は重瓣、身分に應じて三重瓣八重咲とその瓣數を增別したのである。而して明治天皇東京御遷都後は全く此の古風が止んだのである。靈山のフクジユサウ自生地は同山頂上三角點より北西に亙る傾斜地、落葉灌木の群落中にある。その狀態は散在せる石灰岩露出の間、落葉の敷きつめたところにあり、灌木の根元等に菊花に似た黃金色の單瓣花の咲き出る樣は實に氣高く、禁裏に献上された尊き事の偶然でない事を思はせる。

了德寺お葉附イテフ

東海道線醒井驛より〇、五粁

坂田郡醒井村大字本町了德寺境内にある。目通周圍七尺五寸、高さ六間餘、樹齡推定八、九十年の雌株である。毎年多數の銀杏を生ずるが其過半は葉面上に生じ、發育不完全なるものが多く、概して小形で長楕圓又は細長く、普通銀杏と著しく形狀を異にする。葉面上の銀杏の數は多いものは五個を數へるが、概ね一、二個で、他に葉緣に生ずるもの、二裂片の中隔に當る所に生ずるもの等ある。葉が裂片をなしてゐるのは化石公孫樹に見る所で、かゝる葉を生ずるのは所謂先祖歸りを成すものとみられる。又銀杏が葉面上に生ずるのは花がもと枝の一部であつたと云ふ學說を裏書するものである。昭和四年十二月天然紀念物として指定せられた。

公孫樹は支那及び日本特產のもので我國では神社佛閣の境内に多いが、本樹の如く葉面上に銀杏を生ずるものは稀であり、そのため當所のもの及び山梨縣巨摩郡下山村產のもの、茨城縣師範學校々庭產のもの、水戸市外常盤村八幡神社境内のもの、等の四個所は既に早く天然紀念物として指定せられた程である。併し我が縣下に於ける葉上結實種は、更に左の三箇所にも分布してゐるのである。

(一)野洲郡守山町東門院境内

同じく雌株。推定年齡約百年餘を經過し、樹高九間餘、幹圍九尺、相當の老木に屬する。地上五六間の處より再三枝打ちせられ、跡に殘存せる枝條のみ繁茂してゐる。扇狀葉の上に結實する果實は多く小形、圓味を帶び發育不良で、甚だ不整である。普通一個宛結果し、果實の長徑は一、五センチ、周圍四、〇センチ、醒井村了德寺の果實に比し至て小形、圓味を帶ぶ。多くは該樹の樹幹上部、新梢に結果し、毎年結實する全收量は約三斗餘、此の中葉上結實のものは僅かに二、三%他は皆普通の果實を結ぶ。

(二)滋賀郡坂本村穴太盛安寺境内

是も雌株、幹圍五尺三寸餘、樹高約七間樹齡約四十年位であらうといふ。果實は比較的小形、守山町東門院產のものに似て居る、醒井村了德寺の果實が一般に長楕圓形なるに比し、是は小形で稍圓形である。扇狀葉上に結實する狀態は普通は一個、稀に、二三個のものもある。一葉上に結實したものは其の一、二個を除けば他は

皆發育不良で不完全なものを生ず。樹は可なり生育旺盛で、葉上結實は多く上部の新梢であることは、東門院の公孫樹に似てゐる。又其の結實割合も二—三%であるといふ。

(三)大津市別所池田建吉氏庭内

同じく雌株、高さ九間半、幹圍六尺七寸、推定樹齢約百年を經過したもので、扇狀葉の上に結實する狀態並に果實の形狀は概ね坂本村盛安寺のそれに似てゐる。該樹も結果する部分は上部の新梢のみで其の割合は又一—二%である。果實の全收量は毎年約二、三斗位であるといふ。

醒井不斷櫻

同醒井驛より〇、八粁

同村大字醒井字新町加茂神社境内にある。街道より登る石段の右側、醒泉の上四、五間の處に立つ。四季絶えず單瓣淡紅色の花を綴るから不斷櫻の名がある。樹齢百餘年のもので、周圍二尺五寸、長さ十五尺の大幹のものが近年生育してゐたが、枯死して現存するのは其の蘖で周圍約九寸、七寸、五寸の三幹がある。高さ十二尺。花は四時絶えないが最も多いのは九月から十月末頃で春は降雪の爲め花蕾を損じて麗しくない。樹種はフユザクラと稱するものである。明治十一年十月二十二日　明治天皇御巡幸の砌、滿開の一枝を天覽に供した。昭和五年二月、天然紀念物として指定された。

欅及びイテフ

同線近江長岡驛より〇、五粁

同郡東黒田村長岡、長岡神社に在る。欅は二本あり、一は樹高六十尺、幹圍二十三尺、枝張二百坪、株張七坪、その二は樹高五千四尺、幹圍十九尺、枝張百五十坪、株張七坪で共に樹勢盛んである。イテフは樹高百十二尺、幹圍二十二尺、その幹の中間より「銀杏の乳」が垂れてをる。結實の最完全なこと本邦第一位といはれる。

伊吹山植物群落

同線近江長岡驛より伊吹村へ六、五粁
同驛よりバスの便あり

同郡伊吹村及び春照村にある。伊吹山は標高一三七七・四米、古生層の石灰岩・粘板岩・硅岩よりなり、山麓一合目邊までは森林が繁茂するが、それ以上は往昔火入れをしたゝめか一帶の草原で、灌木及び草本がよく生育して居る。其のため植物の種類まことに多く「伊吹百草」の名はそれを意味し、特に藥草多く、德川幕府はしば〳〵採藥使を當山に派遣し、有名な飯沼慾齋等も當山に採集した。古くは織田信長葡萄牙の宣教師に方五十町の地を此の山に於て與へ藥園を開かしめた。依つて三十餘種の藥草を本國より移植したとの記事が「切支丹宗門本朝實記」等に見える。しかし其の眞僞は不明なれどイブキエンドウ・キバナノレンリサウ等、歐洲に普通で、本邦には此の山のみの

植物あるを見れば或は事實であつたとも考へられる。尤も此の二植物は藥草ではないが多分苗か種に混じて移入された雜草と思はれる。明治以後植物學の進歩と共に此山に採集する植物學者多く、伊吹山は植物採集地として全國著名のものとなり、「イブキ」の名を冠する植物約三十種の多きに上つた。伊吹山所産の植物は羊齒植物以上の高等植物のみで一千餘種に上り、其の中特に天然紀念物として注目に價するものは、

イテフシダ、イハヤシダ、オホアブラススキ、イブキソモソモ、イブキトボシガラ、ミヤマスズメノヒエ、イブキワニグチ、ヒメキズキ、オホバジヤノヒゲ、クワンサイエノキ、イブキトラノヲ、キンバイサウ、イブキトリカブト、アシブトウヅ、イブキガラシ、エゾハタザホ、キバナハタザホ、ギンバイサウ、エゾキンバイ、イブキシモツケ、イハシモツケ、イタチササゲ、イブキエンドウ、キバナノレンリサウ、オホバクサフヂ、イブキフウロ、アカヌマフウロ、ゲンナイフウロ、ヒメフウロ、カキノハグサ、ヒナノキンチヤク、ヤマトグサ、イブキスミレ、ヒメキクバスミレ、ヲニシバリ、ハシドイ、コイケマ、イブキジヤカウサウ、ラシヨウモンカヅラ、クガイサウ、ケヤマウツボ、キヌタサウ、カンボク、カノコサウ、ナベナ、マツムシサウ、シデシヤジン、ホツバノセンダングサ、タイミンガサ、ナガバノカウヤバハキ、メタカラカウ、キヲン、ハンゴンサウ、ホクコクアザミ、イブキアザミ

等である。本縣では大正七年伊吹山藥草採取取締規則を發布し、二十八種の藥草に對して許可制を採りこれを保護することゝなつた。

永明寺五葉松　東海道線柏原驛より〇、五粁

坂田郡柏原村永明寺境内にある。樹齡約二百餘年、古來「龍鬚の松」と稱する。もとは一幹分岐して十三枝となつてゐた。現在殘存せる枝幹の周圍は七尺一寸——六尺一寸等で他は殆ど此れに似て居る。樹高約七、八間枝葉は相當繁茂してゐるが、漸次衰退の狀況にある。傳へによると今より百九十餘年前、延享年中、本堂再建の際、此處に移植したものなりといふ。五葉松は我國山野に自生するが、該樹の如く樹齡二百餘年を經過し、巨大なる老樹は稀である。

清瀧柏槇　同驛より一粁

坂田郡柏原村清瀧字塔中三三七番地堀井新次郎氏私有地内にある。一名イブキといひ、樹齡約千二三百年餘を經過せる老樹で目通幹圍は一丈四尺三寸、樹高約五間。葉は殆ど全部鱗狀葉のみである。又南面せる枝葉の一部は相當繁茂してゐるが、他はやゝ腐朽して老衰の狀態にある。今後相當の保護を加へなければ枯死する惧れがある。該樹はもと京極高光氏此地に勝願寺を建立し此處に寓居してゐた時、伊吹山より此の寺園に移植寵愛せられたものであると傳へられる。其後勝願寺は衰

廢し、今はビヤクシンのみその趾に現存するのである。

姉川クラゲ　同近江長岡驛より七尾村へ八、八粁

同郡伊吹村及東淺井郡七尾村所屬の姉川岸に發生、春季採收する。伊吹村に於ては多數に發生し、村民毎年一回春季三月下旬乃至四月上旬に採集、乾燥貯藏して食用に供す。七尾村に於ては川流の關係上發生すべき場所少い。今より十數年前までは多數採集して食用に供したといふ。又この種類に屬する「イシクラゲ」は伊吹村落の桑畑道路の兩側、山道附近の小石の間、又は岩石の窪、石垣の上部等に盛に發生するが、伊吹山麓俗稱「しらざり」附近のものは品質佳良なりといふ。姉川クラゲは水前寺海苔、壽泉海苔と類を同じうす。これを精製販賣すれば食用品として珍重されよう。

銀木犀　大津港より湖上二、二粁　太湖汽船竹生島港

東淺井郡竹生村所屬竹生島にある。寶嚴寺事務所の側を過ぎて、更に石段を登つたところにある、大木である。根部の周圍九尺六寸、地上六尺の處より八幹を成し、高さ八間餘、枝葉好く繁茂す。推定樹齡三百四十年と稱せられる。豊臣秀吉この辨財天に參詣の折、紀念として自ら植ゑたものであるといふ。

素盞嗚命神社藤　北陸線虎姫驛より約七粁　同驛よりバスの便あり

東淺井郡田根村大字上野、素盞嗚命神社本殿の右側にある。普通種。葉は土際より恰も裂いた樣になつて半ば腐朽し、厚さ約七寸前後、樹皮部が殘つて漸く生命を保つて居るを云ふ有樣である。幹の最も太い部分の廻り卽ち根元は約九尺七寸、地上三尺前後の所より五裂して各一尺五寸乃至二尺廻りの蔓となり、附近の樹木に纏絡して高さ百二、三十尺の頂上に達して居る。推定年齡約五百餘年。實に稀有の老木である。花は毎年五月下旬頃開き、相當の花蕾を結ぶといふ。斯の稀有の老木をば今後、天然紀念物に指定し大に保護を加ふる必要がある。

茶樹　同線木之本驛より〇、五粁

伊香郡木之本町字早川に在る。桑園中に一株孤立し、十本餘の大幹と數多の小幹とを分出する。大幹は周圍概ね五寸以上で、八、九寸のもの數本あり、高さ十四尺に達する。普通茶樹の如く摘芽後刈り込まないため枝幹密集せず、殆ど自然の儘に繁茂し、枝張りは東方に約十尺、西方に十一尺、北東に十尺に及ぶ。畑作の妨害となり時々途中より切斷した痕がある。若し自然の繁茂に委せたな

らば尙六、七尺伸長してゐたものであらう。樹齡推定三百年と稱する。普通摘芽する茶樹は老木となるに從ひ葉小形となる傾があるが、此茶樹は斯くの如き老木なるに係らず、葉の形大きく、大なるものは長さ三寸八、九分、幅一寸六、七分に及んで稍長方形である。毎年新芽を摘み茶を製するが、數年前降雪の爲め最大の一幹失ひ採取量を減じたといへ、尙年々四貫目內外を收得するといふ。

キリシマ及びサツキ　同木之本驛より三、五粁

同郡伊香具村山梨子湖岸横山孫太氏宅に在る。母屋の軒先一間の地に、北より家の西側に沼うて一、二、サツキと次第に南に列ぶ。キリシマ一は、普通の種類で、其の幹の周圍、根元にて一尺六寸二分、地上三尺にて一尺三寸四分、樹高十三尺五寸、本幹約五尺の處より三叉となる。一枝の太さ九寸六分、他枝も亦之に近い。各枝何れも細枝を出して擴がり、傘狀の樹形を呈す。その枝張北枝五尺八寸、南枝三尺、西枝五尺、東枝三尺。キリシマ二は種類普通で、樹幹の周圍根元で一尺五寸三分、目通一尺三寸、樹高十四尺三寸、地上約五尺八寸の所から、枝を分つ。樹形傘狀が一の半球圓狀に對し、二は稍楕圓形である。本幹やゝ南に傾く。枝張、東枝五尺、西枝五尺、南枝五尺、北枝三尺。サツキは普通種で、幹圍根元で三尺、地上數寸ならざるに急に細くして一尺五寸六分、約四尺の點で九寸四分を有す。樹高九尺五寸、地上約四尺七寸の所から二幹となり、次第に細枝に分れる。枝張りは、東枝四尺五寸、西枝五尺五寸、南枝三尺五寸、北枝三尺六寸、各枝の先端は樹葉密生して重く垂下す。特に西枝甚だしく支柱を施す。

三樹共に灌木狀を呈せず、葉一もなく、喬木の姿體なのは持主代々相傳へて分蘗をかきとる爲である。

三國山寒地性植物群落　太湖汽船海津港より約九粁

高島郡西庄村字白谷三國山明王ガハゲ附近である。頂上（標高八七六米）の南方、花崗岩の山崩れせる部分（明王ガハゲ）に最も多い。崖下には、エゾリンダウ、オホバキスミレ、コゴメグサ、イハシヤウブ、キンコウクワ、オホコメツツジ、カライトサウがあり、崖の上には、ヒメツゲ、ヒメシヤウガ、ヒメモチがあり、崖の西方の沼澤地には、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、マウセンゴケ等の食蟲食物を初め、ヤチスギラン、キンコウクワ、イハシヤウブ等、又その北方には、ヒトツバカヘデ、エゾユヅリハ、ナガエノアザミ等を產する。此等一帶は、實に面白い風光を呈し、植物研究は勿論ながら、別に又一遊の價値がある。（本縣天然紀念物調査報告第二冊參照）

三重山寒地性植物群落　江若線今津驛より六粁

同郡川上村大字日置前字河内にある。山（標高九七四米）より東方、石田川の上流に當る河内谷及材木谷へかけて寒地性植物多く、主なるものは、オホニガナ、チヤウジギク、エゾリンダウ、ウメヘビイチゴ、ヤグルマサウ、ルイエフボタン、イチゲキスミレ、サンカエフ、オホバシヨリマ、クサレダマ、ヤマオダマキ等で、就中、オホニガナ、エゾリンダウは恐らく本邦の南限地であらう。オホニガナ、エゾリンダウを最も多く產するのは材木谷の奥の水濕地である。谷に沼うて細長い水濕地にはこの二種の他、チヤウジギクがあり、沼澤地にはミゾゴケが茂り、その群落中には、ヤマドリゼンマイ、ビツチウフウロ等の珍種もある。これより東北一粁の平池附近にも是とよく似た沼澤地がある。（本縣天然紀念物調査報告第二冊參照）

藤樹書院藤　同線水尾驛より二、五粁

同郡青柳村藤樹書院阯にある。近江聖人の遺愛で老松に纏絡し、高四十五尺に及ぶ。普通種。

帝釋天堂松　同線饗庭驛より一、六粁

同郡饗庭村旭字田井帝釋天堂境内にある。根元の周圍二十四尺、目通りで二十一尺ある。地上三尺の所から二幹となり、高さ四十八尺餘。枝は下方に垂れ、半開の傘狀を成し、下方の枝は東に約二十八尺、西に約十八尺、南に約三十尺、北に約三十三尺擴がる。幹は東北に凡そ六十度傾いてゐるから、一圍以上の支柱五、六本を以て支へてゐる。推定樹齡八百年といひ、本縣に於ける松の最大なものである。樹姿愛すべく、根部に近い部分に生じた無數の瘤狀凸起は頗る雅趣に富む。

鑛　物

石山寺硅灰石　東海道線石山驛より一、六粁　京津電車線螢谷、バスの便あり

大津市石山寺邊町石山寺にある。上下にあり、下方では、小池の邊に奇形を呈する白色の岩塊で、石灰岩が附近に迸發した花崗岩のために接觸變質したもの。小池の側にある小舍の内に水壺があるが、これも一つの石灰洞である。上方では、中庭に石山寺の名の起りとなつた突兀たる大岩塊があるが、同じく接觸變質により大理石硅灰石と成つたもので、頗る雄大である。東狀に連晶を成し、二十粁大の塊をなすものがあり、個體は五粁大で、五糎のもの集合したものである。表面に出たものは淡褐色を帶びるが、新鮮なものは純白色である。大岩塊の一部は接觸鑛物ベスーブ石の存在が

認められる。徑半糎から一糎許の褐色柱狀の結晶で、長く脈をなしてゐる。蓋しベスーブ石も比較的多く存し結晶の雄大なものを含有すると推定されるが破壞し得ないから之を確め得ない。中庭の大岩塊で注目すべきは褶曲であつて、中央部の大塊に扇狀及伏臥褶曲の顯著なものがあり五粍乃至十粍の層を成し、硅灰石、ベスーブ石等はこれに並行してゐる。褶曲の好標本で稀有のものである。大正十一年三月天然紀念物として指定された。

山上千石岩

江若線滋賀驛より四粁
京津電車線滋賀

同市滋賀町山上にある。長等山脈中の巨巖で海拔約三百五十米の所にあり、塊の高さ約二十五米、幅は廣い處で二十米に及ぶ。南北に廣く東西に狹い。西側の山の背に面した方は臺盤隆起してゐる爲め十米内外である。此の岩塊は表面風化して灰黑色を呈する花崗岩で地表近く噴出した岩漿の冷却固結したものである。石英は五粍乃至一粍の結晶を成し、結晶は六角の柱面が發達してゐないで、兩端の六角錐のみ發達してゐる。長石は正長石で一粍大のカルルスバード式、バベノ式等の双晶が發達してゐる。

附近の地質をみると千石岩は比叡山脈の岩體の一部で、共に花崗岩族である。比叡山脈では深造岩として逆發したものは、餅磐を造り、其等を被つた古生層は其の後水蝕を受けて全く露出したものが多く其の殘部は南側長等山等では粘板岩、硅岩の露出を見せ、又其の西南なる五別所では同じく古生層石灰岩の露出がある。此等石灰岩及び粘板岩は千石岩等の花崗岩漿逆發に際し、其の接觸變質作用を受けたものである。即ち花崗岩岩漿に於ては、急冷の爲めに班晶組織を呈してゐるのである。

他に粘板中に一糎内外の菫青石の結晶を變成してゐるし、又石灰岩中には五別所に於ける如く大理石となつてゐるものがある。尙大津市より千石岩に至る道にも早尾神社附近より花崗斑岩の露出があるが、其の中には所々に半花崗岩の黑雲母少い白色緻密の岩脈の走つてゐるを見る。これは第二次的に逆發したものであらう。

五別所接觸變質地帶

同滋賀驛より三、八粁
京津電車線滋賀

同地字五別所石切場にある。この地帶は石灰岩が火成岩の逆發により變質して結晶質となり、大理石と成つたもので、其の中に種々の接觸變質鑛物を生じ、附近の粘板岩にも略同樣の狀況を呈するのである。我國に於ける接觸地帶として鑛物學、地質學上著名であるが、常に大理石を採掘して居るから其の狀態は變化しつゝある。今同所に產出する接觸鑛物を擧ぐれば左の如くである。

一、石灰岩中に產出するもの。

硅　灰　石……白色、絹絲狀をなし光澤がある。

ベスーブ石……淡灰色、略四角柱狀の切口が見える、甚だ小さい。

柘　榴　石……赤褐色通常小脈狀をなすが稀に結晶形を認め得る。

ヘデンベルグ石……輝石の一種で柘榴石と伴ひ青綠色。

大　理　石……純白のもの少なく多くは黑斑がある。

二、粘板岩中に產出するもの。

菫　青　石……俗に櫻石と稱するもので、新鮮なるものは菫青色を呈する。腐蝕したものは茶褐色である。六角柱狀をなし表面雲母化したものがある。

黑　雲　母……小片の集合したもの腐蝕したものは茶褐色を成す。

ウランエックス鑛土　同線雄琴驛より〇、六粁　大津よりバスの便あり

滋賀郡雄琴村雄琴標高一四〇米地帶にある。第四紀古層の植土に屬し、帶褐黃色で殆んど水に溶けない微細の粉末より成る。

ラヂウム鑛泉　同雄琴驛より〇、五粁　大津よりバスの便あり

同地蛇ケ谷に湧出する。大正三年六月、大阪衛生試驗所で檢定した採酌時に於ける放射能作は一リツトル五八六マツヘ。放射能作はラヂウム、エマナチオンに起因する。透明。現在之を加熱浴用に供する。胃腸病、咽喉病、婦人病等に効があるといふ。

化石林　眞野驛より四粁

滋賀郡伊香立村下在地に在る。字大谷より字おぼろ賀に至る十餘町の間で地質は新生代第三紀末—第四紀初に屬する砂岩及砂質粘土にてなる。杉と松の化石が河底より一米以上の處に直立五株を認められる。その大なのは徑四尺以上、根は三叉にわかれ五尺に擴がる。石化程度は仙臺埋木に似てやゝ炭化してゐるが木理整然。大正十一年縣保勝會標石建設。

鹿跳（しゝこび）・米淅（こめかし）の甌穴　東海道線石山驛より七粁

栗太郡下田上村大字關の津の下、同郡大石村大字東の鹿跳附近にある川の兩岸に黑雲母花崗岩累々として露出し、立木山の一部及び鹿跳橋の東北に接觸粘板岩が露出してゐる。米淅は此の河床中に存在する花崗岩に穿たれた甌穴で、直徑一米、深さ二米許の大いさである。形は稍歪んで三、四個の中心を認められる。略南北に走る節理より其の西半を破られ、現今は昔時の觀を減じたが、尙滿水期には甌穴に於ける河流の轉回を認めることが出來る。其の狀、米を淅し磨くのに似てゐるから

此の名がある。往時此甌穴中より丸い美しい玉を得たといふが、これは自然に廻轉琢磨せられたものである。

米浙に連續して下流關の津濱に亘つて大小數百の甌穴を認めるが、此等一帶は東西及び南北に走る節理多い爲に形歪んだものであり、直徑一米、深さ二米許のもの四、五十個ある。徑半米以上のもの百以上を算ふ。此甌穴と共に丸い花崗岩、硅岩の礫（徑二寸より五寸大のもの）が砂と共に埋もれ、滿水期には渦流を起して一偉觀を呈する。

鹿跳橋より縣社佐久奈度神社境涯に亘つてあるものを鹿跳甌穴といふ。境内裏、櫻谷の瀧附近には最も大きいものがあり、直徑二米、深さ五米許りのもの二、三個ある。形小なるものは百に達する。

米浙、鹿跳の甌穴は古來有名なるもので偉觀であるが、また學術上の好資料である。

田上山鑛物

東海道線石山驛より一〇粁

栗太郡下田上村、上田上村、大石村に亘る。

田上山は黑雲母花崗岩より成り、表面甚しく風化して一大禿山となつてゐるから、明治初年より多額の國費、縣費を投じて砂防工事を施してゐる。此花崗岩中には其裂罅に沿ひ、多數のペグマタイト岩脈の縱横に迸發するものがある。其主成分たる石英、正長石、雲母、副成分として多種多量の鑛物を伴出する。其の今日迄に知られた主なるものは水晶、長石、雲母、黃玉石、綠桂石、電氣石、狼鐵鑛、モナジツト、錫石、脆玉石である。

水晶

水晶は無色透明なものと、煙色の所謂煙水晶とを產する。前者は量質共に劣つてゐるが煙水晶は產出多く且つ色の濃いもの、淡きもの、濃淡交互に帶狀構造を示すものなどある。稀に煙色及び紫色の層交累帶を成す透明の良品がある。結晶には種々あつて右水晶、左水晶の區別をなし得るもの少くない。空晶中には液體の充滿する所謂水入水晶があるし、また、水晶の包裹物としては氣體、雲母、電氣石等ある。結晶の大いさにも種々あり、透明良質のもので長さ二十五糎、徑十二糎を算するものは最大に屬する。多くは長徑共にそれ以下である。

長石

長石は正長石及び斜長石等を產する。正長石には白色のものと淡紅色のものとある。又殆ど透明に近い氷長石、青色で綠柱石に似た天河石を產するが、品質良好でなく、且つ極めて少量である。正長石の結晶は甚だ完全なもの多く、單晶の外、双晶が多い。これ本地鑛物中特に名ある所以である。一般に單結少く双晶多く、而も多くはカールスバード式又はバベー式双晶に屬する。マネバツハ式双晶をも產するが至つて稀である。カールスバード双晶は外觀六角柱を成し、各面の幅に多少の廣狹がある。一端又は両

端に抱き合ひたる如き狀、又は半分づゝ接ぎ合せた樣な狀を呈してゐる。バベノ式双晶は常に四角四面の柱狀を成し結晶面中に凹陷したものがある。其の凹面大で一部馬鞍狀を呈するものがある。

雲　母

雲母は白雲母、黑雲母チンワルド雲母の三種を產する。白雲母は純白銀色を呈し、又淡紅色を帶び至つて小晶多く、六角板の徑八糎に及ぶものは例外に屬する。正長石の第二次生成物として存在し、重に六角板上に結晶して水晶等と共生する。黑雲母は白雲母に反し大晶多く、且つ其の產出量も豐富である。黑色のものと帶綠色のものとあり、前者は產出量甚だ多いが、完全な結晶に乏しく、多くは碎片又は劈開片に過ぎない。後者には大なる結晶片多いが、完全な結晶のものは得難い。チンワルド雲母は概ね異帶構造を示し著しく眞珠光澤に富む。中央部も亦此の光澤明かであるが、明瞭に其帶區を見分けられる。即ち六角形板狀の結晶の外廓に帶狀に緣邊に累積するから、直ぐ識別される。一般に此の外緣は一破片では無色透明であるが、厚さ數糎に達するものは銀白色を呈すること白雲母の如くである。多くは周緣に各直角を成す數多の皺がある。

黃玉石

本地產の黃玉石には大晶、小晶の二種あり、其成生の時期を異にするものと思はれる。決して共に同處に產するを見ない。大晶は前に生じ、多くは石英の上に兀立し尖端に屋根狀の兩斜面のみ著しく發達して、他の結晶面の甚しく小さいのが普通である。而して結晶の內部は常に密でなく、往々モナジット、電氣石、綠柱石等を包裹してゐる。今日迄に發見された大晶には長軸の方向に十九糎、短軸の方向に十五糎、高さ亦十五糎を越え重さ六瓩あるものもある。小晶は大晶よりも後に生じたものらしく、正長石、石英、雲母と共生し、結晶面の種類甚だしく內部は殆ど密實し、一般に透明のものが多い。黃玉石の精純なものは無色であるが一般に帶色で黃色のものが稍多い。黃玉石の名ある所以である。本地產には無色、淡靑色を普通とし、稀に褐黃色綠色のものもある。

綠柱石

綠柱石は一般にペグマタイトの空隙に密生してゐる。本地產のものには二種の別あり、一は淡靑綠色不透明で六角短柱をなし、最大のものは徑四、五糎に達す。能く發達した結晶面は柱面及び底面である。一は淡靑綠良透明で六角柱狀の結晶を成し徑一、五糎長さ往々一五糎に達する。上述の二面の外錐面等の結晶面稍發達してゐる。就中柱面は最もよく發達し、甚の面上に著しい縱條線があり、短面の現はるゝことは少い。

電氣石

本地に產する電氣石は夙に知られ黑色纖維狀の長柱を成し、或は石英、長石と共生し、徑二糎長さ一〇糎の針狀を成し不透明のものがあり、或は毛大の細針狀で其の長さ一五糎以上に達するものがある。多くは長石、石英、黃寶石等の表面に附着するもので、往々半透明の者がある。從來產出したものは一般に稍太いものと褐色針狀のものとあり、多くは正長石、石英等と共產する。

狼鐵鑛

狼鐵鑛は其產出量甚だ少く僅に徑三糎許の塊又は燕尾狀の双晶が正長石又は石英等の表面に植立す

るのを見る。嘗て三糎に近い結晶の一片で柱面のみ完全なものを採集したことがあつたと云ふ。

モナジット　モナジットも本地に於ける稀有鑛物の一で煙水晶、正長石、黃玉石等の中に包有せられるのを常とする。從來記錄せられたモナジットは結晶の大さ徑六粍に足りない。

錫石　錫石もペグマタイト中に產し、徑五糎內外の殆ど不透明の結晶で煙水晶、白雲母、正長石等と共生する。一般に明瞭な結晶を成すもの多く錐面、柱面最も良く發達してゐるが、單晶少し概ね双晶を成してゐる。其產出量は少いから、製煉の原料に供するに足りない。

脆玉石　脆玉石はベリラムを含む鑛物で透明又は半透明の硬度高い（七、五）帶青白色の極めて脆いものである。昭和六年發見し我國唯の產物である。

南柚鑛泉　草津線深川驛より一、七粁

甲賀郡南柚村鹽野と杉谷とに出る。鹽野は二穿井より各一時間に三石、杉谷は岩罅より一時間に一石二斗湧出、共に殆ど無色透明であるが、氣中に放置すれば漸次溷濁して終に褐色の沈澱を生ずる。味は鹹味を帶びラジュームを含有し弱食鹽泉である。溫度十六度、加熱浴用とする。リューマチス、脚氣、婦人病、呼吸器病等に効がある。

山內村化石　近江線水口驛より一、三粁

甲賀郡山內村大字黑川字中村、同大字山女原字北ケ谷に出る。

中村の化石は黑谷川沿岸の斷崖約六亞に牡蠣の一種の化石を包含してゐる。高さ約二米であらう。長形で幅三乃至四糎、長さ十六、七糎のものであるが往々三十糎以上のものもあるのはながきと稱する型のものであらう。

山女原の化石は字北ケ谷水分線上、海拔約三百米の地で長さ十米、高さ三米半許、含有量頗る豐富である。牡蠣は大いさ二、三糎の小形のもので現存種にはない種類である。

往昔琵琶湖は本郡にまで突入して海水であつたらしく、山內村、鮎川村一帶の是等の化石は、以て當時の痕跡を示すものと云ふべく、亞以て琵琶湖の變遷を語る好資料であるといはねばならぬ。

山內村地方の地質は主として第三紀に屬し砂石、頁岩、礫岩、粘土及び浮石質砂層等の累層より成り、所々に極めて薄い煤炭層を挿み、一般の層位、南北に走り東に傾いてゐる。村の東及び西に南北に長い秩父古生層がある。粘板岩、硅岩、硬砂岩等より成り上記の第三紀層は此層の凹處に沈積したるものである。

別所高師小僧　近江線日野驛より一粁

蒲生郡南比都佐村別所マナクボ谷とうちこし谷とにある。まなくぼ谷は斷崖面九十尺に及び、褐鐵

鑛を含む凝灰質頁岩より成る。その内高師小僧を含有する層は、上底判明するが下底は不明であるから、厚さは不明。しかし露出部分のみでも、厚さ三尺以上、延長八十五尺に及ぶ。なほその北方一、二町の處にもあるから、含有地積は頗る廣大である。高師小僧の大いさは、徑二、三寸のものが普通であるが、大きいのは徑四寸以上に及ぶ。貫入の方向不定。形狀は甘藷形のものが普通である。含有量豐富で、露出面一平方尺に平均一箇である。

うちこし谷は、斷崖面七十八尺。高師小僧含有層は下底不明のため測り難いが、斷崖面に於ける露出部分は幅四尺以上、延長七十四、五尺である。高師小僧は細く徑七、八分乃至一寸内外多數。形狀は圓筒形で枝を有するもの、竹の節の如きものがある。含有量はまなくぼ谷より多く、露出面一平方に平均五、六箇である。

綿向山麓接觸變質地帶

同線日野驛より一三粁途中までバスの便あり

同郡西大路村西明寺所屬綿向山登り口の溪間に見られる。秩父古生層中の石灰岩が花崗岩と接觸して極めて著しい變質作用を起した所がある。其の狀態は滋賀郡五別所の接觸變質に酷似し、石灰岩の殆ど全部大理石に變じ、其の中に珪灰石、ベスーブ石、ヘデンベルグ輝石、柘榴石等の所謂接觸鑛物が介在してゐる。大理石の走向は南北を示し、西に二十度内外傾く。上盤は不明であるが下盤は明かに粘板岩で、之と整合し多少變質したことが認められる。大理石の厚さは少くも十米を下らす、河水に面する部分は凹凸甚だしくて其の組成分中、多少の石灰質のあることが分る。硅灰石は純白色絹糸狀で光澤甚だしく射出纖維集合體を成し、束藁狀を成すこと石山寺の物と殆んど同一で、其の長さ四十粍に達するものがある。

ベスーブ石は暗褐色の細長い柱狀の結晶で集合體を成して產す。四角柱の直徑三粍、長さ十五粍に達するものがあるが、一般に風化して脆く隨つて完全な端面は現れてゐない。

ヘデンベルグ輝石は正確にそれであるか、透輝石であるか、又は兩者の中間種なる類質混體のサーライトであるか確實でないが、青綠色不透明で稍射出纖維狀集合體を成し、往々柱面に並行の劈開面を現はす部分と淡綠色普通の集合體の部分とがある。

柘榴石は赤褐色のものも介在するが其の量は僅少である。

鎌掛屏風岩

同線日野驛より九粁

蒲生郡鎌掛村字瀧谷俗稱石切場にある。正法寺山と城山との間を流るゝ瀧谷川を東すること凡そ三百米、川の左岸城山に平板狀の大岩石が露出し屏風岩と稱せられる。長さ三十米、幅約九米、厚さ五、五米あり、岩石の上層は粘板岩で下層は硅岩である。硅岩は淡青色より鼠色をなすもの幅二糎

乃至三糎の厚さで交互に層を成す。

附近の地質を考察すると正法寺、城山は現今瀧谷川で分離されてゐるが、岩質は共に古生層硅岩を主とし粘板岩を伴ふ。走向、傾斜稍亂れてゐるが、何れも屏風岩の連帶であると認められる。殊に屏風岩の東南側に連る岩層の如きは全く同一の走向が認められる。古來此等の珪岩を取り出し、人工的に破壞して分離したものであることは明かである。

屏風岩の下盤は川の下流に露出したものから推察して珪岩なることが知られ、是によつて上盤より下盤を通算すると頗る厚きもので百米を下るまいと思はれる。

上二俣鐵鑛泉

八日市鐵道飛行場驛より九粁
途中までバスの便あり

蒲生郡市原村大字上二俣字藤ノ木の田の畦畔にある方四尺、深六尺の野井戸で鐵臭强くて飲むにたへない。萬延年間藩主が療養に使用せられた。明治四十四年東京衛生試驗所に檢定を請うた所、療養泉に適する弱鋼鐵泉で浴用、營養不良、諸種疾病の恢復期、生殖器病、神經痛に有効といふ。

琵琶湖底藍鐵鑛

大津より湖上九粁
太湖汽船沖島港

蒲生郡島村大字沖島の西岸、北方石切場を距る西方約二百米餘の處より稍南西、西方に偏し長數百米に亘る地域である。その底質は細砂と指頭大の礫を主とし、しゞみ、いしがひが棲息して、水深は十尋に及ぶ。こゝに藍鐵鑛を產出する。

藍鐵鑛は水底に存在するが砂粒及び指頭大の礫上に凝着し、初めは點々斑をなして附着するが、後には石の全面を被覆して厚さ數粍を越ゆる外被を成す。一部褐鐵鑛と成つたものもある。此の地域は貝類の饒產する地帶で漁夫は地曳網を用ひて、しゞみ、いしがひ等を捕獲するが、其の中に介殼の全形を保有した儘で藍鐵鑛に變質したものを交へる。

琵琶湖底褐鐵鑛

大津より湖上九粁
太港汽船沖島港

蒲生郡島村大字沖島南西約二里餘の古來鰉岩と呼ばるゝ鰉の漁場で、東西約四十米、南北約十米の地域である。水深八米。水底は砂泥に指頭大の礫を混ずる。しゞみ、いしがひ等の貝類及びしやじくもが生育し其間一面に大小無數の褐鐵鑛がある。

褐鐵鑛は藍鐵鑛と共に大正四年川村多實二氏の發見したものである。沈澱鑛物として藍鐵鑛と共に成因、生物と底質との關係を究むるに上に重要なものである。

化石林

近江線八日市驛より一〇粁

愛知郡西小椋村外地先愛知川岸に在る。延長七百廿尺、第四紀砂礫層に被はれた第三紀頁岩の露出部に含まれて居る。この沿岸所々に現はれてゐるが、最も著名なのは此處に露出するもので、すべて直立し、そのあるものは柱頭を水面に現はし、あるものは岸に樹立のまゝである。多數の破片（大なるものは約一坪大）上流より流れ來つて河中に横たはる。材は松、杉、樅で、六十平方尺に約一株平均にあり、舊いものが押し流されゝば新なものが代つて現れる。この地方では古來「岩木」と稱して夏季蚊クスベに用ひる。

風穴及び「ドリネ」　同線多賀驛より二、七粁

犬上郡大瀧村佐目に在る。風穴は佐目川の南岩露出石岩洞で口は西南に開く。洞内高さ四尺乃至十六尺、幅十六尺乃至三十尺。奥程次第に低く約三百尺で斷崖となり下ることできない。洞の全長不明。鐘乳石、石筍はとり去られたが、洞内數ケ所の支洞には大きいものがある。

ドリネは字ロクロ木山林四十八町歩内に大小二十散在。之を此地でニイリと云ふ。此の地一帶は石灰岩でなつてをるから、雨水其龜裂に滲入遂に洞穴となり、次第に地面陷落して噴火孔狀、圓形、楕圓形、漏斗、擂鉢狀等となるのである。今主なるものを擧げれば

一、中こばの「ドリネ」　四箇楕圓形中段を有する者等徑五〇米乃至一〇〇米、深さ二〇米、何れも畑地に存し之に杉苗を植栽してをる。

二、久右衞門の「ドリネ」　楕圓形にして「カルスト」に屬す、徑五〇米乃至八〇米、深一五六米、西隅最も深くして水を吸ひ込む。百坪餘の畑となつてゐる。

三、櫻の前の「ドリネ」　最大で圓形、徑一〇〇米、深さ一五米、數多の孔隙を存する。

四、「ジヤレ」の馬場「ドリネ」　中こばの南方一〇〇米に在る、楕圓形をなしてゐる。

五、「ジヤレ」の馬場の口「ドリホ」　完全なる圓形桶狀を呈する。「ドリネ」中最底の箇所である。

六、作平の「ドリネ」　東方二〇〇米、最高部の「ドリネ」で楕圓形漏斗狀を呈する。

七、新「ドリネ」　陣屋山の東端、高室山西南の裾に存する。最近生じたものである。

八、杉「ボリエ」　杉部落の一谷は東西一五〇米、南北四〇〇米の楕圓形窪地で一種の「ボリエ」をなしてゐる。其の狀恰も長門國秋吉臺の太田町に似て居る。

以上の現象は本邦に於て稀に見る所で本縣には固より類例がない。

風穴　同線土田驛より九粁

同郡芹谷村河内に在つて山腹南東に洞口を開く。高さ三尺三寸、幅五尺、洞内は入るに從つて低く傾斜をなし、口より三十尺の所は高さ十二尺、幅十六尺、同百八十尺の所は高さ二十尺、幅六十尺、

約六十間の所は最も低く、これより稍西に向ふ下底に河あつて穴の下部を横ぎり流れてをる。それより十間の所は最も廣く中央に大岩石横たはり、或ひは突出して二階の狀を呈する。鐘乳石、石筍の小なるもの無數に存する。洞の長さ約百二十間、その奥は三小洞に分れて入られない。洞口より麓まで一面に小石の堆積するは大雨の際河水が溢出する爲である。大正十一年縣保勝會標石建設。

佛岩　同線土田驛より九粁

前の風穴の上三町に在る。露出の石灰岩の一部淺い岩窟を形成し、絶えず水滴つて巨大の鐘乳岩塊となり、それが石佛と見れら、又乳房の觀もあれば乳岩ともいふ。

「ドリネ」　東海道線彦根驛より八粁

阪田郡鳥居本村武奈男鬼山中に在る。此地で之をマイリといふ。その大きいは水汲、兄ダンスケスカ窪である。

鏡肌　同線彦根驛より六、五粁

同村佛生寺に在る。硅岩長さ十尺五寸、幅九尺、露出四十五度の傾で西北に面し、その表は中央部稍凸出、摩擦を受けて滑澤その名がある。

竪穴　同線醒井驛より二粁

同郡息長村多和田兜黛山頂の東南に在る。石灰岩の水蝕作用で縱龜裂に水の滲入次第に擴張されたのである。

方解石　同線醒井驛より一、七粁

同郡醒井村下丹生の路傍に在る。石灰岩の方廿四尺大の露出で全體粗粒であるが、之を破壞すれば方解石の美晶が得られる。

動物

比叡山鳥類　江若線日吉驛より山麓日吉社へ二粁　京津電車線坂本、ケーブルの便あり

滋賀郡坂本村大字坂本比叡山は古來天台宗靈刹の地として著名なるのみならず、また近畿地方に於ける鳥類棲息地として紀州高野山と共に有名である。こゝに棲息する鳥類には、候鳥、留鳥を合す

れば種屬に於て又個體數に於て實に多數を算し、特に深山性の珍鳥も此地に產する。又秋季渡來するツグミ、シロハラ、マミチヤウヂナイ等の小禽類は大群をなして、シベリア黑龍江方面より遙か日本海を橫斷して石川、富山の諸縣に達し、更に南下して我湖西地方へ飛來するものゝ樣である。此の時季に達すれば、全山恰も一大禽園の觀を呈する。尙此地に棲息する鳥類は約七十餘種に達しその細目を分類して示すと次の通りである。

鴉　科　カケス、ミヤマカケス、ホシガラス、
椋鳥科　ムクドリ、
雀　科　スズメ、ホホジロ、マヒワ、カハラヒワ、
鶺鴒科　キセキレイ、セグロセキレイ、ビンズキ、
繡眼兒科　メジロ、
木走科　キバシリ、
五十雀科　ゴジウガラ、
四十雀科　シジウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、エナガ、コガラ、
鵐　科　モズ、チゴモズ、
鶯　科　ヒヨドリ、
山椒喰科　サンセウクヒ、
鶺　科　サンクワウテフ、コサメヒタキ、キビタキ、オホルリ、
鶯　科　ヤブサメ、ウグヒス、メボソ、センダイムシクヒ、キクイタダキ、
鶫　科　トラツグミ、クロツムギ、ママジロ、コマドリ、コルリ、ジヤウビタキ、アカハラ、
鶺鴒科　ミソサザイ、カハカラス、
燕　科　ツバメ、コシアカツバメ、
雨燕科　アマツバメ、
怪鳥科　ヨタカ、
佛法僧科　ブツポウソウ、
翡翠科　アカセウビン、
啄木鳥科　アカゲラ、アヲゲラ、コゲラ、
杜鵑科　クワクコウ、ホトトギス、ツツドリ、ジウイチ、
梟鴞科　アヲバヅク、フクロウ、
鷲鷹科　コノリ、ツミ、イヌワシ、
鳩鴿科　キジバト、アヲバト、

鴉　科　ヤマシギ、
雉　科　キジ、ヤマドリ、

珍鳥と稱すべきものは、ブツポウソウ、コマドリ、ホトトギス類。

是れ實に產業上將又鳥類研究上重要なる山地なるを以て、大正十三年五月國設禁獵區の設定を受けたが、なほ斯る鳥類棲息地帶は年々比叡山の開發事業に脅かされ、漸次其種屬の減少を見る故に、更に昭和五年十月此の地を天然紀念物保護法により指定せられた。

全山中鳥類の棲息地點としては大講堂附近、瑠璃堂附近、黑谷青龍寺附近の鬱蒼たる樹間には樹々の枝に鳴禽類多く棲息し、横川、黑谷間はホトトギス類の棲息地として知られ、淨土院附近の枯木にはキツツキ類多く棲息する。殊に面白いのは釋迦堂の柱穴を利用して四十雀が巢を營み、オホルリが青龍寺の掛額の裏に營巢せるが如き、實に珍らしい事である。

守山源氏螢發生地　東海道線守山驛より〇、三粁

野洲郡守山町を通ずる養水路守山川、金森川、伊勢戸川、中戸川、吉見井川、カリマツカ川に螢の發生夥しく、明治三十三年理學博士渡瀨庄三郎氏の調査で有名となつた。概ね源氏螢で、印度に產するものゝ變種に屬し、東洋に廣く分布し、我國各地に棲息する。守山螢は雌の體長二糎餘に達するものもあり、源氏螢としては至大のものであらう。發生の時期は年により遲速あるが、早い年には五月初め發生し、最終は七月上旬であるが、盛期は五月下旬から六月下旬にかけてゞある。大正十三年十二月天然紀念物に指定されて、發生期間は青年團の事業として捕獲を防止し、又毎年二籠づゝを畏きあたりへ獻上する。なほ此の地方には平家螢、窓螢も發生する。此の地區外で捕へて石山、宇治、京都、大阪、東京等へ販出する業者が八戸もある。

源氏螢は此の地の他に又、愛知郡愛知川町中宿、長野、川原、沓掛に亘る三台寺川、新川、東道寺川、大井寺川にも夥しく發生し、保勝會を設け、保護してゐる。

天野川源氏螢發生地　東海道線近江長岡驛より〇、三粁

阪田郡東黑田村大字長岡天野川堤防である。その發生地は川の左右兩岸一帶で、左岸は東黑田村大字長岡字大井地先、右岸は東黑田村大字長岡字丸內、及び正常地先で、天野、彌高兩川の合流點を中心として上流へ五十間、下流へ六百間の間である。此の川の流水は水量豐富、水淸く水草よく繁茂し、源氏螢の食餌たるカハニナも又至る所に棲息し、螢の繁殖地としては實に天惠の地である。此地の源氏螢は、發育最も良好、成虫の體長約二糎餘に達して居る。此地は古來源氏螢の發生地として古くより世人に知られ、發生の全盛期（全盛期は毎年六月五日頃より六月二十四、五日頃迄で

ある）には一夜に約二三千匹の大群あらはれ、所謂螢合戰をなして非常な美觀を呈するが、近來漸次濫獲するもの多く、同地方では大正十五年以來長岡保勝會を設け、同地青年團員をして此れが保護の任に當らしめて居る。尙ほ長岡保勝會は昭和三年御大典記念として天野川螢一籠を　照宮成子內親王殿下に献上し、爾來本年に至る七回献上御採納あらせらるゝの光榮を有してゐる。

伊吹螢　同驛より伊吹村へ六、五粁　同驛より伊吹村までバスの便あり

同郡伊吹山頂に發生する一種で、大正八年七月、本山彦一氏が採收した新種で、理學博士松村松年氏の命名にかゝる。その特徴は小楯板の暗色で、周圍の淡紅色であることである。大いさは雄が體長二分三厘乃至三分二、三厘で、横徑一分二厘內外。頭部は前胸に比して稍大形、兩側に大なる複眼がある。觸角は十一節で暗黑色、細毛があり、前胸背は淡紅色で前緣の中央に不正圓形の暗黑紋がある。前緣の前角は四味を帶びてゐるが、後角は稍突起狀態を呈し、小楯板は暗黑色で兩側の淡紅褐色を見せてゐる。翅鞘は黑色淺い點刻を存し、後翅は淡黑色。脚は長くなく暗黑色であるが、股節は多少淡黃褐色を呈する。跗節は五節より成り、第四節は二裂片の狀態をなし、爪は黃褐色、腹部は暗褐。腹面の關節五節明かで、末端の二節は黃白色を呈してゐるのか發光する部分である。本類に類似するものにはヒメボタル、平家螢がある。而して最も酷似するヒメボタルの小楯板は全部淡紅色であるが、本種は暗黑色で周圍淡紅色なので別種とし、新に命名されたのである。

イサザ

イサザは琵琶湖特產の魚類で、ハゼ科に屬する小魚である。頭大きく、口濶く、體は淡褐色を呈し、背部に淡黑色の微細な小點が散布して居り、表皮は薄く半透明、體長約十糎ばかりある。滋賀、高島、東淺井、犬上の各郡沖合及沖島の沖合に多く、就中高島郡沖合に特に多い。水深二十米內外の砂泥質の水底に棲息し、春季溫暖となるに從ひ湖岸の淺所に接近して來る。九月より翌春三月迄手繰網を使用して漁獲する。年產額十五萬瓩に達し冬季漁獲物中の主要なものである。

コアユ

アユは一般に河川に生れて一度海中に下り、再び河川に溯上して產卵するものである。然るに琵琶湖のコアユは海に下ることなく陸封せられたもので、そのため退化して小形となり、全くその變種となつたものであると考へられ、大鮎にはならぬものとせられて居た。ところが理學博士石川千代松氏の研究により、これを硅藻等食餌の豐富なる河川に放流すれば大點となることが發見せられてから年々縣內の各河川は勿論他府縣の河川へ移殖せられ、近時はこれが配給事業は縣營となつた。

アユがかく多量に生産することは他に比類のないことで、そのため榮養不良となり、小鮎となつたもので、その點で琵琶湖のコアユは有名である。

コアユは沿湖一圓に產するけれど高島郡及滋賀郡北部に多く產し、晩秋より初春に亘つて漁獲されるものを「氷魚（ヒウヲ）」と稱し體殆んど無色透明である。體長六糎に達する頃から漸次黑變して成體となる。年產額七八十萬瓩に達し地曳網で捕へる。湖魚中生產額の最も多きもので、尙ほ大形魚類の食餌ともなり琵琶湖水產上重要なるものである。

尙琵琶湖魚の中で有名なものに「源五郎鮒」があるがこれは湖中のフナの一品種である。

ナガタニシ

本縣に產するタニシ科の貝類はマルタニシ、オホダニシ、ナガタニシの三種で、ナガタニシは琵琶湖の特產である。ナガタニシは他のタニシに比して螺塔高いから此の名がある。殼質比較的厚く、體層小、肩角は稍鋭い。螺層は五個あるが、螺頂は普通一個欠損するのが普通である。表面褐色乃至黑褐色で、體高六糎內外である。湖中一圓に產し水深數米乃至三、四十米位の沿岸の泥底の所に棲息する。

このほかミヂンマメタニシ、ミヂンスヂマメタニシ、ビハコヒラマキミヅマイマイ、ハシモトカヒ、アフミガヒ等は琵琶湖又はその水系の特產である。

ハリウヲ

巢を營む魚として有名なトゲウヲは本邦に產するもの二屬ある。背鰭に三本の棘を有するイトウヲ屬と、同八本以上のトミヨ屬とが是であるが、本縣に產するものは皆前者卽ちイトウヲ屬の中のハリウヲである。ハリウヲは體側の小板不完全なることより同屬のイトウヲと區別（イトウヲは體側の小板完全にして尾柄に及ぶ）し前記背鰭に三本の棘を有するほか胸鰭と腹鰭に各一對づゝ全部で七本の棘がある。これは勿論防禦の器官で平生はこれを伏せて居るが敵にあふとこれを立てる。本縣では東淺井、阪田、犬上、蒲生、野洲、栗太の諸郡の泉水、涌水ある池及それ等より流出する溝渠に多い。

官幣社、本山、門
跡、御由緒寺院

夕鐘はふもとに鳴りぬ白くもの
結界のうへにかすかに聞ゆる

—中　村　憲　吉

官幣社

日吉神社

江若線日吉驛より一粁
京津電車線坂本

滋賀郡阪本村阪本にある。官幣大社。延喜式では名神、大社に列せられてゐた。祭神は西殿に大山咋神、東殿に大巳貴神。本來は大山咋神のみで、古事記に「大山咋神亦名山末之大主神、此神者坐近淡海國之日枝山、亦坐葛野之松尾用鳴鏑神者也」と見え、大巳貴神は天智天皇の御代に大和の三輪から移祀したのである。境内には主なる神社として上七社（東西本殿を含む）、中七社、下七社がある。延暦寺と密接不離の關係を保ち、爲に山徒が訴へる時には、當社の神輿を奉じて武裝して京に入り、朝廷に強請したことは史上有名である。後三條天皇以來屢々行幸啓を仰いだが、延元元年には正月に二旬、五月以降に半歳と、再度まで後醍醐天皇を境内大宮彼岸所に迎へて賊軍に對する強き砦となつたことがある。尊雲、尊澄兩法親王の據られた八王子も神域の内である。神域の幽邃、まことにたぐひ稀であり、内に並ぶ各社殿には國寶建築に指定せらるゝもの多い。神域入口に並んで大宮川上に架せらるゝ三橋（石造）は豐臣氏の建設になり、上流の東照宮橋と共に國寶に指

定せらる。後醍醐天皇行在所條參照。

建部神社

東海道線石山驛より一、八粁
京津電車線唐橋前
石山驛よりバスの便あり

栗太郡瀬田町大字神領にある。官幣大社。延喜式では名神大社に列せられてゐる。祭神日本武尊。姓氏錄によると、犬上朝臣も、建部公も共に、日本武尊から出たのであるが、兩子孫は本縣神崎、犬上兩郡に住して居たことが明かであり、その關係で建部神社は始め神崎郡建部に鎭座せられてゐたのである。それが天武天皇の白鳳四年四月に現在の地に移座あり、つゞいて近江一宮とせられた。社前の石燈は重要美術品指定。神域附近は國府阯と推定せらる。

御上神社

東海道線野洲驛より三粁

野洲郡三上村にある。官幣中社。延喜式では名神大社に列せられ、月次新嘗の案上官幣に預つた。祭神は天之御影命。この神の御女は息長水依比賣といふが、その息長は本縣の地名であるから此神の御末裔が本縣に住し、その祖神を齋きまつゝたのであらう。國寶建築多し。

多賀神社

近江線多賀驛より〇、五粁

犬上郡多賀村大字多賀にある。官幣大社。延喜式では小社であつた。祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命の二柱。古事記にも「伊邪那岐大神者生淡海之多賀也」と見え、遠い上代にその鎭座があつたことが知られる。伊勢と並び稱せられて歷朝の尊信厚く、古來延壽延命の靈驗ありとして信仰せられ、崇敬者全國に汎く、講社の參拜が多い。中世以降度々火災にかゝつたが、なほ鎌倉時代以來の古文書を多く保存してゐる。社殿は新築せられたが、その庭園は室町時代の俤を有し、名勝として指定せられた。庭園の條參照。

本山寺院

園城寺

東海道線大津驛より二粁
京津電車線三井寺下

大津市別所にある。天台宗寺門派總本山、初め弘文天皇の皇子大友與多王の草創に係るといひ、年久しくして廢頹せる頃、天台僧智證大師(圓珍)が再興を企て、貞觀元年九月に工成る。村上天皇皇孫永圓僧正以來貴顯の當寺に住し給ふこと多く、寺基漸く確立したが、また他面天台宗に於ける慈覺派との抗爭により燒却せらるゝこと數十回、その度每寺觀を恢復してゐる。現存伽藍は慶長三年豐公北政所の復建以來の建立に成る。子院二十四ケ院。國寶、建造物等頗る多い。境內觀音堂は西

國三十三所の第十四番に當る。名勝湖南勝區、庭園、暖地性植物群落條參照。

延　曆　寺

ケーブル根本中堂驛より根本中堂へ〇、七粁

滋賀郡阪本村阪本にある。天台宗總本山。延曆七年傳教大師が山頂に一宇を創建して比江山寺と號し、一乘止觀院と名けたことに創まる。これが今の根本中堂である。やがて平安京が現京都市の地に營まるゝや、艮位に當る當山は鎭護國家の靈場とせられ、つゞいて弘仁十四年二月（大師入寂の翌年）には寺號を年號に配して比江山寺を改めて延曆寺と賜ふた。爾來その法系に慈覺、智證等の名匠あらはれ、坊院堂塔の建立相嗣ぎ、僧衆また從つて多く、聖俗の勢力牢固たるものがあつた。かくして一面に於ては法義探求の心深く、平安時代末に榮西、源空、親鸞、日蓮の傑僧相前後して當山より出で各々一宗を開いたのであるが、他面には僧徒の跋扈漸く甚しく、事を構ふること頻りであつた。嘉曆以降、尊雲、尊澄法親王の入山あり、續いて建武、延元の亂には後醍醐天皇の行幸を忝うし、全山の力を以て玉體を護衛しまいらせた。後、元龜二年僧徒は朝倉氏を援けたため、織田氏の兵燹に罹り、一山殆んど滅亡の悲運に遭遇したが、天正十二年、全宗、詮舜等秀吉に請うて一山を再興し、又寛永年中、德川家光により堂宇僧房を改修せられた。是等は現存して國寶となれるもの少くない。全山左の如く分たれる。

三塔
- 東塔（止觀院）　東谷、南谷、西谷、北谷、無動寺谷
- 西塔（寶幢院）（別所）　東谷、南谷、北谷、南尾、北尾
- 横川（首楞嚴院）（別所）　黑谷　兜率谷、香芳谷、飯室谷、般若谷、戒心谷、解脫谷　安樂律院

——建武中興史蹟、鳥類蕃殖地、山岳條參照——

西　教　寺

江若線日吉驛より一、七粁
京津電車線阪本

同村字西教寺。天台宗眞盛派總本山。初め聖德太子が推古天皇の命により高麗貢經使惠慈、惠澄二師の爲に當寺を興し、大窪山の勅號を賜うた事に本寺の創立があるといひ、次いで天智天皇の八年に丈六彌陀の尊像を安置し、西教寺の勅號を下し賜うたと傳へる。延曆三年に至つて桓武天皇は傳教大師に勅して伽藍を再興せしめ、諸大乘經を講演せしめたといひ、後、慈惠大師、源信僧都、更に下つては建武の頃には五帝之戒師慈威和尙の在住があつた。文明年間に至つて頽廢せる當山を興さんとして、黑谷靑龍寺より眞盛上人が請ぜられ、堂舍を重修し、のみならず、宗儀に於ては圓戒稱名の二門を闡揚して、彌陀の本願を賴むと同時に嚴重なる戒律を守らんとする所謂西教寺派を天台の內に一派たらしめたのであつた。元龜二年織田氏の兵燹にかゝつて當時は灰燼に歸したが、天正二年眞源上人等の努力によつて再建、同十八年、京都白河の法勝寺をも合併した。現本堂は舊法

勝寺本殿で伏見城遺構と傳へられる。什寶も多い。

錦織寺

東海道線野洲驛より五粁
守山驛よりバスの便あり

野洲郡中里村木部に在る。淨土眞宗木邊派本山。一に天神護法錦織之寺と稱し、略して錦織寺といふ。もと天安二年、慈覺大師（圓仁）によつて草創せられたが、嘉禎元年四月に關東より歸洛の途にあつた親鸞上人によつて眞宗の念佛道場に改められたといふ。後曆仁元年七月、天女錦織の瑞あり、この錦を四條天皇に献じたるに叡感斜ならず、八月特に天神護法錦織之寺てう勅額を下し賜うたと傳へる。天正と元祿とに回祿。堂塔什寶悉く燒失したが後復建す。

永源寺

近江線八日市驛より一、三粁
同驛よりバスの便あり

愛知郡高野村。臨濟宗永源寺派大本山。近江守護佐々木氏頼（雪江崇永）は沙門寂室元光禪師の高風を慕うてゐたが、一伽藍を草創し飯高山永源寺と號し、康安元年正月に至つて禪師を開山に請ずることを得た。爾來彌天、松嶺、靈仲、越溪等受法の高足相次で後住となり、湖東に法窟の威を振ふこと久しかつた。しかし明應元年、永祿六年、天龜と再三の兵燹にかゝり、伽藍は全く滅亡したのであつて、これは寛永に至つて、別峯、一絲兩禪師の止住を見るに及び、皇室の特別なる外護あり、また井伊家の後援あり、漸次舊に復したのである。今の山號は瑞石山である。寺は愛知川上流右岸にある斷崖上に位し、秋期紅葉の勝地として知られてゐる。

門跡寺院

圓滿院

東海道線大津驛より二粁
京津電車線三井寺下

大津市別所。天台宗寺門派門跡寺院。園城寺塔頭で長吏の住房である。村上天皇第三皇子兵部卿致平親王（法名悟圓）が平等院を創立せられたことに初まり、明尊僧正それを傳領し、殿堂壯麗を極めたが、長久三年延曆寺衆徒のために燒失。併し明尊僧正は關白藤原頼通の信仰を受けて本院を再興し、且つ頼通所建の宇治平等院を兼帶したので、爾來本寺平等院を圓滿院と稱するに至つたのである。後屢々變遷を經たが明治四年に至つて大津縣廳舍となり、明治二十一年に至つて復歸した。縣廳舍であつた間、丁度明治十一年十月に明治天皇の行幸を忝うしたことがある。寺寶に多く圓山應擧の畫を藏し、國寶また多い。宸殿は正保四年に移建せられたもので國寶、また明治天皇聖蹟として史蹟指定。庭園は名勝として指定。

滋賀院

江若線叡山驛より一、二粁
京津電車線阪本

滋賀郡阪本村阪本眞葛ケ原。天台宗門跡寺院。もと洛東白河に在つて法勝寺と稱してゐたが、元和元年後陽成天皇が慈眼大師に高閣一宇を賜ひ、今の地（慈願和尚居住の舊趾）に移して再建せしめられた。明暦元年に至つて後水尾天皇が改めて今の院號を賜つた。慈眼大師以來本宗管領の宮、之を兼務し給ひ爾來、御入道の皇族御住山あれば必ず當院に入り給ふを例とせられた。寺寶木像阿彌陀如來は鎌倉時代の作で國寶。

御由緒寺院

禪智院

江若線大溝驛より四粁

高島郡高島村拜戸。臨濟宗南禪寺派御由緒寺院。寺は後嵯峨院皇子宗尊親王女禪智院宮の開基で、初めから御由緒寺院である。代々尼王が相續せられた。近江尼御所と稱し德川時代には寺領として朱印百二十石を有した。

滋賀縣關係重要年表

時代	天皇	年號（年數）	重要事項	支那
上代	神武	天		
	綏靖	三三		後漢
	安寧	三八		
	懿德	三四		
	孝昭	八五		
	孝安	一〇二		
	孝靈	一五		
	孝元	七六		
	開化	六〇		
	崇神	六八		
	垂仁	九九	三 天日槍近江に入る	
	景行	六〇	五八 帝都を志賀高穴穗に奠む	

上代	成務	六〇	
	仲哀 九		
	應神	二二	二 天皇角鹿に行幸 （神功攝政）元 忍熊王瀨田に敗死す （應神） 六 近江に行幸
	仁德	八七	
	履中	六六	
	反正	六六	
	允恭	四三	七 衣通郎姫坂田を出て大和の朝廷に赴く
	安康	四	三 大泊瀨皇子市邊押磐皇子を來田綿蚊屋野に誘殺す
	雄略	二四	
	清寧	五	
	顯宗	三	六 近江蚊屋野に市邊押磐皇子の墓を築く
代	仁賢	二	
	武烈	九	
	繼體	二五	
		三國	西晉
		東晉五胡	南北朝（北朝＝魏、齊

上代	安閑	五	二 葦浦に屯倉を置く
	宣化 五		
	欽明	三三	
	敏達	一四	四 息長廣媛を皇后に冊立す
	用明	三	
	崇峻	六	一四 鞍作鳥に坂田郡の水田二十町を賜ふ
	推古	三七	一五 小野妹子を隋に遣はす
飛鳥時代	舒明	一三	
	皇極	四	
白鳳時代	孝德	大化 一—五	
		白雉 一—五	
	齊明	七	四 百濟の歸化人を神前郡に置く
	天智	一	六 滋賀大津宮に遷都
		隋	唐
		周	南朝＝宋、齊、梁、陳）

白鳳時代				
弘文天武		一		
持統文武	朱鳥	一		七 天皇淸生郡に狩獵し給ふ
	同	一〇		八 百濟人を淸生郡に置く
		五		十 天皇大津宮に崩御
	大寶	一—三		
	慶雲	一—四		
奈良時代				
元明	同	四		
元正	和銅	一—八		
	靈龜	二—二		
	養老	一—八		
聖武	神龜	一—五	唐	

奈良時代				
孝謙淳仁	天平	一—二〇		
	天平寶字	一		一四 大道を甲賀に通じ、紫香樂に離宮を造る
	同	一—八		一七 甲可宮造營を廢す
	同	二—八		五 保良宮行幸、石山寺造營
稱德	天平神護	一—二		
	同	八		
光仁	寶龜	一—二		
	景雲	一—三		
平安時代				
桓武	同	一		
	天應	一		五 梵釋寺を建つ
	延曆	一—三五	唐	七 最澄比叡山を建つ

平安時代	平城	同	三五	
		大同	一—四	一三　古津を大津と改稱せしむ
				二二一　蒲生郡の行宮に行幸
	嵯峨	同	四	
		弘仁	一—一四	六　辛崎行幸
	淳和	同	一四	一三　比叡山に戒壇建立を勅許す
				一四　比叡寺を延暦寺と稱せしむ
		天長	一—一〇	
	仁明	同	一〇	
		承和	一—一四	
		嘉祥	一—三	
	文德	同	三	
		仁壽	一—三	
唐				

平安時代	清和	齊衡	一—三	
		天安	一—二	
		同	二	
	陽成	貞觀	一—一八	
		同	一八	
	光孝	元慶	一—八	
		同	八	
	宇多	仁和	一—三	
		同	三—四	
	醍醐	寛平	一—九	六　金勝寺に四社の年分度者を置く
		同	九	
		昌泰	一—三	
		延喜	一—三	
		延長	一—八	
	朱雀	同	八	
唐				
五代				

代	時	安	平
	圓融	冷泉	村上

承平	一七	
天慶	一九	
同	九	
天曆	一〇	
天德	一四	
應和	一三	
康保	一四	
同	四	
安和	一二	
同	二	
天祿	一三	
天延	一三	
貞元	一二	
天元	一五	
永觀	一二	

五代	北宋

代	時	安	平
後一條	三條		一條	花山

同	二	
寛和	一二	
同	二	
永延	一二	
永祚	一	
正曆	一五	四 圓珍門下分離して園城寺に入る
長德	一四	
長保	一五	
寛弘	一八	
同	八	
長和	一五	
同	五	
寛仁	一四	
治安	一三	
萬壽	一四	

宋	北

代				
平安時代	後朱雀	長元	一—九	
		同	九	九　近江の百姓陽明門に抵り愁訴す
		長暦	一—三	三　日吉社を二十二社に加ふ
		長久	一—四	
		寛德	一—二	
	後冷泉	同	二	
		永承	一—七	
		天喜	一—五	
		康平	一—七	
		治暦	一—四	
	後三條	同	四	
		延久	一—四	
	白河	同	四—五	
		承保	一—三	
		承暦	一—四	
北宋				

代				
平安時代	堀河	永保	一—三	
		應德	一—三	元　山徒寺門を燒く
		同	三	
		寛治	一—七	
		嘉保	一—二	
	鳥羽	永長	一	
		承德	一—二	
		康和	一—五	
		長治	一—二	
		嘉承	一—二	
		同	二	
		天仁	一—二	
		天永	一—三	
		永久	一—五	元　山門興福寺と兵を構ふ
		元永	一—二	
北宋				

代				
平安時代	崇德	保安	一—四	二 山徒寺門を燒く
		同	四	
		天治	一—二	
		大治	一—五	
		天承	一	
		長承	一—三	
		保延	一—二	六 山徒寺門を燒く
	近衛	永治	一	
		同	一	
		康治	一—二	
		天養	一	
		久安	一—六	三 山門平忠盛父子を嗷訴す
		仁平	一—三	
		久壽	一—二	
	後白河	同	二	
				北宋
				南宋

代				
平安時代	二條	保元	一—三	
		同	三	
		平治	一	
		永曆	一	
		應保	一—二	
		長寛	一—二	元 山徒寺門を燒く
	六條	永萬	一	
		同	一	
	高倉	仁安	一—三	
		同	三	
		嘉應	一—二	元 山門藤原成親を嗷訴す
		承安	三—四	
		安元	一—二	
		治承	一—四	元 山門藤原師高を嗷訴す
	安德	同	四	四 平重衡園城寺を燒く
				南宋

時代				
平安時代	後鳥羽	養和	一	
		壽永	一—四	三　源義仲粟津に戰死す
		同	二	
		元暦	一	
		文治	一	
		同	二—五	
鎌倉時代	土御門	建久	一—九	二　山門守護佐々木定綱父子を訴ふ
		同	九	
		正治	一—二	
		建仁	一—三	三　山門內訌、定綱の兵八王子城を攻む
		元久	一—二	三　山門燒く
		建永	一	
		承元	一—四	
	順德	同	四	
		建暦	一—二	
南宋				

時代				
鎌倉時代	仲恭	建保	一—六	元　山門興福寺と爭ひ中堂を閉して下山す
	後堀河	承久	一—三	二　山門寺門を燒く
		同	三	
		同	三	
		貞應	一—二	
		元仁	一	
		嘉祿	一—二	
		安貞	一—二	元　山門衆徒大谷源空の墳墓を破却す
		寛喜	一—三	
	四條	貞永	一	元　竹生島燒く
		同	一	
		天福	一	
		文暦	一	
		嘉禎	一—三	元　山門守護信綱父子を訴ふ
南宋				

代	時			
鎌倉	後嵯峨	曆仁	一	
		延應	一	
		仁治	一—三	
		同	三	
		寛元	一—四	
	後深草	同	四	
		寶治	一—二	
		建長	一—七	
		康元	一	
		正嘉	一—二	
		正元	一	
	亀山	同	一	
		文應	一	
		弘長	一—三	
		文永	一—一一	元　山門燒く、山徒寺門を燒く
南宋				

代	時			
鎌倉	後宇多	同	二	
		建治	一—三	
		弘安	一—一〇	
	伏見	同	一〇	
		正應	一—五	
		永仁	一—六	
	後伏見	同	六	山門燒く、奥島庄民庄官を彈劾す
		正安	一—三	
	後二條	同	三	
		乾元	一	
		嘉元	一—三	
		德治	一—三	
	花園	延慶	一—三	
		應長	一	
		正和	一—五	
元				

鎌倉時代			
後醍醐	文保	一―二	
	同	二	日吉山王社燒く、尊雲法親王梶井に入る
	元應	一―二	元　山門衆徒寺門を燒く
	元亨	一―三	
	正中	一―二	
	嘉曆	一―三	
	元德	一―三	
	元弘	一―三	三　北條仲時等番場に自殺す、五辻宮多賀社に奉賽す
吉野時代			
（光嚴）	（正慶）		
	建武	一―二	
（光明）	延元	一―四	元　後醍醐天皇坂本行幸
後村上	（曆應）		
	同	四	
	興國	一―六	九　尊氏車駕を武佐寺に奉す
（崇光）	正平	一―三	

吉野時代			
（後光嚴）	（觀應）		
	（文和）		
	（延文）		
	（康安）		
	（貞治）		
	（應安）		
長慶	正平	三―二四	（正平）二二　山門衆徒禁中に亂暴す
	建德	一―二	
（後圓融）	文中	一―三	
	天授	一―六	
	（永和）		
	（康曆）		
（後小松）	弘和	一―三	
	（永德）		
後龜山	同	三	
明			

吉野時代			
後小松	元中	一—九	
	(至德)		
	(嘉慶)		
	(康應)		
	(明德)		
	元中	九	
	明德	四	
	應永	一—一九	元 義滿日吉に詣づ
			三 義滿山門に詣づ
			一〇 義滿寺門に詣づ
			一二 義滿葛川參籠
			一三 義滿石山寺に詣づ

室町時代			
稱光	同	一九—三四	
後花園	正長	一	
	同	一	

明

室町・時代			
後土御門	永享	一—一三	元 義教日吉に詣づ
			五 幕兵山門を攻む
			七 根本中堂燒く
	嘉吉	一—三	元 坂本の馬借一撥洛中を攻む
			三 尊秀王山門に據る
	文安	一—五	
	寶德	一—三	
	享德	一—三	
	康正	一—二	
	長祿	一—三	
	寬正	一—五	六 蓮如近江に逃る
	同	五—六	
	文正	一	
	應仁	一—二	元 識蘆庵成る
	文明	一—一八	一二 根本中堂燒く

明

室町・時代			
	長享	一―二	
	延德	一―三	
	明應	一―九	四　馬借日吉十禪師を燒く
			八　細川氏の兵山門を燒く
後柏原	同	九	
	文龜	一―三	
	永正	一―一七	八　義澄岡山城に薨ず
	大永	一―六	
後奈良	同	六―七	元　義晴朽木に入る
	享祿	一―四	元　義晴桑實寺に入る
	天文	一―二三	一九　義晴穴生に薨ず
正親町	弘治	一―三	二二　義輝朽木に入る
	同	三	
明			

室町時代			
安土桃山時代			
後陽成	永祿	一―二	
	元龜	一―三	一一　觀音寺城落城
			元　姉川の役、淺井朝倉聯合軍坂本に入る
			二　信長叡山を燒く
			三　信長小谷城を攻む
	天正	一―一四	三　信長瀨田橋を架す
			四　安土築城を始む
			五　安土城下掟を出す
			七　安土宗論
			八　宣教師に安土城下の地を與ふ
			一〇　安土城燒く、日吉山王假殿成る
			一一　秀吉、柴田勝豐を長濱城に降す、賤ヶ岳の役
			一七　山門諸堂の假建築殆んど成る
			一九　一般に檢地す
	同	一四―一九	
	文祿	一―四	
明			

江戸時代	後水尾	慶長 一一六	四 寺門缺所
		同 一六一九	五 大津城攻撃、佐和山城、水口城陥る
		元和 一一九	六 井伊直政佐和山に封ぜらる
		寛永 一一六	八 彦根の築城を初む
	明正	同 六一二〇	一七 山門諸堂落成
	後光明	同 二〇	二〇 一絲永源寺に入る
		正保 一一四	
		慶安 一一四	元 中江藤樹歿す
		承應 一一三	四 本多氏膳所藩に入部す
	後西	同 三	
明			
清			

江戸時代	靈元	明暦 一一三	
		萬治 一一三	
		寛文 一一三	二 安曇川筋大地震
		同 三一二	一〇 初めて瀬田川を浚渫す
		延寶 一一八	
		天和 一一三	
	東山	貞享 一一四	
		同 四	
		元祿 一一一	九 大洞辨天を建つ
	中御門	寶永 一一六	
		同 六一七	
		正德 一一五	
	櫻町	享保 一一二〇	
		同 二〇	
		元文 一一五	
清			

代			
江戸時代	桃園	寛保	一一三
		延享	一一四
		同	四
		寛延	一一三
		寶暦	一一二
	後櫻町	同	二一一三
		明和	一一七
	後桃園	同	七一八
		安永	一一八
	光格	同	八一九
		天明	一一八
		寛政	一一二
		享和	一一三
	仁孝	文化	一一四
		同	一四
			元 膳所藩一揆
清			

代			
江戸時代	孝明	文政	一一二
		天保	一一四
		弘化	一一三
		同	三一四
		嘉永	一一六
		安政	一一六
		萬延	一
		文久	一一三
		元治	一
		慶應	一一三
		同	三
現代	明治	明治	一一四五
			元 膳所藩志士を處刑す
			元 大津裁判所を置く、大津縣と改む、明治天皇御東幸通御
			四 日吉神社を官幣大社に列す、長濱大津縣を置く
			五 滋賀縣を置く
清			

現代			清	中華民國
今上	大正	大正一—一五	八	膳所城を破壞す、一番丸湖上を通航す、歩兵第九聯隊を大津に置く
昭和			一二	初めて縣會を開く
			二一	滋賀縣廳落成
			二三	疏水通渠
			二四	露國皇太子大津に於て凶變
			三二	建部神社官幣大社に列す
			四一	南郷洗堰成る
			四二	姉川流域震災
			三	多賀神社官幣大社に列せらる
			六	大正天皇彦根大本營に行幸
			一〇	八日市に飛行隊を置く
			一一	英國皇太子湖上御遊覽
			一三	瀬田橋架換成る、御上神社官幣中社に列せらる
			三	今上天皇御即位大嘗祭悠紀田を本縣に卜定せらる

縣内史蹟名勝天然紀念物指定項目

―指定年月日順―

茶臼山古墳	史	大津市膳所	大正十年三月
小茶臼山古墳			
三雲村美松自生地	天	甲賀郡三雲村	同
南花澤ノ花ノ木	同	愛知郡東押立村	同
北花澤ノ花ノ木	同	同	同
藤樹書院趾	史	高島郡青柳村	大正十一年三月
石山寺硅灰石	天	大津市石山町	同
西大路村左卷榧	同	蒲生郡西大路村	大正十一年十月
源氏螢發生地	同	野洲郡守山町 栗太郡物部村	大正十三年十二月
紫香樂宮趾	史	甲賀郡雲井村	大正十五年十月
廢少菩提寺石多寶塔及石佛	同	甲賀郡岩根村	同

安土城趾	史	蒲生郡安土村	大正十五年十月
了德寺ノ御葉附銀杏	天	神崎郡能登川村	昭和四年十二月
醒井ノ不斷櫻	同	阪田郡醒井村	昭和五年二月
竹生島	名、史	阪田郡醒井村	昭和五年二月
比叡山鳥類蕃殖地	天	東淺井郡竹生村	昭和五年七月
北畠具行墓	史	滋賀郡坂本村（京都府にも跨る）	昭和五年十月
鎌掛谷ほんしやくなげ群落	天	阪田郡柏原村	昭和五年十一月
海津大崎	名	蒲生郡鎌掛村	昭和六年三月
清瀧寺京極家墓所	史	高島郡海津村	同
雄松崎湖岸	第二類、名	阪田郡柏原村	昭和七年三月
明治天皇土山行在所	史	滋賀郡小松村	昭和八年二月
明治天皇六地藏御小休所	同	甲賀郡土山町	昭和八年十一月
延暦寺境内	同	栗太郡葉山村	同
明治天皇別所行幸所	同	滋賀郡坂本村（京都府にも跨る）	昭和九年三月
		大津市別所	昭和九年十一月

明治天皇草津行幸所	史	栗太郡草津町	昭和九年十一月
圓滿院庭園	名、史	大津市別所	昭和九年十二月
光淨院庭園	同	同	同
善法院庭園	同	同	同
淨信寺庭園	名	伊香郡木之本町	同
大通寺含山軒及蘭亭庭園	同	阪田郡長濱町	同
青岸寺庭園	同	同　米原町	同
胡宮神社々務所庭園	同	犬上郡多賀村	同
明治天皇木之本行在所	史	伊香郡木之本町	昭和十年十一月
明治天皇高宮行在所	同	犬上郡高宮町	同
明治天皇柳ヶ瀬行在所	同	高島郡片岡村	同
明治天皇長濱行在所	同	阪田郡長濱町	同
明治天皇武佐行在所	同	蒲生郡武佐村	同
明治天皇鳥井川御小休所	同	大津市石山町	同

明治天皇長澤御小休所	同	阪田郡法性寺村	昭和十年十一月
明治天皇愛知川御小休所	史	愛知郡愛知川町	同
明治天皇北町屋御小休所	同	神崎郡旭村	同
明治天皇中之郷御小休所	同	伊香郡余吳村	同
舊秀隣寺庭園	名	高島郡朽木村	昭和十年十二月

縣内史蹟名勝天然紀念物假指定項目

湖南勝區	名	大津市	大正十年八月
狛阪寺址	史	栗太郡金勝村	大正十三年一月
志賀宮址並崇福寺址傳說地	同	大津市滋賀里	昭和三年十月
醒井峽谷	名	阪田郡醒井村	昭和十年八月
垂水頓宮傳說地	史	甲賀郡大野村	昭和十年十一月
瓢箪山古墳	同	蒲生郡安土村	同
大吉寺址	同	東淺井郡上草野村	昭和十年十二月

史蹟名勝天然紀念物郡市町村別一覽

△大津市

舊大津市

長等山前陵 一 道寛法親王墓 一 永悟法親王墓 一 明治天皇行在所 一 同御小休所 一三 同行幸所 一三 大津城址 二九 關寺址 二三六 フェノロサー墓 一六三 新羅義光墓 一六三 智證大師廟 一六三 慶祚阿闍梨廟 一六三 小野、石原代官墓 一六四 若林强齋墓 一六四 木曾義仲墓 一六四 芭蕉翁墓 一六五 龍ケ岡俳人墓 一六六 逢坂山及逢坂關址 一八一 逢坂山車石出土地 一八一 牛塔 一八二 藤尾石佛 一八二 湖南勝區 一九七 近江八景 一九九 圓滿院庭園 二〇九 光淨院庭園 二〇九 善法院庭園 二〇九 逢坂山アフサカザサ自生地 二二五 三井寺暖地性植物群落 二二六 琵琶湖特產魚類 二七一 園城寺 二七七 圓滿院 二八一

舊膳所町

明治天皇錦御小休所址 一三 茶臼山及小茶臼山古墳 五五 本多社石棺 五六 膳所城址 二二〇 今井兼平墓 一六六 粟津古戰場 一八二 杉浦重剛宅址 一八三

舊石山町

保良宮址 四 明治天皇石山行在所 一四 同御小休所及址 一四 同石山寺行幸所 一五 石山寺銅鐸出土地 三 寺邊銅鐸出土地 三 國分古墳 五六 國分寺址 一三七 淳裕內供墓 一六六 惡源太義平墓 一六七 幻住庵址 一八三 石山寺硅灰岩 二四七

舊滋賀村

大津宮址 三 錦織町、磨石斧、石鏃、石劍、彌生式土器 二八 南滋賀、打石鏃、磨石斧、子持勾玉彌生式土

器　二九　滋賀里磨石斧、磨石鏃　三〇　崇福寺境内銅
鐸出土地　三〇　甕形土器出土地　三七　百穴　三七　倭
神社古墳（赤塚）　三八　崇福寺阯　三七　梵釋寺阯　三九
滋賀ノリ　二七　千石岩　二四八　接觸變質地帶　二四九

◬滋賀郡

下坂本村

木岡陵傳説地　二　阪本城阯　二一〇　森可成墓　一六七
建武中興漆葉阯　一八三　唐崎松　二一八　新唐崎松　二一八

坂本村

高穴穗宮阯　四　後醍醐天皇行在所阯　七　天神山
打石鏃　三三　穴太古墳　六〇　裳立山古墳群　六〇　日
吉社古墳群　六一　梶井門跡阯　一四二　梨本門跡阯　一四三
天海僧正墓　一六八　紀貫之墓　一六八　傳教大師廟　一六八
眞盛上人廟　一六九　明智光秀墓　一六九　建武中興遺蹟延
曆寺境内　一八三　叡山に於ける諸宗開祖修學遺跡　一八四
比叡山經塚　一八五　山王山經塚　一八五　比叡山　二〇三　茶
樹　二一九　比叡山鳥類　二六五　日吉神社　二七五　延曆寺
二七六　西教寺　二七九　滋賀院　二八二

雄琴村

苗鹿古墳群　六一　給旨欅　二一九　ウランエックス鑛土
二五〇　ラヂウム鑛泉　二五〇

堅田町

勾當内侍墓　一六九　浮御堂　二〇〇

眞野村

春日山古墳群　六一　越路古墳群　六二　曼荼羅山古
墳　六二

伊香立村

化石林　二五一

和邇村

小野神社古墳　六二　石釜古墳群　六三　道風社古墳群
六三　唐臼山　六三　ゼニハラ古墳　六四　エンド古墳　六五
大塚山古墳　六五　五鈷出土地　一八五

木戸村

志賀清林墓　一七〇　比良山　二〇四

小松村

鵜川古墳群　六七　白鬚社古墳　六八　四十八體古墳　六八
雄松崎　二〇〇

◬栗太郡

瀬田町

明治天皇瀬田御小休所　一五　瀬田石槍、石劍、石鏃、
石棒　三三　南大萱古墳　七一　瀬田城阯　二二　瀬田廢
寺阯　一四三　舊東光寺阯　一四三　建部神社　二七六

上田上村

新免古墳　七〇　陵山古墳　七一　石居寺阯　一四四　和銅
開珍出土地　一八六

下田上村

羽栗古墳　六九　里村古墳　七〇　枝村古墳　七〇　米淅
鹿跳　二二三　同甌穴　二五一　田上山鑛物　二五三

大石村

大石氏邸阯　一三一　富川磨崖佛　一八六　大瀧　二〇七

金勝村

龍王古墳　七六　井上古墳　七七　善勝寺石棺　七七　狐
阪寺阯　一四四

葉山村

明治天皇梅木御小休所　一六　亀塚古墳　七九　六地藏
古墳　七九　金山古墳群　八〇

治田村

小槻大社古墳群　七四　灰塚山古墳　七四　笹谷古墳　七四
安養寺古墳　七五　下戸山窯阯　一六〇　老牛馬養生所
阯　一八六

志津村

山寺古墳群　七三　追分古墳　七三　小槻社古墳群　七三
青地城阯　一三

草津町

明治天皇草津行在所　一五

老上村

南田山古墳　七二　瓢箪山古墳　七二　野路玉川　一八七
食蟲植物群落　二一九　鬼蓮　二二〇

山田村

若松社古墳　七七　五條古墳　七六　木内石亭邸阯　一三三

常盤村

中村、石斧石劍　三三　志那銅鐸出土地　三三　志那石鏃　三四　北大萱彌生式土器　三四　片岡石斧、分銅形石斧　三四　下物石庖丁、石斧　三五　伊岐志呂社古墳群　七六　伊岐代城阯　二三四　安國寺阯　二四五、下寺廢寺阯　二四五　花摘寺阯　二四五　橘寺阯　二四六　大般若寺阯　二四六　舊寶光寺阯　二四六　上寺廢寺阯　二四六

大寶村
大寶神社石斧　三三

物部村
女天神社古墳　七六　松塚古墳　七六　木内石亭墓　二七〇
一里塚　二八七

◬野洲郡

野洲町
小篠原銅鐸出土地　三五　櫻生古墳　八〇　越前塚　八四
福林寺阯　二四七

三上村
三上山下出土古鏡　八八　悠紀齋田阯　二八七　妙光寺磨崖佛　二八八　ヒメユヅリハ　三三　御上神社　二七六

篠原村
明治天皇篠原御小休所阯　一七　平宗盛墓　一七〇

小津村
小津神社石棺

中里村
中里古墳　八六　錦織寺　二八〇

祇王村
明治天皇辻町御小休所阯　一七　富波古墳　八五　大塚山古墳　八六　永源寺御殿阯　二三四　祇王井　二八八

守山町
明治天皇守山御小休所　一六　大塚　八六　寺山古墳　八七
益須寺阯　一四七　源氏螢發生　二六八

河西村
多頭運　三三

中洲村
新庄銅鐸出土地　三七　ハマゴウ　三二

◬甲賀郡

石部町
明治天皇石部行在所阯　一七　同水害狀況天覽所　一八
王塚　八八　遠藤良規墓　一七二

三雲村
明治天皇三雲御小休所阯　一八　針古墳群　八八　狐塚　八九　三雲塚穴　八九　酒人山古墳群　九〇　藤原藤房卿遺阯　一七一　美松自生地　三三

岩根村
山神古墳　九〇　寺屋敷古墳　九〇　塚山　九一　寒谷古墳群　九一　塚の越　九一　大谷古墳群　九二　少菩提寺阯　一四八　不動寺磨崖佛　一八九

柏木村
塚越　九二　山中氏邸阯　二三六

伴谷村
鑵子塚　九二

北枇杷村
アナツコ　九四　高山古墳群　九五　笠杉　三四

南枇杷村
鑛泉　二五六

貴生川村
川田山古墳　九三　宇川古墳　九三

水口町
明治天皇水口行在所及阯　一八　水口城阯　二三五　岡山城阯　二三五

大野村
垂水頓宮阯傳說地　七　明治天皇大野御小休所　一九

佐山村
岩室古墳　九六

土山村
明治天皇土山行在所及阯　一九

山内村
明治天皇猪鼻御小休所阯　二〇　貝類化石　二五六

油日村
躑躅山　三四

雲井村
紫香樂宮阯 五 勅旨古墳 九六 飯道寺阯 一四九 木食上人墓 一七二 高野槇 三三四
信樂町
穴窯 一六〇
小原村
近衞家墓 一七二 小川磨崖佛 一八九
朝宮村
仙禪寺磨崖佛 一八九 茶樹 三三五
多羅尾村
近衞櫻 三三五

◬蒲生郡

島村
磨石斧、石鏃、彌生式土器 四〇 松ケ崎 二〇一 伊崎 二〇一 ムベ 二〇一 伊崎暖地性植物群落 二三二 湖底藍鐵鑛 二六〇 湖底褐鐵鑛 二六一
岡山村
船木廢寺阯 一五二 水莖岡 二〇〇
八幡町
八幡城阯 二二七
安土村
瓢箪山古墳 一〇〇 安土城阯 二二七 觀音寺城阯 二二九 織田信長廟 一七三
武佐村
後光嚴天皇行在所 八 明治天皇武佐行在所 二 花の木 二三〇
平田村
平田古墳群 九七
市邊村
市邊押羽皇子墓 二 布施古墳 九八 布施池水生及濕地性植物群落 二三八
玉緒村
玉緒窯阯 一六一
東櫻谷村
妙樂寺阯 一五〇 鬼室集斯墓 一七三
市原村
鐵鑛泉 二六〇
西大路村
音羽古墳 九六 音羽城阯 二二六 左卷槇 三三六 接觸變質地帶 二二八
鎌掛村
ホンシヤクナゲ群落 三二七 マルバノキ群落 三二七 正法寺の藤 三二八 屏風岩 二五九
南比都佐村
高師小僧 二七七
北比都佐村
內池打石鏃彌生式土器 二五 岡城彌生式土器 二五
金折山窯阯 一六一
朝日野村
宮川廢寺阯 一四九 宮井廢寺阯 一四九
櫻川村
木村石鏃 二五 ケンサイ塚 九八 綺田廢寺阯 一五〇 石塔寺石塔 一九〇
苗村
天神山岩屋 九七 雪野寺阯 一五〇
鏡山村
大正天皇鏡山御野立所 二六 山面石槍 二八 山面銅鐸出土地 二六 鏡山古墳 九八 八重谷古墳 九八 雲觀寺阯 一五二 鏡山窯阯 一六一 奥東江墓 一七三 西光寺阯寶篋印塔 一九〇
馬淵村
供養塚古墳 九九 倉橋部廢寺阯 一五一 千僧供廢寺阯 一五一
桐原村
御車塚 九九 安養寺阯 一五二

◬神崎郡

能登川村
伊庭御殿阯 一五〇
五峰村
勝堂岩窟 二〇二 佐野古墳 二〇二 猪子廢寺阯 一五二 佐

野廢寺阯　一五三
八幡村
西郡社古墳　一〇一　亀塚　一〇一　小川廢寺阯　一五三
南五箇莊村
正璃寺古墳　一〇二　川並古墳　一〇三　さがみど古墳　一〇三
旭村
明治天皇北町屋御小休所　二一　百々矢社古墳　一〇三
狐塚　一〇四　伊野部古墳　一〇四　箕作城阯　一二〇
建部村
大塚　一〇四　上日吉古墳　一〇五　瓦屋寺山古墳群　一〇六
伊庭村
北山古墳　一〇〇　八王子道古墳　一〇一
御園村
池田古墳　一〇六

◬愛知郡

高野村
永源寺楓林　二一三　永源寺　二六〇
東小椋村
藤谷瀧　二〇七　君ケ畑杉　二三三
西小椋村
上岸本古墳群　一〇七　鮫江城阯　一三一　化石林　二六一
角井村
八ノ塚古墳群　一〇七　坊主谷窯阯　二六一
東押立村
祇園石鏃　四〇　平柳古墳群　一〇七　花の木　二三一
西押立村
勝堂古墳　一〇六
八木莊村
長塚古墳　一〇八　狐塚　一〇八　妙園寺阯　一五四　野々目廢寺阯　一五五　えちよ塚　一七四
秦川村
石斧　四〇　宮前古墳群　一〇八　目加田廢寺阯　一五四　輕野廢寺阯　一五四
豊國村
畑田廢寺阯　一五五
日枝村
高野瀬城阯　一二〇　連理樫樹　二三三
愛知川町
明治天皇愛知川御小休所　二一　山塚　一〇九
稻枝村
稻村山古墳　一〇九
稻村
荒神山古墳群　一〇九　屋中寺阯　一五五
葉枝見村
普光寺阯　一五六

◬犬上郡

彦根町
大正天皇彦根行在所阯　二七　彦根城　一三一
青波村
佐和山城阯　一三一　清涼寺南天　二三五
千本村
大正天皇亀甲山御野立所　二七　鞍掛山（鳥籠山）　一九一
高宮町
明治天皇高宮行在所　二一　高宮廢寺阯　一五七
多賀村
後光嚴天皇行在所阯　九　敏滿寺阯　一五七　胡宮神社々務所庭園　二一〇　多賀神社奥書院庭園　二一〇　多賀神社　二六六
大瀧村
富尾瀧　二〇七　大見放山レンゲツツジ群落地　二二四　風穴及ドリネ　二六一
芹谷村
靈山フクジュサウ自生地　二二五　風穴　二六三　佛岩　二六四
西甲良村
藤　二二四
豊郷村
後光嚴天皇行在所阯　八
日夏村
宇曾川櫻　二二四
亀山村

大正天皇茂賀岡御野立所　二七
磯田村
多景島　二〇二
福浦村
彌生式土器　四一　竹鼻廢寺阯　一五八

△阪田郡

鳥居本村
明治天皇鳥居本御小休所　三三　ドリネ　二六四　鏡肌　二六四
米原町
明治天皇米原御小休所阯　三三　磯古墳　一二　朝妻港阯　一九二　青岸寺庭園　二一〇
息郷村
明治天皇番場御小休所　三三　北條仲時及從士四百餘人墓　一三四
息長村
山津照社古墳　一〇九　竪穴　二六五
日撫村

人塚山　一二
醒井村
明治天皇醒井御小休所　三三　下丹生古墳　一一〇　居窟泉　一九一　醒井神籠石樣列石　一九二　靈山　一〇五　醒井峽谷　三三四　御葉附イテフ　二三六　不斷櫻　三三八　方解石　二六五
柏原村
明治天皇柏原行在所阯　三三　柏原石劍　四一　大野木石斧石鏃　四一　京極氏墓　一七五　北畠具行卿墓　一七五　寢物語　一九二　永明寺の五葉松　二四一　清瀧の柏槇　二四一
東黑田村
欅及イテフ　二三九　源氏螢發生地　二六九
西黑田村
布施古墳　一二
法性寺村
明治天皇長澤御小休所　二四
大原村
息長陵　二
春照村

上平寺石斧　四三　杉澤石斧、石棒、奇石器、石鏃、石劍石臼、石杵、團子石、彌生式土器　四三　山階石鉾　四六
上平寺邸阯　一三四
伊吹村
光嚴天皇行在所阯　九　石劍形石棒、石斧、石鏃、繩紋土器　四三　上平城阯　一三四　太平寺城阯　一三五　伊吹山寺阯　一五八　伊吹山　二〇五　伊吹山植物群落　三三九　姉川クラゲ　二四一　伊吹螢　二七〇
北郷里村
上阪城阯　一三四
神照村
山階石鉾　四六
長濱町
明治天皇長濱行在所及阯　二四　彌生式土器　四六　長濱城阯　一三五　大通寺含山軒及蘭亭庭園　三一

△東淺井郡

上草野村
石棒　四九　甕形土器出土地　一二三　大吉寺阯　一三九　覺道上人入定窟　一七六
東草野村
下板並石斧　四九
下草野村
繩紋土器　四九　塚原古墳群　一二
田根村
瓜生石斧、石棒　五〇　高畠石斧　五一　大人塚　一二三　宮山古墳　一二三　小堀氏墓　一七六　藤　二四三
小谷村
丁野古墳　一二三　飯喰山古墳　一二四　小谷城阯　一三五
大郷村
明治天皇曾根御小休所　二五
速見村
明治天皇速見御小休所　二五　陣ノ森　一九三
湯田村
亀塚　一三　八島廢寺阯　一五九　姉川古戰場　一九二
虎姫村

慈惠大師母墓　一七七
朝日村
尾上磨石劍、石斧、彌生式土器、繩紋土器　四七
竹生村
竹生島　二〇三　銀木犀　二四二

△伊香郡

古保利村
松尾古墳　一二五　ヒメ塚　一二五
伊香具村
賤ヶ嶽古戰場　一九四　キリシマ及サツキ　二四四
木之本町
明治天皇木之本行在所　二五　黑田古墳群　一二五　淨信寺庭園　二二一　茶樹　二四三
高時村
石棒、砥石、石斧、石鏃、錘石、繩紋土器　五一　環石、石棒　五二　百聞山古墳　一二四　栗谷古墳　一二四　三ッ塚　一二四　石田三成母墓　一七八
北富永村
芳洲書院　一九三
片岡村
明治天皇柳ヶ瀨行在所　二六　毛受兄弟墓　一七八
余吳村
明治天皇中之郷御小休所　二六　中川清秀墓　一七八

△高島郡

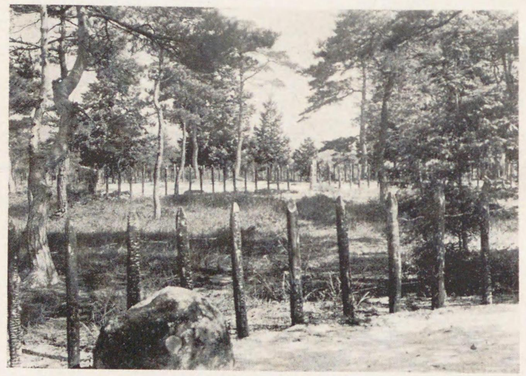
海津村
松平大貳灰塚　一七九　大崎　二〇一
劍熊村
劍熊關阯　一九四
西庄村
牧野古墳群　一二六　御塚　一二六　銚子瀧　二〇八　三國山寒地性植物群落　二四五
川上村
大塚　一二六　三重山寒地性植物群落　二四六
百瀨村
森西古墳群　一二六
今津町
葦積古墳　一二七　岡山古墳　一二七
饗庭村
松　二四六
新儀村
綱齋書院　一九五
青柳村
中江藤樹墓　一七九　藤樹書院阯　一九五　藤　二四六
安曇村
彥主人王墓傳說地　二　胞衣塚　一二七　鶴塚　一八〇
水尾村
稻荷山古墳　一二八
朽木村
拔塚　一二八　朽木邸阯　一三六　舊秀隣寺庭園　二二一　朽木溪谷　二二四
高島村
拜戸古墳群　一二八　禪智院　二八二
大溝町
近藤守重墓　一七九
本庄村
白石　二〇三

圖

版

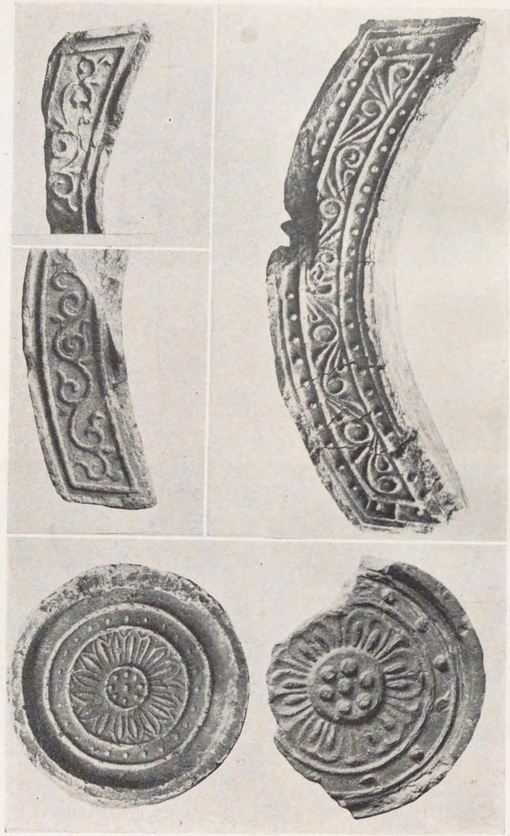
圖版第一　紫香樂宮阯

紫香樂宮阯



同上（講堂阯）

圖版第二　紫香樂宮阯出土古瓦



紫香樂宮阯出土蓮瓦及軒瓦

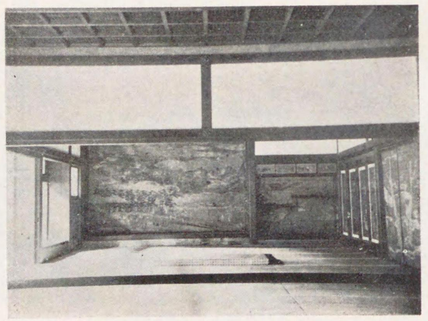
圖版第三　垂水頓宮阯

垂水頓宮阯全景

垂水頓宮阯

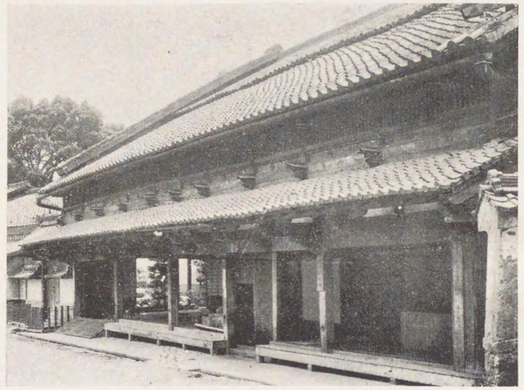
圖版第四　後醍醐天皇及明治天皇聖蹟

後醍醐天皇日吉行在所
（大宮後鼻所）



明治天皇圓滿院御座所
（所幸行所別定指月一十年九和昭）

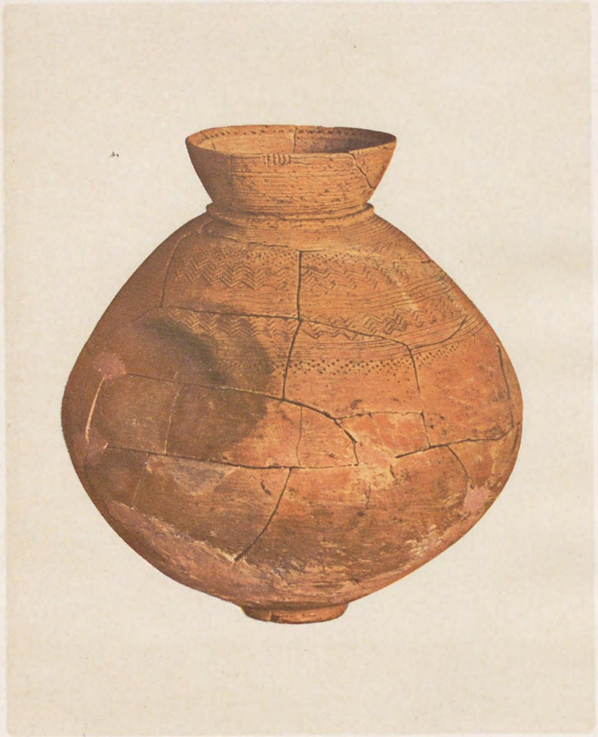
圖版第五　明治天皇聖蹟



明治天皇六地藏御小休所
（定指月一十年八和昭）

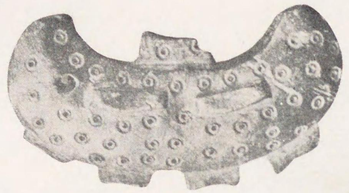
明治天皇長濱行在所（慶雲館）
（定指月一十年十和昭）

圖版第六　南滋賀出土彌生式土器



南滋賀出土彌生式土器

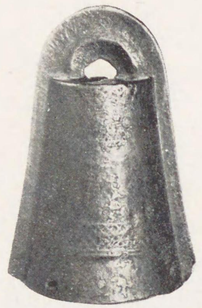
圖版第七　南滋賀出土遺物

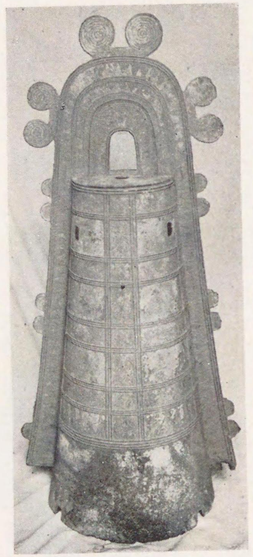


南滋賀出土子持勾玉

南滋賀出土彌生式土器

圖版第八　志那及石山寺邊出土銅鐸





（上）志那出土銅鐸（津田鎮成氏藏）

（下）石山寺邊出土銅鐸（石山寺藏）

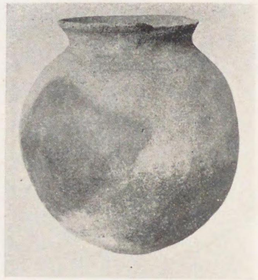
圖版第九　小篠原及山面出土銅鐸

（上）山面出土銅鐸

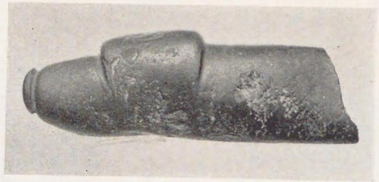
（下）小篠原出土銅鐸

圖版第第一〇　杉澤石器、土器及山階石器

斧石頭多澤杉



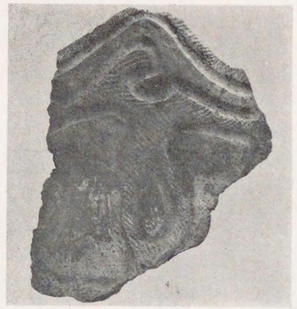
器土式生彌澤杉



杉澤奇石器

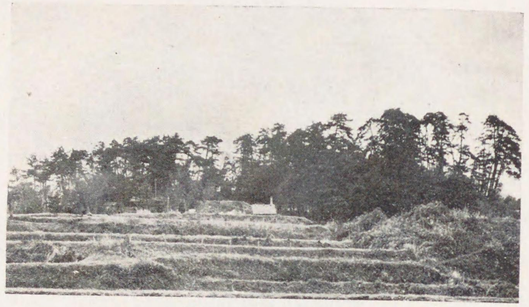
鉆石階山

圖版第一一　尾上發見土器

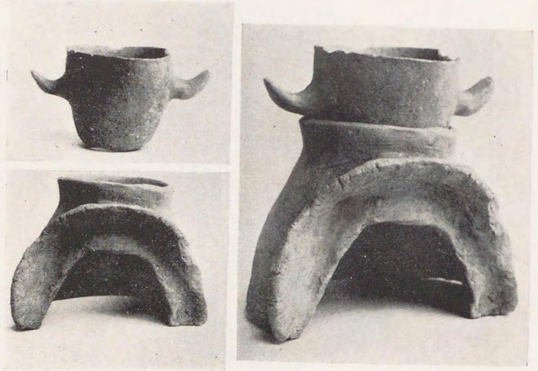


尾上湖底發見繩文土器

圖版第一二　茶臼山古墳及赤塚出土品

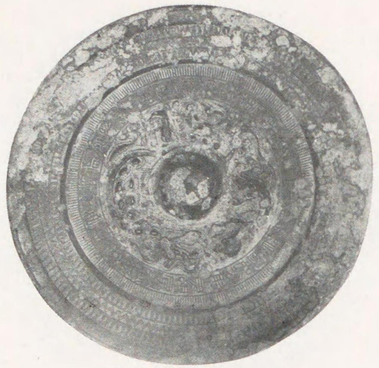


茶臼山古墳全景



赤塚出土釜形土器及甕形土器

圖版第一三　大塚及南大萱古墳出土古鏡



大塚古墳出土青蓋盤龍鏡
（京都博物館保管）

南大萱古墳出土四神四獸鏡
（東京帝室博物館藏）